

明治八年

太政官日誌

從第壹號  
至第四十號

和書門			
一	二	三	四
五	六	七	八
九	十	十一	十二
冊	架	函	號

内閣文庫	
和	三
架	八
函	九
冊	五

内閣文庫	
番號和	12891
冊數	59( 55 )
函號	165 185

五十五



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

太政官日誌明治八年第一號

○一月一日

午前第五時四方拜其式略之

同時賢所 皇靈 神殿御祭典其式略之

同第八時 聖上皇后宮正殿 = 出御三職及ヒ院省使廳府縣在京勅任

官 朝拜其式略之

同時ヨリ九 院省使廳府縣在京奏任官宮内省へ參賀

同第九時親王屬香間詰華族 朝拜其式略之

同時ヨリ十 在京有位華族宮内省へ參賀

同第十時在京判任官各廳へ參賀

同時各國公使及ヒ其書記官等内宮ニ於テ 朝拜英國公使各國公使總

代トシテ賀正表ヲ上ル

新年ノ佳辰ニ際シ貴國在留各國公使等誠心以テ 陛下ヲ祝シ平安親昵ノ交誼ヲ 陛下ノ各國ト保有シ給ヘルヲ歡喜シ本年ニ於ル殊ニ貴國臣民盛昌繁榮ニシテ 陛下並 皇后陛下ノ益幸福ナランヲヲ期望ス

勅語

新年ノ佳辰ニ方リテ各友國ノ公使ヨリ誠意ノ祝詞ヲ述ヘラル、欣喜ノ至リナリ各友國ノ君主及ヒ大統領ニモ皆無恙新禧ノ祝賀ヲ迎ヘラレンコトヲ祈念ス卿等モ不相替無事ニテ越年珍重ノ事ニ候禮畢テ各退出ス此日公使ノ席次左ノ如シ 布哇國代理公使及ヒ西班牙國代理公使勤方兩名不參各國書記官姓名ハ略之

大不列顛國特命全權公使

ハルリー エスパークス

伊太利國特命全權公使

コントアレサンドロフエ

法朗西國特命全權公使

ジフキ ペルトミー

米利堅合衆國特命全權公使

シヨン エビンハム

獨逸國辦理公使

エム フオンブラン

荷蘭國兼瑞典那威國辦理公使

兼丁抹國代任公使

フオン ウエグヘルリン

白耳義國辨理公使

シデ グロート

奧地利國辨理公使

シワリエ デ シッフル

露西亞國辨理公使

スツル ウエ

秘魯國代理公使

ゼー エフエルモール

午後第二時院省使御雇外國人在東京奏任以上ニ准スヘキ者宮内省へ

參賀

本日午前第九時 三職以下勅任官及同第十時 親王屬香間詰華族等 皇太后宮

へ拜賀

○一月二日

午前第八時 賢所 皇靈 神殿御祭典其式略之

○一月三日

午前第八時 賢所以下御祭典其式前日ニ同シ

同第九時元始祭 賢所 皇靈 神殿 御親祭三職及ヒ院省使廳府縣

勅任官祇候其式略之

同第十一時 賢所 皇靈 神殿へ 皇太后宮皇后宮御拜



太政官日誌明治八年第二號

○一月四日

午前九時正院へ臨御三職以下諸省使東京府等長官參列ス奏聞左

ノ如シ其式略之

式部頭

神宮之條

祭主申昨年中神事無異之事

賀茂神社之條

上下神社大宮司申神事無異之事

氷川神社之條

大宮司申年頭祭恒祭無異之事

上日本地誌提要表

少内史兼地理寮五等出仕正六位臣明毅等恭シク 旨ヲ承ケ日本地誌提要ヲ纂修シ成テ告ク謹テ表ヲ奉リ上進スル者伏テ以ミルニ國ヲ體シ疆ヲ畫スルハ治ヲ施スノ本ナリ官ヲ建テ職ヲ分ツハ化ヲ成ス之方ナリ維昔 神皇基ヲ創メ聲教漸ク被ムリ蜻洲謳歌シテ率服シ 列聖緒ヲ續キ威令ノ加ハル所躒域梯航シテ來底セリ 大化大寶已還古ヲ誓ヘ今ニ準シ宜ヲ酌ミ俗ニ因リ道國郡ヲ建テ、地ヲ經シ和庸調ヲ頒テ以テ民ニ賦ス國司郡領守牧ノ任ニ充テ府帥鎮將干城之兵ヲ養ヒ政謚カニ刑措キ年豐カニ穀饒ナリ夫唯一盛一衰泰アリ否有リ餘倉ヨリ室町ニ泊ヒ武人跋扈シテ綱紀大ニ壞レ天步艱難干戈相尋キ霸者踵テ起リ時少康ニ屬スルモ王風未タ競ハス世大綏

ニ昏ク土地人民ハ牧伯占メテ已ノ有トナシ憲章禮典モ朝廷徒ニ虛文ヲ講セリ恭シク惟レハ 天皇陛下英姿天挺偉畧神授德ヲ 難波ノ代ニ燦ヘ功ヲ 滋賀之朝ニ配ス藩封已ニ撤シ重離徧ク海寓ヲ照シ縣制維レ新ナリ萬姓同ク 聖明ヲ仰ク流鬼鬻鄉之俗咸ナ覆育ノ恩ヲ蒙ムリ蝦夷卉服ノ民均シク生成之澤ニ浴ス茲ニ於テ乎 一統之業已ニ復シ 中興ノ治斯ニ隆ナリ臣生レテ 聖世ニ逢ヒ身史官ニ備ハリ寓縣混并ノ鴻休安ソ紀セサルヲ得ンヤ方輿一同之盛典豈修ムル無カル可ンヤ爰ニ傳記ヲ紬繹シ輿圖ヲ研參シ地方ニ咨諏シテ疑ヲ剖キ謬ヲ糾シ曹員ヲ振飾シテ課ヲ分テ成ヲ責メ凡其纂修スル所疆域ヲ辨シ形勢ヲ考ヘ風俗ヲ舉ケ沿革ヲ論シ大ハ則戸口貢租縣治軍鎮次ハ則山嶽河渠都邑郵驛ヨリ以テ金礦温泉方物土産ニ

及マテ旁ク求メ博ク采リ臚列具陳シテ以テ一書ヲ勒成ス名ケテ曰  
本地誌提要ト曰フ卷タル凡七十有七夫豈敢テ謂ハシヤ皇猷之萬  
一ヲ贊襄セント庶幾クハ以テ盛治ヲ無窮ニ照耀スルニ足ラン伏  
テ願クハ萬機ノ餘暇頼ニ乙夜之御覽ヲ賜ハンヲ臣聞ク封菲采  
ル可ク替刷棄ツル靡シト安ンソ知ランヤ海嶽之高深ハ消塵ノ微末  
ニ取ル無キヲ謹テ表ヲ奉リ上進シテ以テ聞ス

明治八年一月四日

少内史兼地理寮五等出仕正六位臣塚本明毅

謹按スルニ歴世經國ノ典制度文物ノ美秩然不紊然觀ルヘキモ  
ノハ職トシテ記録ノ存スルニ之レ由ル臣等不肖叨リニ臺閣ノ末ニ  
列シ乏ヲ記録課ニ承ク常ニ責任ノ効アラヌシテ曠職ノ罪ヲ免レサ

ランコヲ恐ル曩者祝融毒ヲ逞シ簿書悉ク烏有ニ屬ス於是大ニ公文  
ヲ諸官府ニ徴シ丁卯維新ノ年ヨリ起リ蒐輯網羅シ簿書粗備ル乃チ  
僚屬ト謀リ典例格式ニ係ル者ヲ採リ類ヲ分チ編纂シ題シテ太政類  
典ト云フ其檢索考證ニ便ナラシメン爲メ門部ヲ大別シテ二十五ト  
ナシ部中又一百餘ニ細別シ每事綱ヲ提ケ目ヲ列チ詔勅布令ヨリ拓  
地育民ノ事ニ至ルマテ凡太政ノ沿革細大具載セサルナシ庶幾クハ  
維新以降咸熙ノ庶績秩序齊然文獻考徵ノ裨益アラント今ヤ明治  
四年ヨリ六年ニ係ルモノ二百九十九卷繕寫始成ル乃チ謹テ叡覽ニ  
供ス且別ニ官省府縣ノ申牒ヲ輯メ編年纂次シ題シテ公文錄ト云フ  
既ニ成ルモノ若干卷他日太政類典全ク成ルヲ待チ併セテ進呈セン  
トス臣等責任ノ萬一ヲ償フニ足ラスト雖モ幸ニ萬機ノ暇乙夜ノ覽



ヲ賜ハ、臣等僚屬ト實ニ感荷ノ至リニ堪ヘス臣弘毅等誠恐誠惶頓首謹言

明治八年一月四日 大外史從五位中村 弘毅

權大外史正六位作間一介

○ 各國交際如今親睦ニ至リ爾後更ニ信義ヲ海外ニ脩ムルハ施政上ノ要務ニシテ乃 皇國隆盛ノ休徵タルヲ不容疑

外務卿 寺島宗則謹白

○ 內務卿臣大久保利通代理內務大丞臣林友幸謹白客歲本省創置以來日タル猶淺ク而シテ内外事アリ臣利通屢命ヲ奉シ外ニ在リ專ラ省

務ヲ調理スル能ハス然レトモ各主任ノ勉勵ニ依リ百事稍緒ニ就ク者アリ爰ニ諸寮ノ申告スル所ヲ併セ以テ上奏ス其事細大アリト雖モ要スルニ皆國家ノ慶祥人民ノ康福ニ係ル亦以テ民知漸ク開ケ性德日ニ新ニ物力曾存シ生産饒足ノ兆トスルニ足ル此固ヨリ 陛下宵旰勵精圖治ノ致ス所臣何ノ力カ之有シ伏惟ニ方今戒嚴漸ク弛ミ衆庶業ニ安ンス當サニ大ニ内治ヲ整ヘ以テ人民和平ノ氣象ヲ保全シ國家治安ノ根基ヲ堅固ニスヘシ臣及ハスト雖モ欽命委任ノ事務當サニ奮勵力ヲ竭シ以テ擔保ノ責ニ任スヘシ謹ンテ此事ヲ奏シ以テ 陛下無窮ノ慶福ヲ祈ル臣誠恐誠惶頓首

明治八年一月四日 內務卿大久保利通代理

內務大丞林 友幸

太政大臣三條實美殿

○  
秀治謹白ス昨明治七年第一月勸業寮ヲ置セラレ農工商ノ諸業ヲ勸  
獎シ全國ノ物産ヲ蕃殖セシメ内外ノ貿易ヲ開暢セシムルノ重任ヲ  
負ヒ夙夜匪懈其事務ヲ舉ケ以テ盛意ニ對ヘント欲ス然リト雖モ當  
寮管掌ノ事務ハ開明ノ度ト人智ノ量トヲ較考シ實際ノ景況ニ據テ  
取捨施設將來ノ目途ヲ立永遠ノ洪益ヲ起スヲ主トス故ニ日月ノ久  
シキヲ不經ハ其成績ヲ奏スル能ハス今ヤ實際試験ノ業ニ從事シ内  
外ノ草木獸畜ヲ培植シ絹綿ノ良絲ヲ製出シ其他親シク試験ノ功ヲ  
舉ケ以テ全國ニ推廣シ他日ノ洪益ヲ起サンヲ期ス茲ニ堺製絲場ニ  
於テハ客歲新ニ五座ノ良器ヲ購求増置シテ紡績ノ進歩ヲ證ス又新

宿支廳試驗場ニ於テハ歐米各國ニ産スル良種ノ獸畜ヲ養牧シ漸ク  
蕃息ノ功アルヲ保ス是等未ダ事務ノ成績ト謂ヘカラズト雖モ即チ  
當寮ノ掌管ニ係ルヲ以テ聊所在ノ綿絲及牛馬羊十六種ノ寫真一面  
ヲ併テ之ヲ上ル頓首再拜

明治八年一月

勸業權頭

河瀬

秀治

○  
内務卿代理林友幸殿

○  
氏壽謹白嚮ニ内務省ヲ置レ尋テ警保開寮爾來殆ント一閱年方ニ全  
國警察ノ事ヲ調査シ警邏設置表賊難表及三府四縣事故表等共ニ整  
頓ニ及ヘリ茲ニ其梗槩ヲ舉ルニ凡ソ全國警邏ヲ設クルノ數壹萬六  
千三十七人屯所ヲ置クノ數七百一賊難事故ニ至テハ水ニ溺ル、者

十四  
ヲ助ル百三十五人自殺スル者ヲ助ル二十四人危難ニ遭フ者又ハ困却スル者ヲ救フ凡ソ二千三百四十四人大火ニ至ラントスルヲ防止スル事十四且ツ夫レ賊難ニ罹ル者凡七萬三千四百十九戸殺害セラ、者凡六百四十八人賊災ニ罹ル者凡四百五十六戸奪掠セラ、ル、金員穀代共凡五十三萬六千八百七十圓餘而シテ人ヲ殺シ人ヲ傷シ及ヒ亂暴雜犯人ヲ捕縛スル者三百六十二人強竊盜ヲ捕縛スル者壹萬六千九百四人以上方今警察ノ大畧ナリ且事故賊難ノ如キハ客歲一月ヨリ十月マテヲ算スル所ト雖モ其各地人民ヲ保護スルモノト保護スルヲ得サルモノト又以テ鑑スヘシ況ンヤ方今人智日ニ進ミ奸惡又隨テ長ス請フ速ニ警察ノ設置ヲ嚴ニシ良民ヲ保全セサル可ラス今ヤ警察設置ノ法ヲ講シ案己ニ成ル不日上呈セント欲ス其レ

幸ニ允可ヲ賜ハ、勵精從事冀クハ警保ノ實ヲ舉ケ良民生ヲ聊ンシ頑民罪ヲ畏レ齊ク聖化ニ浴セシメ永ク衆庶ノ安寧ヲ保護セン夫レ此ノ如クニシテ而後 朝廷至仁保民ノ盛旨徧ク闔國ニ光被センコト跂足シテ俟焉頓首再拜

明治八年一月

警保權頭 村田 氏壽

○ 内務卿代理林友幸殿

○ 讓謹白伏惟ニ戸口ノ蕃息以テ仁澤ノ渥ヲ表スヘク民庶ノ善良以テ文化ノ盛ヲ徵スヘシ夫レ前年編審スル所明治五年人口三千三百一萬八百二十五人今茲進呈スル所六年人口三千三百二十九萬八千八百八十七人之ヲ前年ニ比スル生齒ノ増加スル者十八萬八千六十

二人是固ヨリ流氓ノ籍ニ歸シ隱漏ノ版ニ登ル者アリト雖モ一歳ノ間充美ノ數此ノ如キノ夥ニ至ル豈休息生養ノ効ト謂ハサルヘケンヤ加之孝義德行ヲ以テ譽ヲ鄉閭ニ播ユス者一千七百九十七人勲功勞役ヲ以テ名ヲ職事ニ顯ハス者一千二十四人賞ヲ捐テ金ヲ施シ以テ學校ヲ興シ土功ヲ助ル者其人八千八百八十名其金三十二萬六千五百十四圓是昨年一月ヨリ十二月ニ至リ錄シテ褒賞ノ典ニ在ル者ヲ舉ク其見今審議中未タ行賞ヲ經サル者ハ焉ニ與ラス豈文運開明ノ徵ト謂ハザルヘケンヤ抑一寮ノ所管ヲ以テ治化ノ端ヲ考フヘキ者亦猶此ノ如シ況ンヤ諸省寮司庶績咸熙集テ以テ鴻業ヲ大成スル者其休美勝ケテ道フヘケンヤ是固ヨリ明良際會ノ盛徳ニ由ルト雖モ其衆務ヲ積累シテ以テ皇猷ヲ翼賛スルニ至テハ則チ吏民ノ一職

ヲ奉シ一役ヲ執ル者ト雖モ亦與リテ裨補ノカナシトセス故ニ讓等菲才ト雖モ夙夜相戒勵シ將サニ苟クモ職務ニ當ル者ヲシテ大トナク小トナク黽勉從事以テ民ヲシテ富庶且教アリテ仁澤ヲシテ益渥ク文化ヲシテ益盛ナラシムヲ期セントス謹テ戶籍寮掌管スル所一二事ヲ舉テ以テ陳稟ス伏請閣下採擇シテ上奏センコトヲ讓頓首再拜

明治八年一月四日

戶籍頭

杉浦

讓

○ 内務卿代理林友幸殿

密謹テ白ス凡ソ政令ノ四方ニ快達シ物情ノ遠近ニ響應スルハ國脉輸通交際開進ノ大成機關ニシテ實ニ明世ノ治徵トス抑郵便ノ事業

タル制定其日淺シト雖モ線路ヲ通スル壹萬餘里局ヲ設クル三千餘  
所延テ琉球樺太ニ及ホシ郵送ノ信書新聞等月ニ加ヘ日ニ増シテ全  
ノ籌外ノ夥多ニ至リ邦内到處ニ政令ヲ達シ又物情ヲ響應ス且海外  
ノ通信ニ於ケル己ニ米國ト約ヲ締シ苟モ文明ト稱スルノ國ハ皆吾  
カ郵便切手ヲ用テ我カ書ヲ達スル道ヲ疏シ吾帝國ノ氣息ヲシテ直  
チニ世界ニ快通シ交際開進セシムルヲ得實ニ明世ノ治ナラスシテ  
安ソノ斯ノ如キ盛大ヲ爲サンヤ本年新タニ郵便爲替ノ業ヲ開キ又  
貯金預ノ方法ヲ興サハ更ニ金貨融通貿易隆起ノ一端ヲ舉ケ小民有  
産風俗淳厚ノ一助ヲ成シ以テ明世ノ光輝ヲ副エン今密カ責任中ノ  
一二事ヲ稟告シ謹テ尙將來ノ盛事ヲ冀望ス頓首再拜

明治八年一月

驛遞頭

前島

密

内務卿代理林友幸殿

省一郡謹白ス維新ノ皇化闡國ニ洽ク開文明理ニ進ムニ際シ土木  
ノ事業モ漸ク短ヲ捨テ長ヲ取り官民同一之ヲ實際ニ築成ス爰ニ直  
管及ヒ地方廳申牒スル所ノ河港道橋等ノ成工ヲ概計スルニ修築ス  
ル河隄四箇所流脈變更シ運輸ノ利ヲ開ク河川二箇所新式ヲ以テ架  
スル橋梁二十三箇所其他耕地ノ爲メ閘壩隄堰ヲ修營シ人民交通物  
産搬送ノ料メ修覆スル道梁ハ枚擧ニ遑アラズ其經費ハ總金拾六萬  
五千九百八拾四圓餘ニシテ官出金九萬八千拾三圓餘民費金六萬七  
千九百七拾圓餘ナリ夫レ道橋ハ外交上ニ關涉シ隄防ハ貢租收納ノ  
基ニシテ此事業ノ成功ハ既ニ上ノ如シ之レ全ク帝德宇内ニ浹洽  
シ兆民遵奉スル所以ニシテ乃チ當寮ノ掌管ニ係ルヲ以テ之ヲ謹白

ス頓首再拜

明治八年一月四日

土木頭林友幸代理

土木權頭石井省一郎

○  
内務卿代理林友幸殿

讓謹白抑 皇威煥發シテ大ニ版圖ヲ混同シ王化宣布シテ治リ民物  
ヲ澤潤ス寛大ノ政其効誣ヘキニ非ス文明ノ治其驗復何ソ疑ン爰ニ  
前年進呈スル明治五年反別表之ヲ今茲上申スル昨六年ノ表ニ比較  
スルニ其増加スル拾五萬千七百三町七反九畝七分此皆荒ヲ鋤シ廢  
ヲ興シ民庶ノ勉力乃チ爾リト云ト雖モ之ヲシテ能ク如此ニ至ラシ  
ムルモノ此豈偶然ナランヤ從前苛刻ナルモノハ寛縱シ紛亂ナルモ

ノハ清節シ錯雜ナルモノハ明辨シ不公ナルモノハ平準シ各所有ノ  
權ヲ定メテ共ニ自主ノ理ヲ得セシム此レ其民力普存ヲ致ス所以ニ  
シテ之ヲ寛政文治ノ効驗ト言ハサルヲ得ヌ土田日ニ開ケ民生月ニ  
厚シ雨露ノ澤以テ山林ニ洽ク不殺ノ仁以テ樹木ニ及フ可シ今茲本  
寮命ヲ奉シテ全國ノ官林ヲ檢査シ其反別木數ヲ表録上呈スルヲ得  
タリ竊ニ以爲ク向キニ割據支離ノ制ヲナスモノ今ヤ一致大同ノ法  
ニ歸シ其數ヲ録シテ之ヲ政府ニ収メ其保護ヲ受クルヲ得ル必スヤ  
樽節時アリ愛養具ニ至リ斧斤戕賊ノ害牛羊踐履ノ患ヲ免レ皆能ク  
其材ヲ成スヲ知ル夫レ如此クンハ船艦以テ造ル可ク宮室以テ築ク  
可ク其用勝テ極リナカルヘシ其ヲシテ成効如此ニ至ラシムル此レ  
讓今ヨリ深く希望スル所ニシテ閣下ノ厚ク注意アラントヲ望ム故

ニ本寮所管此二事ヲ舉ケテ以テ稟告スルニ方リ既往ノ成績ヲ頌道  
シ將來ノ事業ヲ豫言スル如此閣下幸ニ採擇アリテ上奏アラシコト  
ヲ乞フ頓首再拜

明治八年一月

地理頭

杉浦 讓

○  
内務卿代理林友幸殿

臣不二麿伏惟ルニ方今奎運方ニ兆シ民智漸ク開クルノ時ニ際シ臣  
不肖叨ニ當職ニ承乏シ夙夜奮勵造次拮据スト雖ニ歲月未タ經久ニ  
至ラス規模猶創始ニ屬スルヲ以テ衛生ノ術ノ如キ未タ竊カニ其功  
ヲ奏スルヲ得ス唯教育ノ法稍緒ニ就クニ似タル者有リ於是文部省  
第一年報ヲ撰次シ恭シク之ヲ呈進ス該報記載スルモノハ明治六年

中區畫施設スル所ニ係リ内ハ省中ノ事務ヨリ外ハ學區ノ景況ニ至  
ルマテ類ヲ分テ品ヲ彙シ附スルニ畧表ヲ以テシ務メテ展檢ニ便ナ  
ラシム然リ而シテ該報ノ體裁彼此均シカラサル者アリ是蓋學事ノ  
方法ハ地方ノ便宜ニ隨フヲ以テ其規制ノ如キモ風土ノ情勢ニ依ラ  
サルヲ得ス而シテ府縣年報ノ舉亦未タ完全ニ至ラサルヲ以テナリ  
若夫該表ニ掲クル所件々遺漏ナリ般々善美ヲ稱スルノ隆盛ヲ致ス  
ニ足リ家戸皆學事ニ勉メ人身各健康ヲ保スルノ實績ヲ見ニ至テハ  
臣意固ヨリ將ニ之ヲ徐々ニ期シテ勿々ニ望ム可ラストス伏冀クハ  
該報ニ就テ其梗概ヲ鑒了アラシコトヲ臣不二麻呂謹奏ス

明治八年一月四日

文部大輔 田中不二麻呂

文部省第一年報目次

- 第一 全國教育ノ概畧
- 第二 各大學區府縣學事ノ景況附全國學校諸統計表
- 第三 官立小學師範學校
- 第四 官立諸學校
- 第五 書籍館
- 第六 博物館
- 第七 天文局
- 第八 海外留學生
- 第九 編書事務
- 第十 准刻事務
- 第十一 衛生事務

第十二 常額金出納概畧

全國教育ノ概畧

壬申八月學制頒布以來興學ノ舉日ニ多ク月ニ熾ニシテ各地方ノ教育漸次實際ニ赴キ中小學校及ヒ就學生徒ノ數學資納附ノ高等陸續增加シ其方法ニ至テハ各地異同ナキヲ得スト雖之ヲ要スルニ誘掖獎導ヲ旨トシ學資課賦ノ方法ヲ定メ教科ヲ簡易ニシ教員ヲ督勵スル等其力ヲ茲ニ竭スニ至テハ彼此一轍ニシテ人智長進治化洽浹ヲ裨補スルノ基タルニ外ナラス今其教育ノ實況ヲ概見スルニ第一第二第三大學區ヲ以テ最トナシ第四第五大學區之ニ亞キ第六第七大學區又之ニ亞ク蓋全國七大學區ニシテ中學區ノ數二百四十六小學區ノ數四萬四千六百七十九公立中學三校私立中學十七校公立小學



七千九百九十五校私立小學四千五百六十三校外國語學三十三校ニ  
シテ中學ノ教員百二十五名小學ノ教員二萬五千五百三十一名外國  
語學ノ教員五十七名小學ノ生徒百二十九萬七千六百十二人男九千  
八萬七  
千九百九十七女三  
十一萬四千十五ニ及フ之ヲ全國ノ人口ニ照較スルニ大約二十四分  
ノ一ニシテ人口百人ニ四人一七トス然レモ此數タル或ハ未タ開申  
ニ及ハス或ハ擾亂ニ罹ル等ノヲアリテ點檢ニ由ナキモノアリ故ニ  
未タ全數ヲ得ルニ至ラス而テ興學ノ經費ハ華士族ヨリ以テ農工商  
ニ至ルマテ各其產資ヲ割テ之ヲ寄附スル者亦屈指ス可ラス多キハ  
一縣四十七萬余圓ニ及ヒ少キモ數百圓ニ降ラス其課金方法ノ如キ  
ハ各地方ノ情態ニ應シテ均一ナラス粵ニ本年學資所入ノ金額ヲ  
計ルニ無慮百九十三萬九千九十八圓三十八錢三釐其所出ノ數百五

十七萬百七十八圓七十七錢九釐ニシテ納金ノ高出金ノ高ニ過クル  
コト三十六萬八千九百十九圓六十錢三釐ナリ抑勸學ノ志氣ヲ鼓舞  
シ蒙昧ノ漸ク闡明ニ赴クヤ殆ト曩日ノ比ニアラス是ニ由テ之ヲ觀  
レハ文運隆起ノ日アル期シテ竣ツヘキナリ

以下畧之

○  
明治八年第一月四日教部大輔臣宍戶璣謹テ奏ス曩ニ教導職ノ輩力  
ヲ戮セ費ヲ捐テ大教院ヲ 肇下ニ創立ス爾來拮据歲ヲ閱スル三周  
各府縣下モ亦之ニ倣ヒ既ニ中小教院ヲ設クル者二百八十有九是教  
導職龜勉ノ力ニ之レ由ル而シテ大教正以下權訓導ニ至ル其職ニ在  
ル者七千二百四十七名神道各宗其道タル固ヨリ同カラスト雖モ

今ヤ一ニ教則ニ遵ヒ偏ニ政治ヲ翼賛センコトヲ圖ル願フニ其効必ス  
觀ル可キ者アラシク因テ教院概表ヲ製シ併セテ教導職一覽表ヲ上ツ  
ル臣璣誠恐誠惶謹テ白ス

〔達書〕

陸軍少將 東伏見 嘉彰

陸軍始總指揮官被 仰付候事

〔第壹號布告〕 輪廓附

郵便切手四拾五錢拾五錢拾貳錢ノ三種見本ノ通製造シ當明治八年一  
月一日ヨリ發行候條此旨布告候事切手見本略之

〔第一號達書〕

院 省 使 廳 府 縣

來ル八日九日陸海軍始ニ付正院休暇候條此旨相達候事

但八日雨天ニ候ハ、御延引ニ付休暇無之事

叙正七位

川侯

國傳

太政官日誌明治八年第三號

○一月五日 新年宴會

本日午前第十一時親王大臣參議諸省使廳府縣在京ノ勅任官并屬香間  
詰華族官中ニ參列ス次

天皇高御座ニ御ス羣臣左ノ勅語アリ

朕茲ニ新年ヲ賀シ鋪宴ヲ張リ群臣ヲ會同ス汝群臣朕カ俱ニ慶スル  
ノ意ヲ體シ其レ能ク歡ヲ盡セヨ

大臣奉答左ノ如シ

天皇陛下茲ニ新年ヲ賀シ群臣ヲ會同シ鋪宴ヲ賜フ特ニ寵命ノ辱ヲ  
拜ス群臣感喜ノ至ニ勝ヘサルナリ豈歡ヲ盡シ樂ヲ極メサルヘケン  
ヤ乃恭ク祝賀シ且 陛下ノ萬福ヲ祈リ奉ル

次初献ヲ供ス次第ノ物ヲ供ス次臣下ニ賜フ次舞樂太平樂畢テ入  
御羣臣折次群臣退出同時在京奏判任官及ヒ在地方ノ勅奏判任官ハ各廳  
ニ於テ饗宴ヲ賜ヒ有位華族ハ管轄廳ニ於テ賜フ

○一月七日

〔第貳號達書〕

院 省 使 廳 府 縣

來ル九日海軍始ニ付正院休暇候旨相達置候處雨天ニ候ハ、御延引ニ  
付休暇無之候條此旨更ニ相達候事

○

任外務三等書記官

外務一等書記生中島才吉

任海軍中尉

海軍少尉 本宿 宅命

兼補權少教正

高良神社宮  
司兼大講義 木村 重任

○一月八日 陸軍始

本日午前第九時諸隊日比谷操練場ニ整列ス傳令使 變輿ノ 臨御ス

ルヲ報告スレハ總指揮官氣ヲ附ケノ號音ヲ爲ス 此號音ニテ諸隊氣ヲ  
付ケ劍ヲ裝シ肩銃ヲ

スナ 總指揮官ハ直チニ門内右側ニ出テ 變輿ヲ迎ヘ敬禮シ其右側ニ在

リテ總軍檢閱ノ誘導ヲナス此時樂隊ハ樂ヲ奏シ諸隊順次ニ禮式ヲ行

フ點檢終レハ總指揮官ハ敬禮シ而シテ諸隊右ニ方向ヲ換ヘシム

變輿御駐位アリテ諸隊分列式ヲ行ハシム終テ歩兵ハ中隊縱隊ニ編制

シ閉列シ砲騎輜重兵ハ其右方ニ移リ而テ總指揮官號音ヲ以テ諸隊ヲ

左側面ニナシ前進シ 變輿二十步前ニ到リ靜止シテ敬禮ヲ行ハシム

喇叭ハ利シヤ  
ヒヨ三回吹奏ス 畢テ 變輿還御アリ次ニ解放ノ號音ニテ諸隊順次ニ

退歸ス 此日皇族大臣參議院省使廳長官並麝香  
間詰華族御先着東京府知事御先導タリ

○一月九日 海軍始

本日午前第十時海軍兵學寮へ 臨御外廓門外ニ隊付佐官奉迎寮門外ニ海軍省諸寮司等奏任官以上并御備外國人奉迎總海軍兵捧銃樂隊奏樂ス此時御旗ヲ揚ケ廿一發祝砲ス同時品海砲泊ノ各艦モ齊ク祝砲ス判任官并諸生徒寮門内左右ニ整列禮式ス大少輔及兵學頭御先導シテ圓室へ 入御御休憩終リテ第一競漕操練第二省内入堀ニテ水雷點火第三同所碇泊ノ乾行艦ニテ帆前調練ノ施行ヲ 天覽アリ 畢テ水夫一統 十二時御晝饌ヲ供ス午後第一時開講海軍兵學中教授麻生武平海軍歴史ヲ進講ス諸官員生徒等陪聽ス同第二時式畢テ 還御諸官員奉送及ヒ兵隊禮式祝砲等皆 臨御ノ時ノ如シ此日皇族大臣

參議以下御先着等總テ陸軍始ノ式ニ同シ

太政官日誌明治八年第四號

○一月十日

〔第三號達書〕 輪廓附 使 廳 府 縣

明治六年<sup>十一月</sup>第三百九拾貳號達書中邏卒番人死傷ノ者扶助并ニ道賞規則左ノ通改定候條本年二月一日ヨリ施行可致此旨相達候事

巡查并邏卒番人死傷ノ者吊祭扶助療治料規則

一 重傷死ニ至ル者

吊祭料三十圓

但父母妻子親戚等ナキ者ハ同僚ニ給シテ吊祭セシム

遺族扶助金百圓

但遺族ナキ者ハ給セス

療治料

但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

一 一等傷瘕 終身不具ニシテ自用ヲ辨スル能ハサルモノ

扶助金百圓

療治料

但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

一 二等傷瘕 同上其次ナル者

扶助金七拾圓

療治料

但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

一 三等傷瘕 同上稍其次ナル者

扶助金五拾圓

療治料

但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

一 四等傷瘕 不具ニ至ルト雖モ用便ニ差支ナキ者

扶助金拾五圓

療治料

但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

一 五等傷瘕 全ク不具ニ至ラサル者

療治料

但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給シ別ニ扶助金ヲ給

セス

右ハ其職務上ノ事ニ就テ傷痍ヲ受シ者ノ例トス

〔達書〕

各通

内務省  
大藏省

明治六年<sup>十一月</sup>第三百九十二號達邏卒番人死傷之者扶助并追賞規則別紙第三號之通改定候條此旨可相心得事別紙上ニアリ畧之

○

司法省

明治六年<sup>十一月</sup>第三百九十二號達邏卒番人死傷之者扶助并追賞規則別紙第三號之通改定候條此旨爲心得相達候事同上

〔第四號達書〕輪廓附

使廳府縣

明治七年<sup>七月</sup>第百號達邏卒番人賞與規則末文左ノ通改定候條此旨相達候事

邏卒番人賞與規則末文

右ノ金高ヲ限トシ實際ノ難易ニ依リ功勞ノ輕重ヲ審定シ等差ヲ分ケ遞減賞與スヘシ若シ本人死スル時ハ追賞トシテ其父母妻子或ハ親族ニ給ス但シ拔羣ノ功勞アリテ此限ヲ越ル者ハ伺出ヘシ

達書

各通

内務省  
大藏省

明治七年<sup>七月</sup>第百號達邏卒番人賞與規則末文改定別紙之通第四號ヲ以相達候條此旨可相心得事別紙上ニアリ畧之

○

司法省

明治七年<sup>七月</sup>第百號達邏卒番人賞與規則末文改定別紙之通第四號ヲ以相達候條此旨爲心得相達候事同上

陸軍中將 西郷 從道

各通 陸軍少將 谷 干城

海軍少將 赤松 則良

臺灣蕃地事務取纏御用有之當分舊蕃地事務局へ出仕可致事

○ 外務省七等出仕廣津弘信

外務少丞森山茂爲理事官朝鮮國へ被差遣候ニ付爲副官同行被 仰付候事

各通 外務四等書記生石幡 貞

外務七等書記生尾間啓次

外務少丞森山茂爲理事官朝鮮國へ被差遣候ニ付隨行申付候事

○ 奈良縣權令藤井 千尋

廣瀨神社御靈遷御祭典ニ付參向被 仰付候事

兼補勸業寮六等出仕 六等出仕 山高 信離

任陸軍軍醫 村治 重厚

補主船寮七等出仕 主船大屬 嘉納 希芝

任海軍少軍醫 海軍軍醫副佐川 晃

兼補權少教正 廣田神社少宮 千野 於菟  
司兼大講義



太政官日誌明治八年第五號

○一月十二日

〔達書〕

内務省

嘉永六年癸丑以來憂國慷慨之士 皇運之挽回ヲ期シ未タ其志ヲ不遂  
 致宛死候者之靈魂戊辰年中京都東山ニ祠宇ヲ設ケ祭祀被 仰出候處  
 今般更ニ厚キ 思召ヲ以東京招魂社ヘ合祀被 仰出候條右東山配祀  
 之者及ヒ是迄各府縣招魂場ニ於テ祭祀執行來リ候者共ヲ始其餘戊辰  
 以前舊藩々ニ於テ殉難死節之者其名湮滅シ未タ祭祀等ノ列ニ漏レ候  
 者モ可有之候間篤ト穿鑿ヲ遂ケ無遺漏姓名取調可申出此旨相達候事  
 但東山靈祠及各地招魂場等ハ從前之通被据置候此旨可相心得事

○

陸軍省

嘉永六年癸丑以來殉難死節之靈東京招魂社へ合祀之儀ニ付別紙之通  
内務省へ相達候條此旨可相心得事別紙略之

○ 文 部 省

其省用地東京府下第四大區元富士町貳番地之内千六百坪餘今般巡查  
屯所建築候ニ付内務省へ可引渡此旨相達候事

○ 陸軍少佐 村田 經芳

射的學研究ノ爲メ字佛兩國へ被差遣候事

○一月十三日

〔達書〕 式部頭 坊城 俊政

孝明天皇御例祭并

神宮祈年祭參向被 仰付候事

〔第貳號布告〕輪廓附

明治六年<sup>七月</sup>第百五十九號布告日本坑法第八章中ニ掲載有之候坑物  
稅收納ノ儀本年一月ヨリ當分ノ内相廢候條此旨布告候事

〔第五號達書〕同 院 省

明治六年<sup>十二月</sup>第四百貳拾七號達書府縣出納勘定帳附屬ノ諸表別册ノ  
通改正候條各廳ニ於テモ本年一月以來右ニ準據シ取調大藏省へ可差  
出此旨相達候事別册

但常額内外仕拂區分ハ從前ノ通可相心得且總計表ノ外ハ長官奧印  
ニ不及事

〔第六號達書〕同 府 縣

明治六年<sup>十二月</sup>第四百貳拾七號達書出納勘定帳附屬ノ諸表別册ノ通改

正候條本年一月以來右ニ照準シ取調大藏省へ可差出此旨相達候事

○

任大神神社大宮司

大講義  
從五位

櫻井

忠興

兼補權少教止

大神神社  
大宮司

櫻井

忠興

○一月十四日

〔第七號達書〕輪廓附 院 省 使 廳 府 縣

旅費定則第三章第四章第十一章中左ノ通改定候條本年二月一日ヨリ施行可致此旨相達候事

第三章

一並旅行云々

但片道六里未滿ハ近方御用ニ屬シ六里以上拾壹里未滿一日分

ノ日當ヲ賜ヒ滿拾壹里以上貳拾壹里未滿二日分ノ日當ヲ賜フ

餘之ニ準ス拾里以上ノ端里數滿壹里以上ハ一日

一本支廳移轉并採用免職ノ節ハ其廳ヨリ滿貳里以上一日分ノ日

當ヲ賜フ尤近方御用ハ第十一章ノ通タルヘシ

一並旅行ハ云々

第四章第二項

一滿貳里以上ノ地ヨリ採用ノ向ハ着翌日ヨリ拜命ノ前日迄滯留日

當ヲ賜フ尤華士族平民僧侶ハ第二十三章ニ照準支給スヘシ

第十一章

一近方御用往返五里未滿ハ出張巡回共日歸ナレハ日當賜ハラス一

泊スレハ往返ニテ並旅行日當ノ三分一ヲ賜フ往返滿五里以上六

里未滿ノ地へ出張ノ時ハ日歸一泊ノ別ナク往返ニテ並旅行日當  
ノ半數ヲ賜リ往返滿六里以上拾壹里未滿ノ地へ出張ノ時ハ同斷  
一日分ノ日當ヲ賜ヒ滿拾壹里以上拾貳里未滿ノ地へ出張ノ時ハ  
同斷二日分ノ日當ヲ賜ルヘシ何レモ滯留スレハ第四章ニ準シ滯  
留日當ヲ賜フ  
一巡回ノ名義ヲ以往返滿五里以上ノ地へ派出スル時ハ第五章ニ準  
シ巡回日當ヲ賜フ

〔第八號達書〕輪廓附 使 府 縣

囚人賄料ノ儀總テ官費支給可致規則細目ノ儀ハ追テ可相違旨明治七  
年九月第百貳拾三號ヲ以相達置候處右給與規則別冊ノ通相定候條此旨  
相達候事

囚人給與規則

已決囚ハ總テ左ノ定則ニ從ヒ一旦官費ヲ以支給シ追次傭工錢收入  
ノ内ヨリ償却スヘシ  
未決囚ハ第二則ノ諸品ヲ除ノ外總テ官費ヲ以支給スヘシ尤極テ貧  
囚ニシテ自給スル能ハサルモノ官給ヲ乞フ時ハ點檢ノ上第二則ニ  
依リ欠乏ノ品ヲ貸與フヘシ

第一則 飲食

己 白米七合 強役ノ者  
白米五合五夕 並役ノ者  
飯 決 白米五合 輕役ノ者  
白米二合七夕 十歳以下男女共  
未 白米四合 平四男女共  
決 白米貳合七夕 十歳以下男女共  
但飯ハ半バ麥ヲ以米ニ換ヘ挽割ヲ加蒸シ又ハ合炊スル等地方ノ

適宜ニ從フヘシ

菜

已決

野菜適宜  
魚肉

醬油共代金壹錢三厘

未決

同上

同上同壹錢

但病囚ノ食ハ醫ノ言ニ從ヒ其證書ヲ取實際點檢ノ上給與スヘシ衣食其他皆之ニ準ス

常食ノ外加給

已決未決共

二餅一魚

一月一日

代金貳錢

一魚

一月三十日  
孝明天皇御祭日

同壹錢

同

二月十一日  
紀元節

同上

同

四月三日  
神武天皇御祭日

同上

同

十一月三日  
天長節

同上

以上ハ一日一囚ニ給スルノ則トス

第二則衣服

從前ノ衣服ハ獄吏之ヲ領置シ本行ノ獄衣ヲ與フヘシ尤地方ニ依リ授業ノ方法未タ全ク備ラス詰局傭工錢ヲ以獄衣新調ノ費ヲ償ニ足ラサル間ハ役場構内ノ工役及監内ノ常服ハ當分各囚從前ノ着服ヲ用ヒ或ハ古衣ヲ買テ之ヲ補フ等地方ノ適宜ニ從フヘシ但使役ノ所作ニ依リ短衣服引等ノ便ヲ要スルモノハ外役衣

ヲ着用セシムヘシ

單衣

柿色ベンガヲ質  
薄濫ノ土ニ薄濫常尺  
ヲ加ヘ之ヲ濫ハ窄袖

一枚

代金 五拾錢

但夏時一度給之

裕 同色

同上

一枚

同

七拾五錢

但春秋ノ内一度給之

繻絆 同色 同上 一枚 同 三拾錢

但春秋冬ノ内一度給之

綿入 同色 同上 一枚 同 壹圓

但冬時一度給之

三尺帶 同色 一筋 同 八錢五厘

手拭 一筋 同 五錢

禪 柿色 二筋 同 貳拾五錢

右七品ハ監内ノ常服トス 未決ノ貧四ニハ右七品ノ内ヲ以貸與フヘシ

單衣 柿色 窄袖 一枚 同 四拾錢

但夏時用之

單股引 同色 一足 同 貳拾五錢

但同上

裕 同色 窄袖 一枚 同 六拾錢

但春秋用之

繻絆 同色 同上 一枚 同 三拾錢

但春秋冬用之

綿入 同色 同上 一枚 同 六拾五錢

但冬時用之

裕股引 同色 一足 同 五拾錢

但春秋冬用之

右六品ハ外役衣トス布木綿時宜之ヲ製シ上ハ衣ノ背又ハ胸ニ

番號ヲ記シ各犯ノ輕重ヲ區別スヘシ

第三則臥具

蒲團 夏時ハ一枚ヲ以 二人ニ共用セシム 一枚 代金壹圓廿五錢

但毛布草褥等ニ換ルハ適宜タルヘシトイヘル代價ハ定額ニ超

過スヘカラス

蓆 一枚 同 五錢

枕 一箇 同 壹錢

蚊帳 一垂但五人合 同 四圓

右ノ内蚊帳ノ如キハ四五年蒲團ノ如キハ二年乃至三四年以上  
ヲ保ツヘク其他衣類共都テ時々洗濯修覆ヲ加ヘ務テ久シキニ  
耐ヘシムル様注意スヘシ

第四則浴湯

夏時ハ水浴セシムルヲ良トス

己 五月ヨリ十月迄休日ヲ除毎日

决 十一月ヨリ四月迄隔日

定費金五拾錢

但強役之節ハ其度々ニ浴セシムヘシ

未 五月ヨリ十月迄毎月十二度

决 十一月ヨリ四月迄毎月六度

定費金廿五錢

以上三則ハ一年一囚ニ給スルノ則トス

第五則雜費

已决 定費金壹錢

未决 定費金七釐

右ハ毎日ノ炊用及衣類ノ洗濯并ニ病囚煎藥等ノ炭薪其他必需ノ

小費ニ充ツヘシ

以上ハ一日一囚ニ給スルノ則トス

右五則廉々一定ノ價格ヲ立ト雖モ地方ニ依リ物價昂低一様ナラ  
ス故ニ甲品代價ノ有餘ヲ以乙品代價ノ不足ヲ償フ等ハ各地ノ適  
宜ニ從フヘシ

〔達書〕

各通

大

藏

省

司

法

省

囚人給與規則別冊ノ通相定候條此旨爲心得相達候事

別紙  
畧之



太政官日誌明治八年第六號

○一月十五日

〔第三號布告〕輪廓附

新紙幣製造ノ事業追々整頓候ニ付太政官民部省札并正金兌換証券悉皆新紙幣ヲ以交換候ニ付右三種ノ紙幣ハ本年五月三十一日限り通用令停止候條各人民貢納金等ノ儀ハ可成丈前條三種ノ紙幣相用候様可致此旨布告候事

但交換手續等ハ追テ可及布告候事

〔第九號達書〕同

使 廳 府 縣

司法警察事務當分使府縣へ委任候旨明治七年十月第百二拾貳號ヲ以テ相達置候處罪犯ノ都合ニヨリ司法省檢事局ヨリ直チニ派出地方警察

官吏へ致指揮候儀可有之候條不都合無之様可取計此旨爲心得相達候事

○ 補外務省六等出仕

外務省七等 廣津

弘信

○ 一月十七日

〔達書〕

各通

陸

軍

省

海

軍

省

佐賀縣賊徒征討及蕃地處分兩度共從軍之將校以下功勞有之者并戰死負傷之者等姓名取調至急可申出此旨相達候事

文

部

省

魯國親王寄贈之書籍別紙目錄之通外務省ヨリ可相回候條需用之學校

へ配賦可致此旨相達候事別紙略之  
但配置之上其箇所可届出事

○

工部卿

伊藤

博文

御用有之大坂表へ出張并ニ但馬生野京都越前敦賀へ順廻被 仰付候事

○ 補工部省四等出仕

陸軍省四等 出仕正六位

大鳥

圭介

御用有之暹羅國  
へ被差遣候事

工部省四等出仕大鳥圭介

○ 一月十八日

〔達書〕

御用有之暹羅國  
へ被差遣候事

大藏省七等出仕川路寛堂

御用有之暹羅國へ差遣候事

租税寮八 河野 通猷

同

租税権大屬北島 謙弘

〔第拾號達書〕輪廓附

使 府 縣

地方官員除服出仕ノ儀辛未十二月中相達候趣モ有之候處自今左ノ通  
相定候條此旨相達候事

一 奏任以上ノ官員忌服中事務差支有之節ハ其長官ヨリ忌日數半減

ニテ除服出仕相達長官同様ノ節ハ代理ノ者ヨリ相達其旨届出ヘ

但差懸リタル事務有之不得止節ハ半減内ト雖モ本文ノ通取計

苦シカラス

一同上在東京ノ節ハ出張所ヨリ正院へ申立ヘシ

一同上出張ノ節ハ明治六年第三百四十七號達ノ通タルヘシ

○一月十九日

〔達書〕

工部大丞 吉井 正澄

工部卿出張中代理被 仰付候事

○

補大藏省七等出仕

陸軍省七等出仕 廬 高朗

任租税權助

租税寮七等出仕 林 正明

補租税寮七等出仕

租税寮八等出仕 有馬 武

補國債寮七等出仕

國債大屬 松尾 臣善

新刊通鑑綱目

卷之六

四

新刊通鑑綱目

卷之六

四

新刊通鑑綱目

卷之六

四

新刊通鑑綱目

卷之六

四

○

新刊通鑑綱目

卷之六

四

新刊通鑑綱目 卷之六 四

○

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '新刊通鑑綱目' and '卷之六'.

太政官日誌明治八年第七號

○一月廿日

本日午前第十時教導職二級以上朝拜其式同時ヨリ十一時迄六級以上教導職官内省へ參賀ス

〔達書〕

官

内

省

其省中大中少典醫正權大少侍醫大中少馭者大少監雜掌長ヲ廢シ更ニ官等左ノ通被置候條此旨相達候事

但藥劑官ハ同等ノ侍醫兼任タルヘキ事

官内省中新置官等表

					一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等	十一等	十二等	十三等	十四等	十五等	
					侍講	侍講	侍講	侍講	侍講	侍講	侍講	侍講	侍講	侍講	侍講	侍講	侍講	侍講	侍講	侍講
					一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等	十一等	十二等	十三等	十四等	十五等	
					醫侍	醫侍	醫侍	醫侍	醫侍	醫侍	醫侍	醫侍	醫侍	醫侍	醫侍	醫侍	醫侍	醫侍	醫侍	醫侍
					一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等	十一等	十二等	十三等	十四等	十五等	
					藥劑官	藥劑官	藥劑官	藥劑官	藥劑官	藥劑官	藥劑官	藥劑官	藥劑官	藥劑官	藥劑官	藥劑官	藥劑官	藥劑官	藥劑官	藥劑官
					一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等	十一等	十二等	十三等	十四等	十五等	
					生藥劑	生藥劑	生藥劑	生藥劑	生藥劑	生藥劑	生藥劑	生藥劑	生藥劑	生藥劑	生藥劑	生藥劑	生藥劑	生藥劑	生藥劑	生藥劑
					一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等	十一等	十二等	十三等	十四等	十五等	
					者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者

〔第四號布告〕輪廓附

明治七年七月第八拾壹號布告證券印稅規則第五則第拾條自今削除候條此旨布告候事

〔第五號布告〕同

宮内省中大中少典醫正權大少侍醫大中少馭者大少監雜掌長ヲ廢シ更ニ官等別表ノ通被置候條此旨布告候事官等表上ニアリ畧之

〔第六號布告〕同

民法裁判上負債者失踪後ノ訴訟ハ失踪後三十六ヶ月ノ時間ハ採上ケサル成例ニ有之候處本年三月一日ヨリ以後ハ左ノ通相改候條此旨布告候事

三十一、第一條 債主定約期限未滿内ニ負債者ノ失踪ヲ知ル時ハ定約滿期ニ至リ直ニ裁判所ヘ訴出ツ可キ事

第二條

債主未タ負債者ノ失踪ヲ知ラス定約滿期又ハ出訴期限將ニ盡ントスルヲ以テ裁判所ヘ出訴シ裁判所ノ奥書ヲ以テ負債者ニ掛合始テ以テ失踪ノ事ヲ知ル時ハ右奥書訴狀ヲ再呈シ其旨届出ツ可キ事

第三條

前條々ノ場合裁判所ニ於テハ一應訴狀探上ケ直ニ失踪者所管ノ戸長へ申付失踪ノ年月日ヲ訊明シタル上債主差出シタル証書ニ負債者何年何月何日家出ノ未行衛相分ラサルニ付追テ本人見當ルカ又ハ三十六ヶ月ノ満月後跡相續ヲ爲ス可キ者ニ掛リ此裏書証書ヲ以テ再訴致ス可キ旨ヲ記載シ訴狀下戻ス可キ事

第四條

債主於テ前條ノ裏書証書ヲ受取置キタル上ハ本人見當リ又ハ搜索三十六ヶ月ノ時限ハ明治六年十一月第三百六拾二號布告出訴期限ノ限内ニハ加算致サ、ル事

(第拾壹號達書)同

府

縣

府縣東京出張所ノ儀來ル二月一日ヨリ相廢シ候條是迄在勤官員ノ内

每府縣壹人ツ、内務省へ相詰其餘ハ従前ノ事務取纏ノ次第引拂候様可致此旨相達候事

但文書往復等ノ手續ハ追テ可相達事

○明治七年三月九日分

叙正七位

飯

包武

○同十二月廿九日分

任海軍中軍醫

海軍少軍醫島田

修海

任海軍少軍醫

海軍軍醫副中川

義香

封高軍少軍醫

高軍軍醫中川

差香

封高軍中軍醫

高軍少軍醫高田

粉秋

○同十二日廿六日辰

拜五子爵

地

厨知

○同廿六日三月廿六日辰

由文書持道等、手續八冊、可琳翁事

下錄其官琳翁對事

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



太政官日誌明治八年第八號

○一月廿一日

〔第七號布告〕

今廿一日午前第五時四十五分權典侍柳原愛子分娩  
皇女御降誕被遊候條此旨布告候事

〔第十二號達書〕

院 省 使 廳 府 縣

今廿一日午前第五時四十五分

皇女御降誕被遊候ニ付在京ノ奏任官以上并有位華族本日ヨリ三日ノ  
間宮内省へ參賀可致此旨相達候事

但通常禮服着用ノ事

○一月廿二日 闕

○一月廿三日

〔達書〕

紙幣權頭  
正六位

渡邊

弘

明治七年十一月東京府下第一大區十六小區靈岸島失火之節貧民救助  
トシテ金五拾圓差出候段奇特之事ニ候仍テ爲其賞別紙目錄之通下賜  
候事目錄木盃一箇

海軍少佐  
從六位

今井

兼輔

明治七年十一月東京府下第一大區十六小區靈岸島失火之節貧民救助  
トシテ金貳拾五圓差出候段以下同文  
目錄同上

三瀨縣權令  
正六位

岡村

義昌

明治七年八月管下風災之節貧民救助トシテ金七十圓差出候段同上

小倉縣權令  
正六位

小幡

高政

明治七年八月管下風災之節貧民救助トシテ金二百圓差出候段以下同  
文目錄  
一箇

小倉縣參事  
從六位

堀尾

重興

明治七年八月管下風災之節貧民救助トシテ金百五拾圓差出候段同上

小倉縣七  
等出仕

平井

淳磨

明治七年八月管下風災之節貧民救助トシテ金百圓差出候段同上

石川縣參事  
從六位

桐山

純孝

學校資トシテ金六十六圓差出候段以下同文  
目錄木盃一箇

從四位

有馬

道純

學校資トシテ金三百圓差出候段以下同文  
目錄銀盃一箇

從四位

戸田

氏正

學校資トシテ金百圓差出候段上同

○ 正五位 姉小路 公義

學校資トシテ金拾五圓差出候段以下同文 目錄木盃一箇

○ 從五位 酒井 忠道

故從四位忠祿儀學校備用トシテ書籍三百三十部差出候段以下同文 目錄銀盃一箇

○ 毛利 興丸

學校資トシテ金貳拾五圓差出候段以下同文 目錄木盃一箇

○ (第十三號達書) 輪廓附 院 省

外國派出公使領事書記官其外月手當支給ノ儀明治七年一月第十五號ヲ以相達候處右公使領事館在勤ノ向ニ限り同年七月以後發着ノ月端日數ハ日割ヲ以支給候條此旨更ニ相達候事

○ 任陸軍大尉 製作權大屬今村 一政

任陸軍中尉 二品親王 伏見 貞愛

同 製作中屬 小川 喜成

任二等侍醫 正六位 伊東 方成

任四等侍醫 從五位 岩佐 純

任五等侍醫 正六位 伊東 盛貞

同 從六位 林 洞海

同 同 竹内 正信

任六等侍醫 正六位 高階 經德

同 正七位 船曳 清修

同 同 同 同

宮内省七  
等出仕

赤星

研造

安藤

正道

渡邊

春貞

猿渡

盛雅

太政官日誌明治八年第九號

○一月廿四日

〔達書〕

再

務

省

仙臺鎮臺騎兵營トシテ宮城縣下陸前國仙臺片平町ニ於テ別紙圖面朱線之通總計貳萬六千百零五坪官用地トシテ陸軍省へ引渡方可取計此旨相達候事

○

大

藏

省

仙臺鎮臺騎兵營地トシテ宮城縣下陸前國仙臺片平町ニ於テ貳萬六千百零五坪官用地トシテ陸軍省へ引渡方可取計様内務省へ相達候條此旨可相心得事

〔第拾四號達書〕

院

省

使

廳

府

縣

來ル廿七日

皇女御名ツケ之式被爲行候ニ付正院休暇候條此旨相達候事

任陸軍會計軍吏

陸軍大尉

遠藤

啓

任陸軍少尉

大

太田

一道

任陸軍會計軍吏補

陸軍少尉

中山

久亨

依願免本官

同

梢崎

庸輔

任海軍中尉

海軍中主計川上

親英

任海軍中秘書

海軍省九  
等出仕

山縣

久太郎

任海軍少秘書

海軍省十  
等出仕

金子

豐純

○一月廿五日

〔第十五號達書〕

使

府

縣

全國海岸舊來ノ砲臺陸軍省所轄ヲ除ノ外追々取崩或ハ開墾等致候向  
モ有之候處追テ全國防禦線確定マテハ從來ノ儘存在可致此旨相達候  
事

〔達書〕

内

務

省

全國海岸舊來之砲臺防禦線確定迄存在可致旨第十五號ヲ以テ使府縣  
へ相達候條此旨可相心得事

任二等待講

宮内省三等  
出仕從四位

福羽

美靜

任三等待講

宮内省四等  
出仕從五位

加藤

弘之

任四等待講

宮内省五等出仕元田永孚

任敦賀縣權令

内務省六等出仕山田武甫

○一月廿七日

本日午前第十一時宮中ニ於テ

皇女命名ノ式行ハセラレ皇族三職式部頭

助代

官内省勅任官麴香間詰

華族へ鋪宴ヲ賜フ 其式略之大臣祝詞ヲ奏ス

爰ニ 皇女降誕ノ命名ノ慶儀ヲ行ハセラレ鋪宴ヲ賜フ臣等斯ノ吉

辰ニ方リ斯ノ祝宴ニ列ス何ノ欣幸カ之ニ尙ンヤ乃チ

天皇陛下ノ聖壽無疆ト同ク 皇女ノ芳齡萬歳且 皇孫ノ益以繁衍

盛昌ナルヲ祈リ奉ル

因テ左ノ 勅語在ラセラル

爰ニ命名ノ慶儀ヲ行ヒ汝等ヲ會シ賀宴ヲ開ク汝等述ル所ノ祝辭朕

深ク之ヲ欣フ汝等朕カ嘉慶ノ意ヲ體シ其レ能ク歡ヲ盡セヨ

○一月廿八日 闕

○一月六日分

任租稅權助

稅租寮七等出仕市川正寧

○一月十五日分

免本官 但位記返上

四等教授 足立 寛

同 上同

同 桐原 眞節

同

五等教授 萩原 三圭

兼補權少教正

熱田神宮少宮 司兼大講義 角田 忠行

無印封文第五

同

同

同

○一月十五日

○一月廿六日

○一月廿八日

無印封文第五

同

同

同

○一月十五日

○一月廿六日

○一月廿八日



太政官日誌明治八年第拾號

○一月廿九日

〔第八號布告〕

皇女御名薰子<sup>ノ</sup>被命梅ノ御殿ニ御住居被爲在候條梅官卜可奉稱候此旨布告候事

〔第九號布告〕 輪廓附

明治七年<sup>十一月</sup>第百二拾二號布告改正鳥獸獵規則中第拾六條刪除候條此旨布告候事

任五等議官

補製作寮七等出仕

兒玉 淳一郎

製作大屬 上田 可貞

同

藤田 順華

任佐賀縣參事

佐賀縣權參事 野村 維章

任長崎縣權參事

長崎縣七等出仕 河内 直方

○一月三十日

本日

孝明天皇御祭典 其式略之

○一月三十一日

〔第拾六號達書〕 輪廓附 院 省 使 廳 府 縣

府縣東京出張所ノ儀來ル二月一日ヨリ相廢候ニ付諸事左ノ府縣往復規程ニ照準可取計此旨相達候事

府縣往復規程

第一條

府縣ヨリ進達スル諸願伺届等ハ總テ郵便ヲ以直ニ院省へ送達シ院省ノ指令及ヒ達等ノ文書モ亦郵便ニ附スヘキ事

第二條

府縣ヨリ當府下へ寄留ノ華士族平民ノ身分取扱ノ儀ハ總テ東京府ニ於テ管掌スヘキ事

但院省ニテ華士族平民呼出ノ節ハ直ニ本人へ相達スヘキ事

第三條

府縣ヨリ當府下へ寄留ノ者へ家祿奉還金公債証書等交付ノ如キハ内務省ヲ經由シ東京府ニ於テ下ケ渡スヘキ事

第四條

府縣へ諸布告布達等ノ類ハ各其院省ヨリ郵送スヘキ事

第五條

處刑濟及ヒ脱籍ノ者ハ直ニ東京府へ引渡シ同府ヨリ従前ノ手續ヲ以送還スヘキ事

第六條

府縣受納ノ金穀是迄郵送ヲ以取扱來候分ハ總テ内務省ニテ其主務ノ省へ回納シ又ハ其府縣へ郵送方可取扱事

第七條

家祿奉還公債証書モ亦前條ノ手續タルヘキ事

第八條

院省ヨリ府縣へ郵送セシ諸公文及ヒ金券等ハ到着ノ上速ニ領受ノ証書ヲ其院省へ郵致スヘシ府縣ヨリ院省へ郵達セシモノモ亦同様可取計事

第九條

書面ニテ辨理シ難キ事件アリテ府縣主務ノ判任官出京セシ時ハ着京歸縣<sub>ニ</sub>遲滯ナク内務省へ可届出事

第十條

府縣ヨリ郵達スル文書ノ上包ニハ其省名ヲ書記シ若シ其事機密ニ涉ルモノハ長官又ハ次官ノ名ヲ書シ傍ヲニ親展等ノ文字ヲ記スヘキ事

第十一條

府縣ヨリ郵達セシ書類ニ若シ主管違ヒノ申牒等アル時ハ成丈ケ送  
還ノ手數ヲ省キ直ニ其主務ノ省ヘ回送スヘキ事

第十二條

院省ニ於テ若シ指令掩滯等ノ事アル時ハ直ニ郵便ヲ以其主務ノ長  
次官ヘ督促スヘキ事

京極郡ノ郵達ハ内務省ノ下置事務  
海山ニ郵達スルモノハ其主務ノ省ニ回送スヘキ事  
其主務ノ省ニ回送スルモノハ其主務ノ省ニ回送スヘキ事  
其主務ノ省ニ回送スルモノハ其主務ノ省ニ回送スヘキ事

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

太政官日誌明治八年第十一號

○二月二日

〔達書〕

內

務

省

別紙大藏省伺横濱港稅關西檢査場構内地所買上之儀朱書之通及指令  
候條官有地ニ組入方可取計此旨相達候事別紙略之

○

開

拓

使

北海道諸稅及收入金其年六月十二月兩度之内納受取計歲入之儀ハ其  
名稱員數等取調翌年四月限り大藏省へ可差出旨明治六年七月同十二  
月兩度ニ相達置候處右諸稅ハ每三月納受取計其度々内譯帳別紙離形  
ニ照準取調同省へ可差出且從前之成規ヲ逐々徵收ノ諸稅ハ例規ノ如  
ク納受ノ手續取計明治三年定額金取極候以後ニ興ル新稅ハ離形ノ通

分界ヲ立テ總テ上納可致候條此旨更ニ相達候事 別紙雜形略之

但本年一月ヨリ本文之通施行候儀ト可相心得事

○

再相續被 仰付候事 從四位 牧野 忠恭

隱居被 聞食候事 牧野 忠毅

〔第拾號布告〕 輪廓附

明治七年<sup>十一月</sup> 第百拾九號布告士族以下家祿賞典祿百石以上ノ者奉還ノ節資金被下方規則第二條ノ插注ニ奉還ノ高ト有之ヲ本高ト改定候條此旨布告候事

○ 〔第拾壹號布告〕

明治七年<sup>十二月</sup> 第百三拾七號布告證券印稅規則第五則中追加ノ儀ハ明

治八年四月一日ヨリ施行候條此旨更ニ布告候事

○

任海軍中軍鑿 主船寮十等出仕村上伯榮

叙正六位 正七位 森山 茂

○二月三日

〔達書〕 丙 務 省

府縣出張所被廢候ニ付爾來官國幣社祈年新嘗兩祭并官幣社御近陵例祭頒幣式部寮ヨリ其省へ可送致候條夫々配達可致此旨相達候事

○ 陸 軍 省

其省中造兵武庫兩司被廢候此旨相達候事

〔第拾貳號布告〕

陸軍省中造兵司武庫司被廢候此旨布告候事

〔第拾三號布告〕 輪廓附

明治七年七月第七拾五號布告訴答文例中改定原告人被告人ニテ代書人ヲ用ヒサル時ハ親戚又ハ朋友ノ者ヲ以テ差添人トナシ訴狀答書等ヘ連印セシムヘキ旨記載候處自今原告人被告人訴訟手續ニ差支サル者ハ差添人ニ不及候條此旨布告候事

○

清國在留公使館  
附被 仰付候事

陸軍大佐 福原 和勝

免出仕

文部省七等出仕馬込爲助

任六等侍鑒

一等藥劑生山川 幸喜

同

同 渡邊 贊

補少教正

權少教正 率溪 考恭

同

同 新居 日薩

○一月十四日分

兼補權少教正

大山阿夫利神社 權田直助  
祠官兼大講義

○一月廿三日分

任陸軍中尉

陸軍少尉 吉原 光實

○一月廿七日分

任陸軍少尉

中岡 默

出類拔萃

○一頁書法

○一頁書法

○一頁書法

○一頁書法

○一頁書法

○一頁書法

○一頁書法

大山朝太郎

同

同

同

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '大山朝太郎' and '同'.



太政官日誌明治八年第十二號

○二月四日

(達書)

開

拓

使

其使管下北海道産物出港税ノ儀ハ管下道路堤防ノ修築又ハ賑貸給與等專ヲ人民興益ノ用ニ充ツヘク此旨相達候事

但請拂勘定帳ノ儀毎年七月ヨリ翌六月迄ヲ一期トシ十二月限六歳省ヘ可差出尤本年ノ分ハ四月ヨリ六月限リノ勘定帳來ル十二月迄ニ可差出事

(第十四號布告) 輪廓附

北海道ノ儀ハ開拓草創ノ際ニテ一般ノ税則モ難行場合ニ付官金ヲ以民費ヲ補フ者多々有之因テ今般々道堤防道路ノ修築又ハ賑給等專ヲ

人民興益ノ用ニ充ツヘキタメ該地限產物出港稅則別冊ノ通相定メ本年四月一日ヨリ施行候條此旨布告候事 別冊略之

但明治五年ヨリ同七年マテ閉局候東京大坂兵庫堺敦賀五ヶ所ノ北海道產物會所歩合收入ノ儀相廢シ北海道海關所ヲ船改所ト改稱候事

(達書) 正二位 綾小路 有長

老年ニ付參 内之節立關迄乘車被差許候事

○ 陸 軍 省

東京府華族正二位綾小路有長老年ニ付參 内之節立關迄乘車被差許候條此旨爲心得相達候事

隱居被 聞食候事

正二位 冷泉 爲理

家督被 仰付候事

從四位 冷泉 爲紀

(第十五號布告) 輪廓附

海陸軍刑律法例中左ノ通増加候條此旨布告候事

海軍定員ノ下士降等ニ處スルニ降スヘキ職ナク或ハ其等級隔絶シ現刑施シカタキ各職ノ者ハ當罰中其次等ノ俸ヲ給シ席次モ亦之ニ準スヘシ

(第十六號布告) 輪廓附

郵便切手ノ内半錢壹錢四錢六錢拾錢貳拾錢三拾錢ノ七種左ノ見本ノ

通改定候條此旨布告候事 見本七種略之

但當分從前ノ品取交貼用不苦候事

(第十七號布告) 輪廓附

徵兵令中左ノ通改正增加候條此旨布告候事

第一章第二條一等軍醫副ヲ改メ軍醫副

同章第三條中少錄ヲ改メ下士或ハ軍屬十等以下十五等迄ノ者

同章第五條典事ヲ改メ屬以下十五等迄ノ者

同章第七條二等軍醫ヲ改メ軍醫

但改正スヘキ官名ノ重複スルモノハ總テ其一ヲ改ム以下之ニ準ス

同章中第十三條教導職試補ノ者ヲ增加ス

第五章第四條壹箇年ヲ改メ九拾日

同章第十一條但書服役以下二十字ヲ改メ常備入營期限初日ヨリ算

シ九拾日

同章第十二條矢張り以下九字ヲ改メ常備入營期限初日

第六章第一條府縣ニテ辨スヘシヲ改メ徵兵入費概則ニ照準シ賜ル

ヘシ

同章第十二條末文置クヘシヲ改メ陸軍省へ差出スヘシ

(第十七號達書) 輪廓附 院 省 使 廳 府 縣

諸布達ノ儀ハ事理辨知シ易キヲ旨トシ可成丈平易ノ文字相用候様注意可致此旨相達候事

○

任海軍大機關士

海軍中尉 土屋 平四郎

任海軍少尉

平原 兼論

任海軍少主計

海軍主計副松井 御楯

Faint, illegible text on the left page, possibly bleed-through from the reverse side.

三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

太政官日誌明治八年第十三號

○二月五日

并刊實(第拾八號布告) 輪廓附 使 府 縣

官國幣社經費定額金ノ儀明治七年<sup>九</sup>月<sup>九</sup>第拾壹號ヲ以テ布告候處神官  
月給ヲ始メ甲ノ有餘ヲ以テ乙ノ不足ヲ補ヒ候儀ハ不苦尤定額高ヨリ  
不超過様仕拂殘金有之候ハ、大藏省へ返納可致此旨官國幣社へ可布  
告事

(第拾九號布告) 輪廓附

明治七年<sup>十一</sup>月<sup>十一</sup>第百貳拾三號布告國內回漕規則中第拾五條碇泊稅算則  
左ノ通改定候條此旨布告候事

國內回漕規則

第拾五條

一 碇泊税并ニ云々

碇泊税

五拾石ニ付金五錢ト定メ貳百石迄ハ拾石毎ニ壹錢宛ヲ増ス

貳百拾石ニ付同貳拾錢七厘五毛トス五百石迄ハ拾石毎ニ七厘

五毛宛ヲ増ス

五百拾石以上ハ拾石毎ニ五厘宛ヲ増ス

○

任陸軍少尉

岡部

長民

○二月七日

(第貳拾號布告) 輪廓附

外國形日本船輸出入税未納内外貨物回漕規則別冊ノ通相定本年四月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

外國形日本船輸出入税未納内外貨物回漕規則

第一條

日本郵船會社其他日本船ニテ日本沿海回漕免許ヲ得タル外國形船舶ニ限リ自今國內各開港場間ニ輸入税未納ノ外國貨物并ニ貨主外國人ニテ輸出税未納ノ内國貨物回漕差許候就テハ從來内外交渉密賣買ノ儀ハ嚴禁ノ處尙右ニ類スル所業有之候テハ不相濟儀ニ付回漕規則ヲ設ルヲ左ノ如シ

第二條

凡ソ外國形ノ日本船舶ハ都テ出入港手數并ニ諸貨物船積船卸共各

開港場ニ於テハ税關ノ所轄トス

第三條

前條ノ船滯港中ハ税關ヨリ監吏乗勤スヘシ

第四條

前條ノ船貨物ヲ積積シ或ハ船卸スルハ日出ヨリ日没迄ニ限ルヘシ  
若シ夜中竊ニ貨物ヲ積卸スル時ハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ノ  
罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ  
但日没ヨリ日出迄ハ船中ノ艙口ヲ固封シ置ヘシ若シ勝手ニ開封  
スル時ハ其船長或ハ其會社ニ金六拾圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第五條

甲港ヨリ乙港ニ回漕スル前條ノ船ニ未納税内外貨物ヲ積入レ乙港

ニ輸送セント欲スル時ハ其貨主或ハ其引受人ヨリ差出書各税關ニ用フル積送差出書式ニ貨物ノ品種箇數記號番號元價等詳細相認メ積送ノ儀税關  
へ願出貨物検査濟ノ上積送免狀ヲ受ケ積入ルヘシ若シ此手數ヲ經  
スシテ積入ル、時ハ其現品ヲ沒收ス故ニ其船長或ハ會社タル者ハ  
必ス右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ其品ヲ積入ルヘシ若シ無免狀ノ貨  
物ヲ船積セハ事ノ成否ヲ問ハス其會社或ハ其船長へ其品價同額ノ  
罰金ヲ課スヘシ

第六條

甲港ニ碇泊スル外國船ヨリ都合ニヨリ直ニ貨物ヲ船移シ乙港ニ積  
送ラント欲スル時ハ其貨主或ハ其引受人ヨリ船移回漕ノ差出書  
各税關ニ用フル船移書式ニ貨物ノ品種箇數記號番號等詳細相認メ船移ノ儀税

關へ願出右免狀ヲ受ケ船移スヘキ儀ナレハ其船長或ハ會社タル者  
ハ右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ其品ヲ船移スヘシ若シ無免狀又ハ免  
狀外ノ貨物ヲ船移スル時ハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ノ罰金ヲ  
其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

第七條

前條ノ船舶ヨリ輸出税未納内國貨物ヲ外國船へ積移スルヲ許サ  
ス若シ密ニ之ヲ船移シ又ハ船移セント謀ラハ事ノ成否ヲ問ハス其  
貨物ヲ沒收シ且其會社或ハ其船長ニ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ

第八條

前條ノ船貨物積入レ甲港ヲ出港セント欲スル時ハ其船長或ハ其會  
社ヨリ第壹號ノ如ク積送貨物ノ總目錄貳枚壹枚ハ甲港税關へ置キ壹  
枚ハ乙港税關へ送達スヲ認メ税關へ差出シ出港免狀ヲ受ケ出港スヘシ若シ此手數ヲ經ス  
シテ出港スル時ハ總目錄ニ記載スヘキ品價同額ヲ罰金トシテ其船  
長或ハ其會社ニ課スヘシ

但汽船ハ出港前壹時帆船ハ出港前貳拾四時ヲ隔テ、此手數ヲナ

スヘシ

第九條

前條ノ船甲港ヨリ乙港ニ通航中風順ニヨリ不開港場へ入津スルモ  
輸入税未納ノ外國貨物或ハ貨主外國人ニシテ内國品ヲ船卸スヘカ  
ラス若シ船卸スル時ハ密商スルト否トヲ問ハス其現品ヲ沒收シ且  
其品價同額及ヒ金壹千圓ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

第十條



前條ノ船乙港ニ入港セハ其税關ヘ第貳號書式ノ如ク未納税内外貨物ノ輸入總目錄壹通ヲ差出スヘシ尤此手數ハ入港下碇後休日ヲ除キ四拾八時間ニ爲スヘシ此時間ヲ過ル時ハ壹日毎ニ金六拾圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第十一條

前條ノ輸入貨物總目錄中若シ誤脱アルヲ覺知セハ休日ヲ除キ貳拾四時間ニ更正スルコトヲ得ヘシ若シ此期限ヲ過キ更正スル時ハ金拾五圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第十二條

前條ノ輸入貨物總目錄ヲ甲港ヨリ己ニ回達アリシ積送貨物總目錄ニ照會シ過不足アル時ハ其事由ヲ説明シ條理判然セサレハ不足ノ

貨物ハ甲乙兩港間ニ於テ密商セシ者ト看做シ其品物同價ノ金額并ニ金壹千圓ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ若シ貨物過ナル時ハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ヲ罰金トシテ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

第十三條

前條ノ船入港手數ノ上未納税内外貨物ヲ陸揚スル時ハ其貨主或ハ其引受人ヨリ差出書各税關ニ用フニ貨物ノ品種箇數記號番號元價等詳細相認メ陸揚ノ儀税關ヘ願出貨物検査濟ノ上陸揚免狀ヲ受ケ陸揚スヘシ若シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船卸セハ事ノ成否ヲ問ハス其貨物ヲ沒收ス故ニ其船長或ハ會社タルモノハ右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ其品ヲ船卸スヘシ若シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船

卸シ若クハ船卸セント謀ラハ事ノ成否ヲ問ハス其會社或ハ其船長  
ヘ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ

但外國貨物ハ輸入税上納ノ上陸揚免狀ヲ受ケ陸揚スヘシ

#### 第十四條

前條ノ船舶便利ニヨリ此規則ニ關係スル貨物ヲ互ニ船移スル時ハ  
税關ヘ願出免許ヲ受クヘシ若シ無免狀又ハ免狀外ノ貨物ヲ船移ス  
ル時ハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ヲ罰金トシテ雙方ノ船長或ハ  
雙方ノ會社ニ課スヘシ

#### 第十五條

各港税關ハ祝日祭日及ヒ日曜日ヲ除クノ外毎日午前十時ニ開キ午  
後四時ニ閉スヘシ故ニ此規則ニ揭示シタル時限ト税關ノ開閉時限

トヲ計リ以テ其期限ヲ愆ルヘカラス

#### 第十六條

此他會社或ハ船長タル者貨主又ハ代人ニ與スルト否トヲ問ハス故  
ラニ税金ヲ脱セント謀リ若クハ其他諸般ノ方畧ヲ以テ脱税ヲ謀ル  
者アレハ金壹千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ課スヘシ若シ其事過失ニ  
出テ犯則ニ渉ル者アレハ此規則ニ照シテ罰スヘシ

#### 第十七條

總テ事犯則ニ渉ル者其二犯俱發スル者ハ重キニ就テ處分スヘシ

#### 第十八條

若シ此規則ヲ變更スルヲアレハ一箇月前之ヲ布告スヘシ

#### 第壹號書式

未納稅品輸出目錄

記號番號	箇數	品名	入斤量等或	貨主姓名

右ハ當港ヨリ某港ニ回漕仕候タメ當港ニ於テ當某九船ニ積受候未納稅品書面ノ通聊相違無之且途中不開港場ニ於テ決シテ壹箇タリ

年月日

某會社總代

姓名印

某九船長

姓名印

某港稅關長官誰殿

第貳號書式

未納稅品輸入目錄

記號番號	箇數	品名	入斤量等或	貨主姓名

外國品					

右ハ某港ヨリ當港ニ回漕仕候タメ當某丸船ヲ以テ積來候未納稅品  
書面ノ通聊相違無之且途中不開港場ニ於テ壹箇タリ此船卸仕候儀  
決テ無之候以上

年月日

某會社總代

姓名印

姓名印

某港稅關長官誰殿

○一月二十七日分

任陸軍少尉

相馬 重義

同

河野 茂太郎

同

官部 賤夫

○一月二十八日分

任陸軍少尉

陸軍曹長 青木 兆

同

筒井 元彦

○二月二十七日

陸軍省  
海軍省

○二月二十八日

陸軍省  
海軍省

○二月二十九日

陸軍省  
海軍省

○三月一日

陸軍省  
海軍省

太政官日誌明治八年第十四號

○二月八日

〔達書〕

陸軍省 海軍省

臺灣蕃地ニ於テ戰死之兵員別紙名前之者共招魂社へ合祭被 仰付候  
條夫々可取計此旨相達候事 別紙名前ハ 後ニ出ス

○ 海軍省

臺灣蕃地ニ於テ戰死之兵員別紙名前之者共招魂社へ合祭被 仰付候  
條爲心得此旨相達候事 別紙名前ハ 左ニ出ス

戰死兵員名前 陸軍省

信號士官陸軍大尉

石川 幸安

舊近衛第二聯隊第二大隊附少尉

伊澤 滿

第十九大隊第一中隊曹長

山崎 宗博

全軍曹

吉村 直次郎

徵集隊第六小隊伍長

北川 直征

全兵卒

美代 早太

全

松本 萬次郎

全

大内田嘉右衛門

全

井上 半次郎

第十九大隊第一中隊兵卒

榎本 正善

全第三中隊兵卒

中野 伊助

全第一中隊喇叭一等卒

松下 笑作

第貳拾壹號布告 輪廓附

明治八年郵便規則第百五拾九條何人ニ限ラスノ上ニ東京大坂横濱神戸長崎ヲ除ノ外ノ拾四字ヲ加ヘ候條此旨布告候事

○

補大藏省六等出仕

大藏省七等出仕岩崎小二郎

○一月二十九日分

任陸軍少尉

安永 脩

同

藤本 太郎

同

和田 由舊

同

萩野 彌夫

同

山内 定矩

同

岡本 義健

同

馬場 正雄

同

小林 武貞

同

森 徳太郎

同

横地 重直

同

齋藤 政美

同

藤 要藏

同

岡井 高尙

同

林 治夫

同

宮崎 貞茂

同

力石 知至

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

重松 能通  
柴田 忠雄  
磯野 節  
永井 一刀  
清水 仲  
吉松 靜枝  
内山 定吾  
渡邊 正記  
竹本 直繩  
福富 孝成  
武田 信恭

同 同 同

兒島 高興  
小橋 誠人  
岡田 貫之

○一月三十日分  
任陸軍少尉

鱧 信成

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

大西 卓亮  
谷山 隆英  
別府 忠純  
中條 弘毅  
桑名 素男  
岩崎 恒義



同	同	同	同	同	同	同	同
津田	玉置	肥田木	小野	面高	權少教正	依願免本職	
信秀	彌吉	盛延	六郎	俊一	遠藤		
					胤城		

太政官日誌明治八年第十五號

○二月九日

〔達書〕

驛遞寮郵便切手其外受渡勘定書之儀以來月報ヲ廢シ別紙雛形之通改正致シ每三月報告ハ翌月十日迄年計ハ年々七月中取調可差出此旨相

達候事 別紙雛形畧之

但每三月報告ハ本年一月ヨリ年計ハ昨七年分モ右雛形之通取調早  
早可差出事

○ 文 部 省

其省博物館書籍館博物館小石川藥園共博覽會事務局へ合併之儀自今被差止候條右場所都テ其省所轄可致此旨相達候事

但是迄右兩館ニ蒐集有之候物品書籍等ハ博覽會事務局へ可引渡事

○ 名 東 縣

其縣貫屬士族中野孫惣儀先祖安雄著述之常盤草八册書籍館へ獻納願之通聞届候仍テ其實トシテ金五圓下賜候條此旨可相達事

但賜金之儀ハ大藏省ヨリ可受取事

〔第拾八號達書〕輪廓附 院 省 使 廳 府 縣

文官大禮服着用ノ節敬禮式左ノ通被定候條遵行可致此旨相達候事

文官大禮服着用ノ節敬禮式圖式略之

○判任官ノ通常禮服ヲ以テ大禮服ニ換用ノ節モ亦本件ニヨル

○最敬禮

即チ從前ノ誓折ニシテ

天皇ニ對シ及ヒ祭祀參拜ノ節此式ヲ行フ

腰ヲ屈メ兩手ヲ膝上ニ當テ、拜ス即チ官中等ニテ帽ヲ着サル時

ハ第一圖ノ如クシ庭上又ハ路上 車駕ニ出逢ヒ或ハ祭祀參拜等

ノ節ハ帽ヲ脱シテ左腋ニ插ミ右手ヲ膝ニ當ツル第二圖ノ如シ其

祭服着用祭祀奉仕等ノ者ハ總テ此限ニアラス

○敬禮

臣民相互ノ接遇ニ此式ヲ行フ公門内ニ於テハ知ルト知ラサル

トヲ論セス之ヲ行ヒ公門外ニ於テハ相知ラサル者ハ之ヲ行フ

ニ及ハス

第二圖式ノ如ク帽ヲ脱シテ少ク領ス其官中等ニテ帽ヲ着サル時

ハ僅カニ其頭ヲ領スルノミ

○右ノ外大舍人ノ分番中ハ着帽タルヘク  
 天皇通御ノ外禮式ヲ行フヲナシ但  
 天皇通御ノ節最敬禮ヲ行ヒ三職送迎ノ者及ヒ雜役奉務中ハ敬禮  
 ヲ行フ一般ノ式ニ同シ

○諸門ノ番兵并ニ儀仗兵等文官ニ對シ禮式ヲ行フ時ハ文官ヨリ敬  
 禮ヲ以テ之ニ答フヘシ但己ヨリ先ツ禮ヲ行フヘカラス其 車駕  
 ニ扈從シ又ハ公事整列ノ節ハ答禮ニ及ハス

○朝拜其他諸儀式等ニテ列立ヲ要スヘキ時ハ第四圖式ノ如ク整立  
 シ地上ニ於テハ着帽ノ儘タルヘシ但此際脱帽行禮スルハ一般ノ  
 禮式ニヨルヘシ

○非職有位ノ者ハ禮式總テ本文ニ同シ

任陸軍中尉 製作中屬 田村 景元

補小倉縣七等出仕 森 長義

○一月三十一日分

任陸軍少尉 岡村 壘作

同 藥袋 重郎

同 竹下 司正

同 都築 直基

同 岡 直臣

同 竹内 正策



○二月七日分

任岡山縣權參事

岡山縣七等出仕西 毅一

○二月一日分

補陸軍省七等出仕

坂元 純熙

○二月七日分

補陸軍省七等出仕

坂元 純熙

○二月七日分

補陸軍省七等出仕

坂元 純熙

○二月七日分

補陸軍省七等出仕

坂元 純熙

太政官日誌明治八年第十六號

○二月十日

補陸軍省七等出仕

坂元 純熙

○二月七日分

横濱港ニ屯集ノ英佛兩國之兵隊引拂ノ儀ニ付兩國公使ヨリ外務卿へ  
差出候書簡

以手紙致啓上候然ハ佛國公使一同申進候趣ハ右兩國政府ニ於テ横  
濱ニ從前駐留ノ英國并佛國ノ兵隊引拂ノ儀當今決定イタシ候尤此  
趣申進候ニ付テハ最初我兩國政府ニ於テ條約ノ權理ヲ保護ノ爲メ  
貴國へ兵ヲ差出シ貴國平穩ニシテ且堅固ナル政體成就スルマテ右  
之保護ヲ遂ル事ヲ肝要ナリトセシ時勢柄ヲ今更演說スルハ不要ノ

事ト存候ヘトモ貴國一ト通リナラサル變革有之自然邦國ヲ治メ勢  
力堅固ニ至ラサル中若外國人ノ身命或ハ所有物等危害ノ件有之候  
テハ夫カ爲メ不容易葛藤醸生イタシ候モ難量カリシニ其患害ヲ豫  
防イタシ候ハ此兵隊ノ庇護ニ有之專兼テ御承知ノ通ニ有之候然ル  
處國土追々平穩ニ歸シ政令全備スルニ隨ヒ締盟兩國ノ兵員漸々減  
少イタシ候事ハ

皇帝陛下ノ政府ニ於テモ御注目アル所ニテ昨年ノ暮ニ近キ頃マテ  
ニ貴國太平ノ障リニナルヘキ紛擾彌消滅スルニ當リ我兩國政府ニ  
於テ殘兵ヲ引取ル事速ニ決定イタシ候段御諒解有之度候將又

皇帝陛下ノ政府ニ於テ貴國在留各國人民ニ安堵ヲ得セシムル望ミ  
有之夫カ爲メ要スル處ノ權力盛ナルヲ固ヨリ致信用候ニ付貴國

皇帝陛下ニ對シ懇親ノ確証ヲ表シ候段兩國政府ニ於テ深ク欣悅ス  
ル所ニ候就テハ我兩國ノ兵貴國ニ於テ其務ヲ盡シ候事能ヲ察スル  
ニ大ニ我兵ト貴國ノ面目ニ相成則兩國ノ兵隊在留中貴國ノ士民ト  
懇切ノ交リヲイタシ且相互ニ其用ヲ助ケ候ニ因リ兩國ノ交際一層  
厚ク相成シ一端ト存候右之趣可得貴意如此御坐候敬具

千八百七十五年一月二十七日

外務卿ヨリ兩國公使ヘノ返簡

千八百七十五年一月二十七日附貴簡落手致披見候然ハ貴國英國兩  
政府ヨリ兩國人民條約上ノ權ヲ保護ノ爲メ從來橫濱へ被差置候兵  
隊今般悉皆引拂之儀御決定相成候旨云々御細述ノ條欣然領承イタ  
シ候右ハ我國維新已前ノ形勢寧靜ナラサルヨリ兵隊駐留貴國人民

ノ御庇護被成候儀ノ處我

皇帝陛下國政更張シ外國ノ交際益親密ナルニ隨ヒ國民モ其旨ヲ奉  
戴シ其實驗アルニ至リ今般右兵隊悉皆引拂ノ舉御決定相成候時節  
到來候儀ハ兩國政府於テ最モ相歡フ所ニシテ彌以交際上一層ノ親  
愛ヲ重子候事不容疑殊ニ右兵隊滯在中我國士民ト懇切ノ交ヲ全フ  
シ今引拂相成候儀ハ歡喜ノ至ニ有之候猶爾來如斯ニシテ兩國人民  
ノ友情ヲ懇篤ナラシムルハ素ヨリ我政府ノ希望スル所ニ候此段回  
答可得貴意如此候敬具

明治八年二月七日

太政官日誌明治八年第十七號

○二月十一日 紀元節

神殿御祭典 御風氣ニ依テ 出御アリ 其式  
ヲセラレヌ御代拜ナリ 略之

午前第十一時皇族大臣參議院省使廳府縣ノ勅任官及ヒ屬香間詰參列

ス正殿 出御 鋪宴ヲ  
賜フ

午前九時ヨリ 院省使廳府縣在京ノ奏任官及ヒ有位華族宮内省へ參賀

午後二時マテ 奏任官ハ各廳ニ於テ酒饌ヲ賜ヒ有位  
華族ハ東京府廳ニ於テ酒饌ヲ賜フ

同時判任官ハ各廳へ參賀長官之ヲ受ク 酒饌料  
ヲ賜フ

本日在地方ノ勅奏任官ニハ各廳ニ於テ酒饌ヲ賜ヒ 賀表ヲ  
上ル 判任官ニハ

酒饌料ヲ賜ヒ府縣在任ノ有位華族ニハ管轄廳ニ於テ酒饌ヲ賜フ 賀表  
ヲ上ル

同シ

○二月十二日

〔達書〕

軍人軍屬ノ犯罪免官除隊後發覺處分ノ儀明治七年五月十八日指令ニ及置候次第モ有之候處以來其省ニ於テ處刑可致此旨相達候事

任海軍中尉

免本官

海軍中尉

秋田

實

○二月十三日

〔達書〕

小倉縣下企救郡篠崎新屋敷蟹喰等之地所別紙圖面之通合計拾萬三千四百貳拾七坪

第二種官用地トシテ引渡方可取計此旨相達候事別紙

○

大

藏

省

小倉縣下企救郡篠崎新屋敷蟹喰等之地所合計拾萬三千四百貳拾七坪小倉營所練兵場ニ相用度陸軍省伺之趣聞届官有地第二種官用地トシテ引渡方可取計椽内務省へ相達候條此旨可相心得事

○

内

務

省

別紙工部省伺鑛山寮小阪支廳近傍十輪田銀山坑場并製銀所建築地其他新道取開地之儀朱書之通及指令候條成規之通官有地ニ組入同省へ引渡方可取計此旨相達候事別紙

○

大

藏

省

工部省鑛山寮小阪支廳近傍十輪田銀山坑場并製銀所建築地其他新道



取開地ノ儀ニ付別紙之通内務省へ相達候條此旨可相心得事別紙略之

〔第貳拾貳號布告 輪廓附〕

平民苗字被差許候旨明治三年九月布告候處自今必苗字相唱可申尤祖先以來苗字不分明ノ向ハ新々ニ苗字ヲ設ケ候様可致此旨布告候事

〔第拾九號達書〕

府 縣

明治七年臺灣蕃地處分ノ節傭使候夫卒ノ内蕃地或ハ長崎縣下ニ於テ死亡ノ者其遺骸ハ同縣下小島郷梅ヶ崎へ埋葬地ヲ設ケ夫々葬祭執行候得共當時徵募ノ際其本貫郷里ヲ不識者或ハ自ラ其居所姓名ヲ變シ候者モ往々有之趣苟モ國事ニ懸レ候輩其名籍湮滅候テハ愍然ノ至ニ付各地方官ニ於テ精覈調査ヲ遂ケ左ノ名前ノ者或ハ右ニ似寄心當リノ者有之候ハ、其親族故舊等ヨリ郷里名籍年齡等詳細取調差出候様

管内へ布達シ其有無共來ル二月限り正院へ可届出此旨相達候事

賄 夫 幸 三 郎

九月廿三日於蕃地病死

高田 定七

九月十七日同上

會計部小使

十月五日同上

石塚 寅之助

同上

同人夫

同上

同人夫

同上

同夫卒 已之助

同上

同夫卒 慶 藏

十月十二日同上

東京府下ノ由

十月廿三日

東京府下ノ由

十月廿二日於長崎病院病死

十月廿二日同上

江川 吉太郎  
大倉組夫卒

十月廿四日同上

伊太郎

同上

會計部夫卒

同上

次 助

十月廿八日同上

大倉組馬具職

十月廿八日同上

吉澤 政吉

十月廿八日同上

備看病卒

十月廿八日同上

名東縣下平民ノ由

十一月廿八日同上

小林 文七

大倉組夫卒

十一月廿二日同上

荒川 友次郎

病院夫卒

羽前國大山村

庄内道方町ノ由

中島 幸兵衛

三河國額田郡岡崎

魚町ノ由

井上 榮二郎

黒野 角藏

尾張國丹羽郡

世野村ノ由

九月廿七日同上

佐々木清吉

長崎縣同所ニ  
テ雇入

十月十日於蕃地死亡

千本木勇七

太政官日誌明治八年第拾八號

○二月十四日

○二月(陸軍省伺書)明治八年  
二月二日

田安清水兩御門内近衛歩兵營周圍輪郭堤上樹木ニ從來鴨鳥群集シ  
其尿糞枝梢ニ堆積シテ雨濕之爲メ腐敗氣ヲ蒸發シ醜臭兵舎ニ波及  
致候ヨリ自然人身ノ健康ニ妨害有之現場難閣候間右群鳥至急掃除  
致度就テハ同所屯在之近衛兵隊士官以下之内兼テ狙撃ニ熟達之者  
撰拔之上鳥打銃ヲ以一日凡百發ツ、之見計ニ而二週間程狙撃爲致  
度候尤場所柄之儀ニ付聊麤忽無之様士官等ヨリ嚴密注意爲致候條  
早々御許可有之様致度此段相伺候也

伺之趣聞届候事本日御  
指令

(達書)

各通

東京警視廳  
東京府

別紙陸軍省伺近衛歩兵營周圍群集之鴨鳥狙撃之儀聞届候條爲心得此旨相達候事 別紙載テ前ニアリ

(第貳拾號達書) 輪廓附 院 省 使 廳 府 縣

各廳ニ於テ給仕小使諸職人ノ類ヲ除ノ外御用掛御雇等ニテ事務爲取扱月俸六圓以下給與候者出張巡回ノ節ハ旅費ノ十等ヲ以テ日當下賜候條來ル三月一日ヨリ施行可致此旨相達候事

○二月十五日

○二(達書)

内務省

滋賀縣管下近江國滋賀郡大津町ニ電信局設置候ニ付同所元陣屋跡從前之官用地百九拾三坪貳合工部省官用地トシテ引渡方可取計此旨相達候事

○ 大藏省

滋賀縣管下近江國滋賀郡大津町ニ電信局設置候ニ付同所元陣屋跡從前之官用地百九拾三坪貳合工部省官用地トシテ可引渡段内務省へ相達候條此旨可相心得事

○ 内務省

白川縣管下肥後國飽田郡熊本新壹丁目ニ電信局設置候ニ付同所從前之官用地四拾坪別紙圖面之通工部省官用地トシテ引渡方可取計此旨相達候事

○ 大藏省

白川縣管下肥後國飽田郡熊本新壹町目ニ電信局設置候ニ付同所從前  
之官用地四拾坪工部省官用地トシテ可引渡段内務省へ相違候條此旨  
可相心得事

○ 内務省

佐賀縣下唐津へ區裁判所設立候ニ付該縣支廳官用地之内拾四坪九合  
七勺七才并同所地續福田時中私有地三百拾六坪五合司法省於テ買上  
候分共合計三百三拾壹坪四合七勺七才官有地第二種官用地トシテ同  
省へ引渡方可取計此旨相違候事

○ 大藏省

佐賀縣下唐津へ區裁判所設立候ニ付該縣支廳官用地之内拾四坪九合  
七勺七才并同所地續福田時中私有地三百拾六坪五合司法省ニ於テ買

上候分共合計三百三拾壹坪四合七勺七才官有地第二種官用地トシテ

同省へ引渡方可取計様内務省へ相違候條此旨可相心得事

○ 開拓使

其使金穀出納順序并出納勘定帳難形共別冊之通相定候條本年一月ヨ  
リ右ニ照準シ每三ヶ月勘定帳取調大藏省へ可差出最從前勘定帳へ添  
へ差出來候小譯證書ノ儀ハ再後不及差出候此旨相違候事別冊略之  
但金穀出納順序第十四條ニ掲載候收入經費概算表ノ難形ハ追テ可  
相違候條本年七月以後ノ分ヨリ可差出事

○ 一月三十一日分

任陸軍少尉

岡部 政藏

○ 二月四日分

任陸軍少尉

山上 晴登

○二月五日分

任陸軍少尉

河村 光治

同

中村 一覺

○二月六日分

任陸軍少尉

井尻 誠一

同

吉松 恭輔

同

三原 重雄

同

安西 恕

同

井上 亨

同

花田 耕作

同

加藤 七郎

同

橋本 成博

同

近藤 政明

同

山根 修三

同

河内 諦三

同

横道 是也

同

刈谷 朝如

同

藤村 忠誠

同

村山 正明

同

長屋 尙緝

同

財滿 東一

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

前田	永田	佐々	林	倉知	島	堅田	永田	石田	德積	平田	山本	阿部	田所	荻野	河野	千葉	脇田	横川	今津
善積	恆泰	茂正	昭正	正治	良忠	詮政	政義	正珍	丹五郎	辰造	信行	達	義郷	子儀	毅通	正厚	秀利	義志	利馬





工部省鑛山寮生野支廳機械設置所字應切先答兩山ニ接續セル人民所持地別紙圖面并調書之通買上ノ儀聞屆候條右地所同省官用地ニ組入渡方可取計此旨相達候事別紙

○ 大 藏 省

工部省鑛山寮生野支廳機械設置所字應切先答兩山ニ接續セル人民所持地別紙圖面并調書之通買上之儀聞屆候條右地所同省官用地ニ組入渡方可取計様内務省へ相達候此旨可相心得事別紙

(第貳拾壹號達書) 輪廓附 院 省 使 廳 府 縣

諸官員御用有之各地方へ出張ノ節止宿所明細相認到着次第其管轄廳へ通知可致此旨相達候事

補五等出仕兼勸業寮五等出仕 六等出仕兼勸業寮 田中芳男

補六等出仕 鹽田 真

補七等出仕兼勸業寮七等出仕 八等出仕兼勸業寮 武田 昌次

任置賜縣權參事 置賜縣七等出仕高山政康

○二月十八日

(達書) 内 務 省

東京府下區裁判所設立地第二大區四小區西久保巴町三拾四番地貳千八百三坪八合并第三大區四小區富士見町六丁目壹番地貳千五百坪司法省ニテ買上之儀聞屆候條官有地第二種官用地ニ組入同省へ渡方可取計此旨相達候事

○ 大 藏 省

東京府下區裁判所設立地第二大區四小區西久保巴町三拾四番地貳千八百三坪八合并第三大區四小區富士見町六丁目壹番地貳千五百坪司法省ニテ買上ノ儀聞届候條官有地第二種官用地ニ組入同省へ渡方可取計概内務省へ相達候條此旨可相心得事

陸軍大佐福原和勝清國へ被差遣候ニ付隨行被仰付候事

陸軍中尉 古川 宣譽

○二頁(第貳拾貳號達書) 輪廓附院 省 使 廳 府 縣

本年一第拾六號達府縣往復規程第六條へ左ノ通但書追加候條此旨相達候事

府縣往復規程

第六條

府縣受納ノ金穀云々

但和税金穀納入ノ儀ハ此限ニアラス

依願免出仕

文部省六等出仕永松東海

○明治七年十一月三十日分

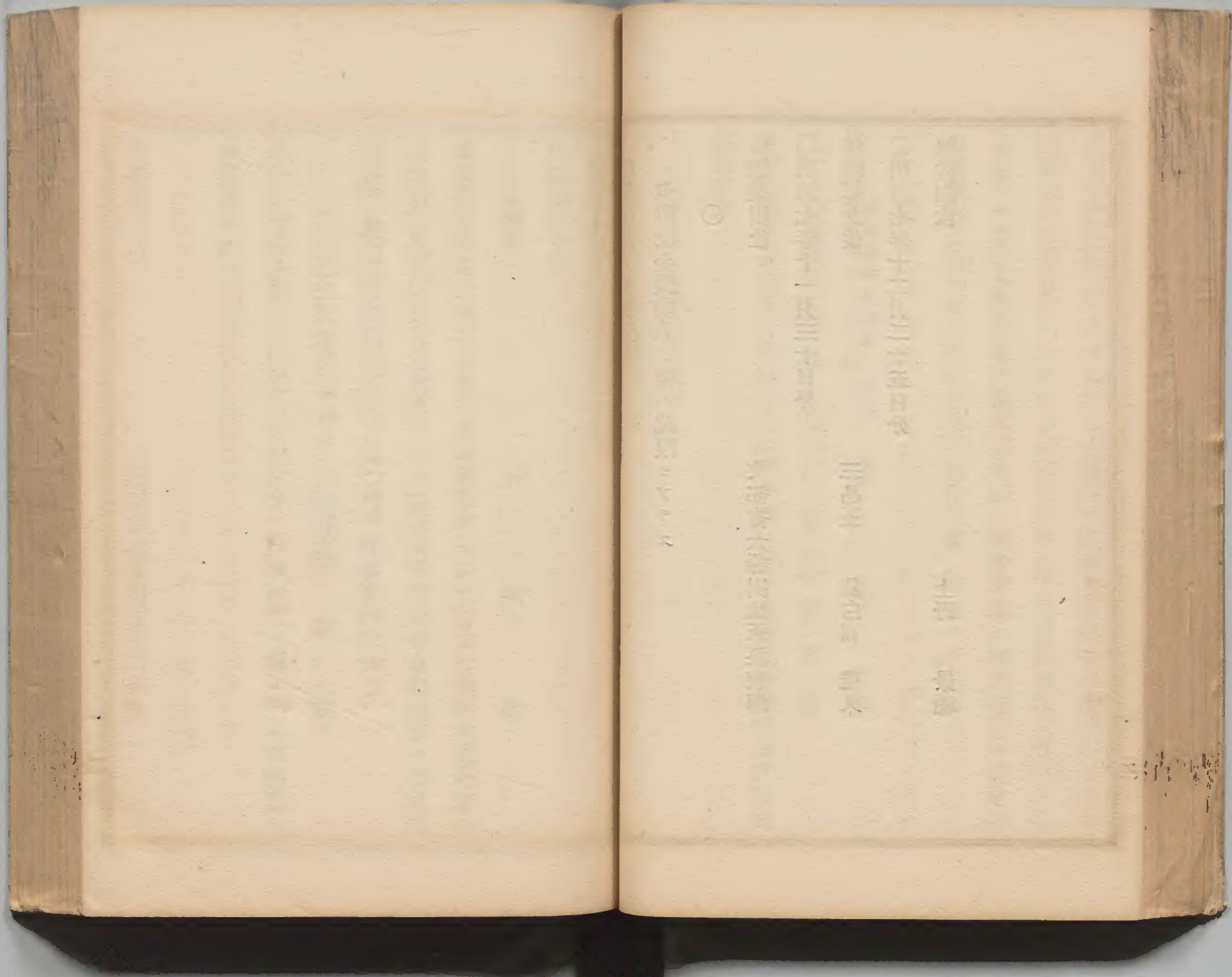
任陸軍少佐

三品王 北白川 能久

○明治七年十二月二十五日分

叙從四位

上野 景範



太政官日誌明治八年第二十號

○二月十九日

(達書)

大藏省

東京府下第二大區巡查屯所敷地新幸町ニ於テ百五拾四坪芝宮本町ニ於テ百三拾貳坪五合官用地トシテ別紙圖面之通東京警視廳へ引渡度旨内務省伺之通聞届候條此旨爲心得相達候事  
別紙圖面零之

(第貳拾三號達書) 輪廓附 華族有之 府 縣

華族ノ輩養女願ノ儀別段事故無之分ハ自今正院へ伺ニ不及管轄廳ニテ聞届共段可届出此旨相達候事

任陸軍大尉

陸軍省九等出仕古賀三銳

任陸軍中尉

陸軍少尉 官原 正人

同

陸軍省十等出仕中隈源四郎

任陸軍少尉

陸軍省十二等出仕伊藤克己

○二月四日分

兼補權少教正

月山神社宮司兼出羽湯 西川須賀雄  
殿山兩神社宮司大講義

○二月六日分

依願免本官

陸軍少尉 莊村 一郎

○二月八日分

兼任陸軍馬醫監

陸軍軍醫總 松本 順  
監正五位

免出仕

造幣寮七等出仕青木休弼

○二月九日分

任陸軍少尉

横田 正徳

同

草場 彦輔

○二月十日分

免本官但位記返  
上之事

海軍中佐 増田 明道

同

海軍少佐 原 直行

○二月十三日分

免出仕

造幣寮七等出仕羽太紀克

同

同 足立 太郎

任陸軍會計軍吏副

陸軍中尉 小原 武平

○二月十四日分

免出仕

造幣寮七等出仕坂倉郁造



別紙司法省上申神奈川裁判所官宅建設地買上之儀朱書之通及指令候  
條官有地第二種官用地へ組入方可取計此旨相達候事別紙

○ 大 藏 省

別紙司法省上申神奈川裁判所官宅建設地買上之儀聞届官有地第二種  
官用地へ組入方可取計襟内務省へ相達候條此旨可相心得事別紙

○ 來二十二日招魂祭 勅 式部寮七等出仕松尾相永  
使參向被 仰付候事

〔第貳拾三號布告〕 輪廓附

從來雜稅ト稱スルハ舊慣ニ因リ區々ノ收稅ニテ輕重有無不平均ニ付  
別紙稅目ノ分本年一月一日ヨリ相廢シ候尤右ノ内追テ一般ニ課稅ス  
へキ分モ可有之候得共差向收稅無之テハ營業取締差支候類ハ當分地

方ニ於テ改テ收稅ノ答ニ候條此旨布告候事別紙稅目

但從前官有地借用右代料トシテ米金相納候分ハ是迄ノ通可相心得  
事

〔第貳拾四號布告〕 輪廓附

明治四年<sup>九</sup>布告綾油稅則ノ儀明治七年十二月三十一日限リ廢止候條  
此旨布告候事

〔第貳拾五號布告〕 輪廓附

舊幕府以來川々堤防費トシテ取立來候國役金ノ儀明治七年十二月三  
十一日限リ廢止候條此旨布告候事

〔第貳拾六號布告〕 輪廓附

明治四年<sup>七</sup>布告酒造取締并ニ稅則及ヒ追々増補等ノ條共本年九月三

十日限り相廢シ更ニ酒税規則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候  
條此旨布告候事

但濁酒醬油醬麴ノ税ハ本文同日ヨリ相廢シ候事

酒類税則

第一則 營業税 釀造税

第一條

一 清酒味淋燒酎白酒銘酒 米雜穀果實何品ニ限ラス釀造シ又ハ蒸溜シテ酒トナスモノ一切 酒造營業又ハ請賣 他ヨリ受賣候モノ 營業致度者ハ其管轄廳へ申立免許鑑札ヲ受ケ一期ノ營業税トシテ一期毎ニ左ノ通上納可致事

酒造營業税

壹種ニ付金拾圓

酒類請賣營業税

金五圓

但營業免許ノ期限ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以一期ト相定候條右一期中何月ニ新規營業候共營業免許ノ節其一期分ノ全額ヲ直ニ納税可致事

第二條

一 酒造營業ノ者ハ酒類賣捌代價拾分ノ壹 金壹圓ニ付拾錢 釀造税トシテ年々上納可致事

但價額ハ前年十月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ平均相場ヲ以管轄廳ニ於テ相定候事

第三條

一 釀造税納期ハ毎年四月三十日限り凡半方 前年平均相場比例ヲ以テ定ム 管轄廳へ上納殘金ハ七月ニ至リ平均相場確定ノ後上納九月三十日限り



管轄廳へ皆濟可致事

第四條

一酒造營業ノ者ハ其一期造高見込ノ石數毎年十月中管轄廳へ可届出事

但營業初年ハ免許鑑札ヲ受候節直ニ其一期中造高見込ノ石數可届出事

第五條

一請賣營業ノ者ハ酒類請賣所ト書タル看板へ免許鑑札ノ番號ヲモ書加ヘ戶外ニ掲ケ可申事

第二則 鑑札検査 醸造検査

第一條

一免許鑑札ハ毎年十月中管轄廳ニ於テ検査ヲ遂ケ其一期免許濟ノ証トシテ鑑札裏面ニ干支ノ印ヲ押シ可相渡候條管轄廳ヨリ相達次第鑑札差出検査ヲ受ケ營業税上納可致事  
但廢業ノ者ハ其節鑑札返納可致事

第二條

一免許鑑札若シ水火盜難等ニテ失却候節ハ其旨管轄廳へ届出新規鑑札可申受事

但手數料トシテ金貳拾錢可相納事

第三條

一免許鑑札ハ貸借決シテ不相成事  
但免許鑑札賣買讓與又ハ改名代替轉居等ノ節ハ其旨管轄廳へ

申立候ハ、鑑札引換可相渡尤前條手數料金貳拾錢可相納事

第四條

一酒類拾石以上釀造高検査トシテ時宜見計管轄廳主任ノ官員巡視可致候條検査前ハ一切賣捌不相成事

但釀造高拾石以下並ニ拾石以上タリテ季節ニ拘ハラズ釀造蒸溜ノ酒類ハ官員巡視ヲ待ニ及ハス區戶長ニ於テ精覈検査ヲ遂ケ其時々石數届出候上ハ賣捌不苦事

第五條

一釀造税管轄廳へ上納皆濟期限前非常ノ災害或ハ腐敗等ノ儀有之節ハ其旨直ニ管轄廳へ届出主任ノ官員検査ノ上他ノ品類ニ變製シ販賣スル者ハ其賣代價格分ノ壹ヲ上納シ全ク廢棄ニ至ル者ハ

其石數ニ係ル釀造税上納ニ不及事

但検査濟ノ腐敗酒ヲ以テ有税ノ酒類ニ變製候共其酒類ニ屬スル營業税ハ別段上納ニ不及事

第六條

一若シ非常ノ災害或ハ腐敗等ノ儀其節届出スシテ検査ヲ受ケサル者ハ既ニ届出タル石數ヲ以テ釀造税上納可致事

第三則 賞罰例

第一條

一免許鑑札ヲ受ケス密造營業致シ候者ハ其酒類ハ勿論器械共取上ケ壹石ニ付金七拾五錢ノ割ヲ以テ科料可申付事  
但密造酒類既ニ賣捌候ハ、其代金取上ケ可申事

第二條

一 免許鑑札借受酒造營業致シ候者ハ前條密造同様處分致シ貸渡候者ハ一期營業稅五倍ノ科料可申付事

第三條

一 釀造高檢査ヲ受ケス又ハ檢査ノ際釀造高ヲ隱蔽シ賣捌候者ハ其賣代金取上ケ密造同様ノ科料可申付事

第四條

一 免許鑑札ヲ受ケス請賣營業致シ候者ハ一期營業稅五倍ノ科料可申付事

第五條

一 免許鑑札ヲ借受ケ請賣營業致シ候者ハ前條同様ノ科料申付貸渡シ候者ハ一期營業稅ノ三倍科料可申付事

第六條

一 區戸長ニ於テ檢査ノ節不正ノ取計致シ候歟或ハ不正ノ情ヲ知り見道シ候儀有之ニ於テハ律ニ照シ處分可致事

第七條

一 前條々ニ掲ケタル處ノ犯則人ヲ見届訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ科料金并ニ取上品拂高金拾圓ニ付壹圓宛下サルヘキ事

〔第貳拾七號布告〕輪廓附

明治六年<sup>月</sup>第三拾壹號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨七年十二月三十一日限り相廢シ尤遊船ノ儀ハ本年一月一日ヨリ昨七

年二月第貳拾壹號布告解漁船并ニ海川小廻船等船稅規則ニ照準收稅シ  
車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通相定同月同日ヨリ施行候條此旨布告  
候事

三 車稅規則

- 一 馬車貳匹立以上 壹箇年稅金三圓
- 一 同 壹匹立 壹箇年稅金貳圓
- 一 荷積馬車 壹箇年稅金壹圓
- 一 人力車貳人乘 壹箇年稅金貳圓
- 一 同 壹人乘 壹箇年稅金壹圓
- 一 牛車 壹箇年稅金壹圓

一 荷積大七六八車 壹箇年稅金壹圓  
一 荷積中小車 但大六以下 壹箇年稅金五拾錢

第二則

- 一 新調ノ車ハ總テ其都度區戶長ヘ届出檢印可申受事
- 一 但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事
- 一 新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事
- 一 右稅金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戶長ヘ取集メ其管

一 轄廳へ可相納事

但前半年分ハ其年七月三十一日限り後半年分ハ翌年一月三十  
一日限り其管轄廳へ可相納事

第五則

一 荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事

第六則

一 諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍科  
料タルヘキ事

〔第貳拾八號布告〕 輪廓附

煙草ノ儀來ル明治九年一月一日ヨリ課稅可致候條此旨布告候事

但稅則ノ儀ハ道ヲ可及布告事

〔第貳拾九號布告〕 輪廓附

本年三月十一日ヨリ以後一六ノ日ハ各郵便局共郵便爲替不取扱候條

此旨布告候事

但大ノ月三十一日ハ此限ニアラス

兼補大藏省七等出仕

記録寮七等出仕吉田次郎

任陸軍大尉

陸軍裁判所 小川 盈進  
八等出仕

補陸軍省七等出仕

陸軍省八等出仕櫻井安宅

任陸軍少尉

陸軍裁判少錄事 中村宗孝

補海軍省七等出仕

戸田 雅喬

免本官

海軍少尉 鳥山 俊傑

大政官日誌明治八年第二十二號  
○二月二十二日  
〔達書〕  
熊本鎮臺管轄地連接ノ地所別紙圖面朱點内合計貳萬三千八百七拾九  
坪八合餘同臺練兵場ニ相用度陸軍省伺之趣聞届候條官有地第二種官  
用地トシテ引渡方可取計此旨相達候事別紙圖  
面略之  
○  
大藏省  
熊本鎮臺管轄地連接之地所合計貳萬三千八百七拾九坪八合餘同臺練  
兵場ニ相用度陸軍省伺之趣聞届候條官有地第二種官用地トシテ引渡  
方可取計様内務省へ相達候此旨可相心得事  
○  
内務省

大政官日誌明治八年第二十二號  
○二月二十二日  
〔達書〕  
熊本鎮臺管轄地連接ノ地所別紙圖面朱點内合計貳萬三千八百七拾九  
坪八合餘同臺練兵場ニ相用度陸軍省伺之趣聞届候條官有地第二種官  
用地トシテ引渡方可取計此旨相達候事別紙圖  
面略之  
○  
大藏省  
熊本鎮臺管轄地連接之地所合計貳萬三千八百七拾九坪八合餘同臺練  
兵場ニ相用度陸軍省伺之趣聞届候條官有地第二種官用地トシテ引渡  
方可取計様内務省へ相達候此旨可相心得事  
○  
内務省

熊谷縣下武藏國入間郡川越區裁判所附屬檻倉地トシテ同所舊城地之内百四拾八坪九合三勺司法省官用地ニ組入同省へ渡方可取計此旨相達候事

○ 大藏省

熊谷縣下武藏國入間郡川越區裁判所附屬檻倉地トシテ同所舊城地之内百四拾八坪九合三勺司法省官用地ニ組入同省へ渡方可取計様内務省へ相達候條此旨可相心得事

○

家督被仰付候事

入江太美麻呂

〔第三拾號布告〕 輪廓附

民事訴訟審判ノ儀人民一般傍聽差許候條此旨布告候事

但男女ノ間ニ起リシ風儀ニ關スル訴訟ハ此限ニアラス

〔第三拾壹號布告〕 輪廓附

等外吏ニ準スル者犯罪條例左ノ通相定候條此旨布告候事

條例

凡等外吏ニ準スル者戸長ヲ除クノ外罪ヲ犯スニ俸給等外四等ノ金額ニ及ハサル者及ヒ日雇ノ者ハ並ニ本籍ヲ以テ論ス

〔第三拾貳號布告〕 輪廓附

蠶種製造組合條例并蠶種製造組合會議局規則共別冊ノ通相定候條本年ヨリ施行可致此旨布告候事

但明治六年<sup>四月</sup>第百四拾號布告蠶種取締規則ハ廢止候事

蠶種製造組合條例

第一條

四節

製種人組合結立ノ手續

第二條

五節

頭取并以下役員撰舉及ヒ定款等差出方ノ手續

第三條

七節

組合ノ役員上任ノ製限順序等

第四條

貳節

蠶種製造ノ程限

第五條

四節

蠶種原紙願受ノ期限及ヒ買受方ノ手續

第六條

六節

蠶種原紙組内へ配賦ノ手續

第七條

五節

蠶種精撰ノ手續

第八條

四節

印紙願受ノ手續

第九條

三節

印紙貼付ノ手續

第十條

貳節

組合結立ノ後新規加入ノ手續

第十壹條

九節

蠶種製造等ノ禁令

第十貳條

十一節

蠶種製造等ノ者罰例及ヒ検査人處務上ノ罰例等

第十參條

三節

此條例ニ依リ別段ノ免許ヲ以テ蠶種ヲ製造スルヲ得ヘキヲ

第十肆條

貳節

蠶種製造人組合ノ旨趣

通計拾四條

六拾七節

蠶種製造組合條例

蠶種製造ノ儀ハ從來各地方ノ便宜ニ依リ組合ヲ立其業ヲ營ト雖モ未タ方法ノ精確ナラサルヨリ各自目的ヲ異ニシ巨多ノ製造ヲ要シ精粗混同シテ其聲價ヲ減却スルニ至ルノミナラス竟ニ破産ノ基ト相成候向モ不尠候間共同公撰一般精良ノ蠶種ヲ製造シ且無限ノ製造ナカラシメンカ爲メ爰ニ蠶種製造組合ノ方法ヲ制定スル條々左ノ如シ



但從來社ヲ結ヒ又ハ組合ヲ立テ蠶種製造セシ者モ一般此條例ニ依リ更ニ組合ヲ結立スヘシ

第一條

四節

製種人組合結立ノ手續

第一節

蠶種ヲ製造セントスルニハ其地ノ便宜ニ應シ組合ヲ立ヘシ即チ其人數ハ必貳拾五人以上タルヘシ

第二節

蠶種ヲ製造スルハ養桑相當ニ充備シ原種壹枚部以上ヲ養育スル者ニ非レハ組合ニ入蠶種ヲ製造スルコトヲ許サス

第三節

此組合ヲ立ツル者共連署シテ組合結立ノ願書ヲ其區戸長ノ奥印ヲ受ケ管轄ノ廳ヘ差出スヘシ

但土地ノ便宜ニヨリ他管下交錯スルモカトシ

第四節

地方官ハ其願書ヲ檢シ不都合ナキニ於テハ組合結立ノ證書并定款ノ差出方ヲ命スヘシ

第二條

五節

頭取并以下役員撰舉及ヒ定款等差出方ノ手續

第一節

組合ノ者共ハ管轄廳ノ命ヲ受テ後一同協議ヲ盡シ投票又ハ便宜ノ方法ヲ以頭取及ヒ檢査人等ヲ撰任シ組合結立ノ證書并定款ヲ其廳ニ差出スヘシ

但組合中隣保ノ便宜ヲ謀リ適宜ニ戸數ヲ區分シ其區分中ニ於テ一名ツ、世話役ヲ撰任スヘシ尤頭取始役員ノ多寡ハ組合人員ニ應シ便宜ニ任スヘシ

第二節

組合結立證書ニ掲載スヘキ要件ハ

第一 組合ノ名號并取扱所ノ地名

但其組號ハ諸省寮司府縣等ノ稱號ニ混セサル  
名稱ヲ附スヘシ且其號ハ管轄廳ノ承認ヲ得テ  
後公唱スヘシ

一取扱所ハ組内ノ便宜ニ依リ更ニ之ヲ設立セス組内  
ノ者居宅ヲ以假ニ取扱所ト定ムルモ妨ナシ

第二 組合中ノ者姓名并住所

第三 組内各自所有ノ桑園及ヒ小作受桑園ノ歩數并買  
入約定ノ分共桑枝ノ束數桑葉ノ貫數地主賣主ノ  
姓名等

第四 備立原種ノ枚數

第五 身元積立金ノ額或ハ有無

第六 此條例ヲ遵守シ蠶種ヲ製造スヘキノ旨

第三節 右ノ證書ハ組合ノ者一同記名調印シテ其區戶長ノ奥印ヲ  
乞ヒ管轄廳ニ差出スヘシ

第四節 組合ノ定款ハ結立ノ要領ヲ記載シ尙組内申合ノ規則ヲモ  
調整シ一同記名調印シテ管轄廳ニ差出スヘシ

第五節 管轄廳於テハ右願書并證書定款申合規則トモ一同之ヲ内  
務省ニ出スヘシ

但組合結立ノ證書定款申合規則共各正副二通ヲ出シ内  
務卿ノ承認ヲ得テ後地方官奥書鈐印シテ之ヲ其組合ヘ  
下付スヘシ

第三條

七節

組合ノ役員上任ノ制限順序等

第一節

組合頭取及ヒ検査人等ノ印信并組印等ハ其印影各二枚ヲ管轄廳へ出シ内一枚ヲ其廳ヨリ内務省へ差出スヘシ

第二節

頭取検査人等ハ原種貳枚部以上ヲ養育シ且蠶業熟練ノ者ヲ以充ツヘシ

第三節

頭取検査人等ハ上任ノ節ニ誓詞ヲ爲シ事務ニ於テ忠正確實公平ヲ旨トシ且條例規則等ニ聊モ悖戾セサル旨ヲ認メ正副二通ヲ管轄廳へ出シ其廳ヨリ一通ヲ内務省へ差出スヘシ

第五節

組合營業上ノ事務ニ付テノ諸願届又ハ證書約定書及ヒ往復ノ文書等マテ其組ノ號ヲ用ヒ組印ヲ押スヘシ

但諸願届又ハ證書類等ハ頭取検査人等ノ名印ヲモ加フ

第六節

組合中集議ヲ以論定スヘキ件ハ結句同論ノ多キ方ニ從テ確定スヘシ

第七節

此組合中ノ者ハ轉業又ハ他江移住等ノ外ハ自己ノ都合ヲ以猥ニ其組合ヲ脱スヘカラス  
但事故アリテ其組ヲ脱センコトヲ欲スル者ハ組内集議ノ上之ヲ脱セシメ其旨管轄廳へ届出ヘシ

第四條

二節

蠶種製造ノ程限

第一節 組合中製造ノ蠶種ハ原種一枚ニ付製種五拾枚ヲ目度トス  
ヘシ

但成繭検査ノ上良繭少ナキ者ハ之ヲ減シ良繭多キ者ハ之ヲ増シ組内限り原紙ヲ流用スルハ此限ニアラス

第二節 蠶種製造ノ額ハ内外供用ノ適度ヲ立ルヲ要ス故ニ組合中製造ノ額ヲ定メ或ハ之ヲ増減スルハ各組合頭取集會ノ協議ニ委スヘシ

第五條

四節

蠶種原紙願受ノ期限及買受方ノ

第一節

組内ニテ製造スル蠶種ノ原紙ハ桑園并掃立原種ノ數ト自用販賣用ノ目途トニ應シ其確實ナル員數ヲ區別詳記シ組合中凡積ノ總額製種人員取調帳簿相仕立(第一號離形ノ如シ)頭取并以下役員記名調印シ組内明細表(第二號離形ノ如シ)相添前年ノ十二月限り管轄廳へ差出スヘシ

第二節

管轄廳於テハ之ヲ其翌月中迄ニ管内各組ノ分取纏メ合計調帳ヲ添(第三號離形ノ如シ)内務省へ差出スヘシ

第三節

右凡積製種ノ額届方ハ期月ヲ後ルヘカラス若シ期日ヲ後ル、キハ原紙澁立ノ數ニ加ヘサルヘシ

第四節

原紙買請方ノ手續等ハ蠶種原紙規則ニ遵フヘシ

第六條

六節

蠶種原紙組内へ配賦ノ手續

第一節

此組合ニ於テ買受ノ原紙ハ其組内一様ニ中書認入組號ノ印ヲ押シ毎戸ヘ分賦スヘシ

第二節

製絲人等自用ノ蠶種ト雖モ都テ前節同様タルヘシ

第三節

製糸人等自用種ノ分原紙一枚以下ノ製造ヲ欲スル者ヘハ半裁又ハ四裁シテ配賦スルモ妨ナシ

第四節

然レモ品質検査等ハ全紙江製造ノ分モ同様タルヘシ

但中書并組印等ハ全紙ノ儘ニテ認加之ヲ分裁スヘシ

第五節

各組事務取扱所へ原紙買受配賦ノ手数料トシテ原紙元價四分ノ一ヲ給與スヘシ

第六節

組合事務取扱所於テハ原紙配賦ニ付テノ手数料等製糸人ヨリ一切乞ヘカラス

第七條

五節

蠶種精撰ノ手續

第一節

成繭製種ノ期ニ至ラハ検査人世話役兩人以上ニテ組内毎戸繭ノ品質蛾ノ強弱等ヲ實檢親試シ良繭ヲ撰ミ其生繭ノ數ト蛾ノ歩方ニ應シ製種ノ枚數ヲ概定シ各自凡積ノ額ニ照考シ原紙配與スヘシ

第二節

但検査ノ上良質ノ生繭ニアラサル分ハ製種ヲ止ムヘシ組内蠶種出來揚ノ上ハ每區世話役ニテ取集メ取扱所へ差出シ蠶種紙每壹枚検査人於テ檢閲シ精良ノ蠶種紙へハ検査ノ證印ヲ捺スヘシ若シ検査人ニ於テ粗惡品ト認メシ分

ハ更ニ頭取検査人一同ノ公評ヲ以テ之ヲ鑒別シ其蠶種紙ハ管轄廳へ差出シ處分ヲ受クヘシ

但検査ノ際ニ當テハ製種人於テ蠶種ノ精粗ヲ評論スヘ

カラス且検査ノ當日ハ豫メ管轄廳へ届ケ出スベシ時宜

ニ依リ地方官員又ハ勸業寮官員巡視スル事アルヘシ

第三節

頭取検査人ノ公評ヲ以粗惡濫造品ト鑒定シ差出セシ蠶種ハ管轄廳ニ於テ更ニ検査ノ上粗惡濫造ノ分ハ直ニ之ヲ燒

却シ其枚數組號及製造人姓名等詳記シ内務省へ届出ヘシ

第四節

蠶種検査相濟次第現在出來高帳取調(第四號雜形ノ如シ)管轄廳へ差出シ印紙受取方申立ヘシ

但見蠶種検査ノ風穴種等製造地方是迄ノハ取調方ハ管轄廳ニ類ヲ區別シ現在出來高帳取調へ差出シ印紙受取方申立

ヘシ

第五節

右現在出來高調帳各組ヨリ差出次第取纏メ管轄廳ヨリ内務省江差出スヘシ

第八條

四節

印紙願受ノ手續

第一節

蠶種印紙ハ製種凡積ノ額ニ照合シ大藏省ニ於テ製造ノ上其年七月中ニ各地方官へ渡シ置ヘシ

但印紙雛形ハ追テ布告スヘシ

第二節

地方官於テハ各地ノ組合頭取ヨリ其年蠶種紙ノ現在出來高帳差出次第其額ニ照シ印紙稅收入ノ上印紙下ケ渡スヘ

第三節

蠶種印紙税ハ春蠶并夏蠶掛合セ風穴種等ノ區別ナク都テ左ノ通收入スヘシ

全紙江貼用ノ分

淡墨色 印紙壹枚ニ付 金拾錢

分裁紙貼用ノ分

黃色 印紙壹枚ニ付 金貳錢五厘

但半裁ノ分江ハ貳枚四裁ノ分江ハ壹枚宛ヲ貼用シ

其割合ヲ以税金收入スヘシ

第四節

蠶種印紙下ケ渡殘ハ現在渡高仕譯書相添印紙税トモ一同

第九條

三節

印紙貼付ノ手續

第一節

組合頭取於テ蠶種印紙管轄廳ヨリ受取シ上ハ組内製造ノ蠶種紙ヲ取扱所へ取集メ每紙ニ位置離形ノ如ク裏面へ印紙ヲ貼付シ頭取之ニ繼印スヘシ

但頭取ハ檢査人ノ檢印ヲ証トシ印紙貼付ノ繼印ヲナス

ヘシト雖モ若シ不正ノ蠶種アルキハ第七條第二節ニ照

準スヘシ

第二節

頭取製造ノ蠶種印紙繼印ハ檢査人ノ内ニテ押印スヘシ

第三節

印紙貼付ノ節贏餘原紙ハ取集置都テ原紙規則ニ照準處分スヘシ

第十條

二節

二十

組合結立ノ後新規加入ノ手續

第一節

組合結立ノ後其組へ加入ヲ乞フ者アラハ頭取ニ於テ速ニ之ヲ承諾シ其者所有ノ桑園其外トモ第二條第二節ノ如キ證書ヲ取置組合中へ告知シ其旨ヲ管轄廳へ申立ヘシ但組合結立ノ後加入ヲ乞フ者アルハ既ニ凡積製種高届書差出セシ後ノ加入人ハ其年ノ製種ハ不相成翌年ヨリ製造スヘシ

第二節

組合結立ノ後加入セシ姓名等ハ其時々管轄廳ヨリ内務省へ届出ヘシ

蠶種製造等ノ禁令

第一節

此組合ノ者ハ他ノ組或ハ他ノ養蠶人製造ノ繭ヲ買入蠶種ヲ製造スヘカラス

但蠶種製造人へハ組内タリトモ生繭賣渡スヘカラス

第二節

印紙貼付セサル蠶種紙賣買スヘカラス

第三節

春蠶ノ原紙へ夏蠶掛合セ風穴種等仕付又ハ夏蠶其外ノ原紙へ異質ノ蠶種ヲ仕付或ハ原紙規則外ノ紙へ蠶種製造スヘカラス

第四節

余附再出ノ製造并薄附粗班ノ分へ粘付補裝等總テ詐偽製造ハ一切嚴禁タルヘシ

第五節

他組合ノ者製造ノ蠶種紙へ該組製造ノ證印ヲ押シ又ハ該

二十一



組製造ノ品へ他ノ組號ノ證印ヲ借受捺スル等都テ嚴禁タルヘシ

第六節 組内ノ者ト雖異質ノ蠶ヲ養育シ成繭ノ後一家へ集合シ蠶種製造スヘカラス

但組内同質ノ原種掃立養蠶成繭ノ後數戸集合シ又ハ組内一舍ニ於テ養蠶ノ上蠶種ヲ製造シ組號印ノミヲ捺スル分ハ此限ニアラス

第七節 生繭検査ノ以前ニ蠶種製造スヘカラス且検査人於テ惡質ト認メ製種ヲ止メシ繭ヲ以製造スヘカラス

第八節 蠶尿紙へ産卵有之候トモ自用并賣買等相成ラス

第九節 右ノ條生テテ犯スモノハ罰則ニ從テ其ノ處分スル

第十二條 十一節 濫造等違犯ノ者罰例及ヒ検査人處務上ノ罰例等

第一節 此條例第十一條ノ第一節及ヒ第四節第五節第六節第七節ヲ犯スモノハ其製造ノ蠶種紙取上壹枚ニ付金五十錢ノ料申付ヘシ若シ既ニ賣買スルキハ買受人ヨリ其品取上ケ賣渡人ヨリ代金追償申付ヘシ

但買受人情ヲ知ル者ハ賣渡人ト同罪タル可シ

第二節 同條第二節ヲ犯賣渡候者ハ其代金取上ケ買受候者ハ其品取上ケ雙方トモ印紙稅十倍宛ノ料料申付ヘシ

第三節 同條第三節ヲ犯ス者ハ製造ノ蠶種紙取上原紙料十倍ノ料申付ヘシ若既ニ賣買スル時ハ買受人ヨリ其品賣渡人ヨ

第四節

リ賣代金取上雙方共同様ノ科料申付ヘシ

同條第八節ヲ犯シ賣渡シ候者ハ其代金取上ケ買受候者ハ

其品取上ケ雙方トモ金五圓ヨリ多カラサル罰金申付ヘシ

第五節

頭取検査人等規則ヲ犯スニ於テハ總テ本科壹倍ノ科料申付ヘシ

第六節

若シ違犯ノ廉重複シ俱ニ發覺スルキハ逐條科料金追徴スヘシ

但此條例中禁令ノミニテ罰例ヲ掲ケサルモノハ其罪ノ

輕重ニ從テ金五圓ヨリ多カラサル罰金申付ヘシ

第七節

組合中ノ者詐偽濫造等不正ノ所業アルヲ頭取及ヒ検査人

ハ其犯科ノ輕重ニヨリ金五拾圓ヨリ多カラサル罰金申付

犯人ハ本科ニ處スヘシ若シ又頭取検査人等組内ニ黨與シ

テ不正ヲ謀ルニ於テハ犯人ハ夫々本科ニ依リ處分シ頭取

検査人ハ貳百圓ヨリ多カラサル罰金申付ヘシ

第八節

頭取検査人若シ處務上ニ於テ非分ノ所業アルキハ貳百五拾圓ヨリ多カラサル罰金申付ヘシ事若シ本律ニ渉ル者ハ

律例ニ照シ處斷ス可シ

第九節

各組合ノ者犯則ノ所業アルヲ他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ事實取糺ノ上其品ニ依リ取上ケ科料金ノ十分一ヲ其訴

主ヘ給與スヘシ

第十節

取上ノ蠶種精良ノ品ハ取上品ノ證印ヲ押シ公ノ入札ヲ以

拂下ヘシ尤規則外ノ原紙へ製造ノ分又ハ粗惡ノ種類ハ燒却スヘシ

第十一節 諸種ノ科料金取立並取上品入札拂等其地ノ裁判所ニテ處分シ裁判所無之場所ハ地方官ニ於テ處分スヘシ

第十三條

三節

此條例ニ依リ別段ノ免許ヲ以蠶種ヲ製造スルヲ得ヘキ

第一節 蠶種ヲ製造スルモノ僅少ノ地方等ニテ此條例ノ組合難相立場所ハ少クトモ七人以上タルキハ其組合結立ノ儀ヲ願出ルヲ得ヘシ

第二節

地方官ハ其事情ヲ詳明ニシ之ヲ内務省へ伺出許可ヲ得テ後部テ此條例ニ遵テ相當ノ處分ヲナスヘシ

第三節

製絲家等ニテ全ク自用種ノミ製造ヲ欲スルキハ最寄蠶種製造組合取扱所ニ附屬シ原紙買受製造スルハ苦カラス尤印紙貼用等都テ此條例ノ第八條及ヒ第九條ノ趣旨ニ遵フヘシ且組合取扱所於テハ原紙并印紙受與等組内ト見做シ處分スヘシ

但最寄地方蠶種製造組合無之場所於テ製絲家ノミ自用

ノ蠶種製造ヲ欲スルキハ前節ニ遵テ更ニ内務省へ伺出

ヘシ

第十四條

二節

蠶種製造人組合ノ旨趣

第一節

此組合ハ蠶種製造ヲ以專業トスルモノナレハ各地方共互

何國何所  
蠶種原紙  
賣捌所

淡墨色  
印紙  
組合頭  
取印  
繼



検査人  
証印

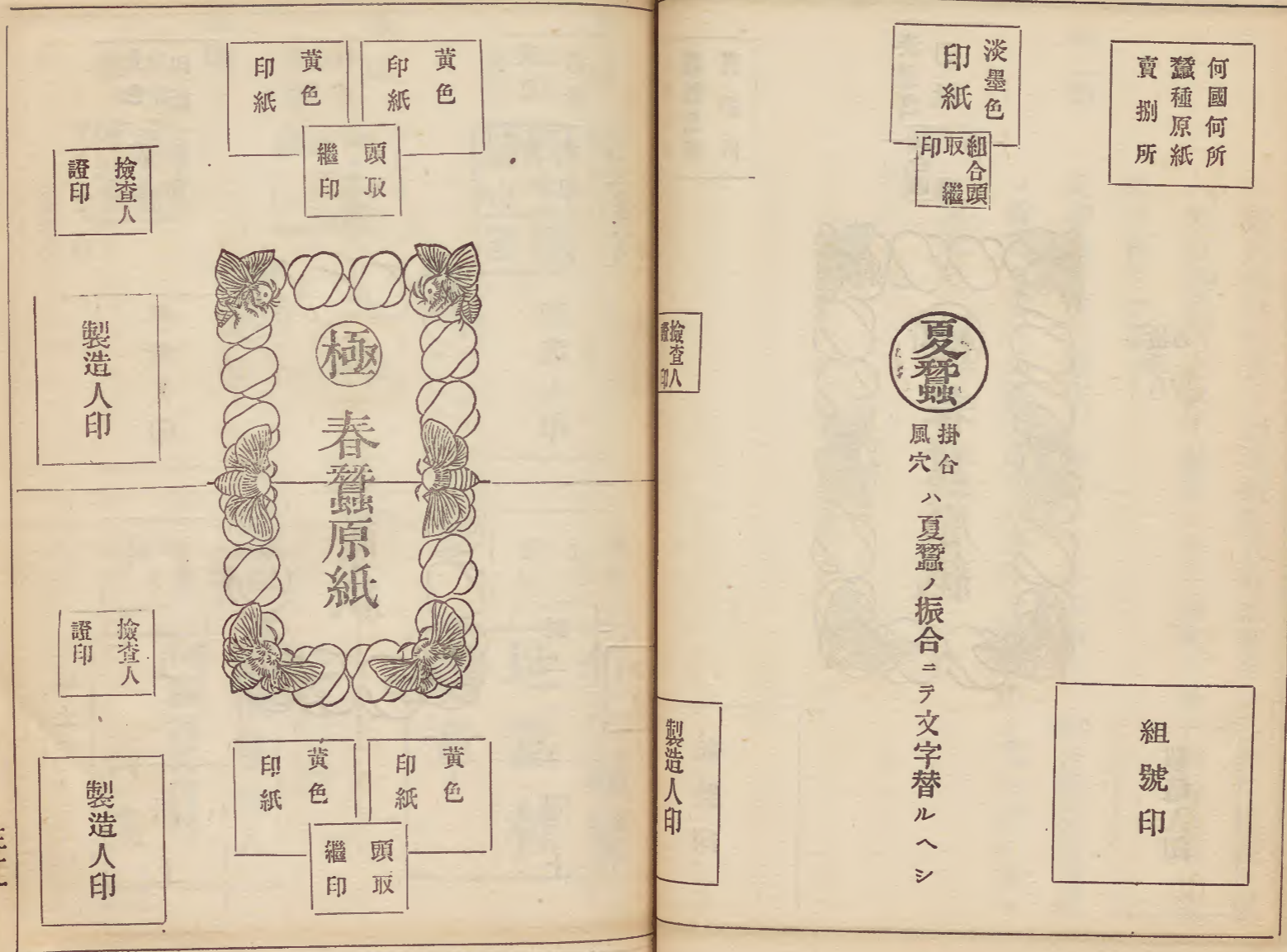
製造人印

組號印

第二節

ニ協同通知シ或ハ頭取検査人等他組合ノ實際ヲ巡視シ又  
ハ集會熟議ノ上勉テ精製ノ術ヲ講究シ廣ク内外供用ノ適  
度ヲ商ルヲ要ス

此組合條例ヲ遵守シ創立シタル各地方ノ組合頭取等前條  
ノ旨趣ニ依リ公議決定セシ條件ハ組合中ノ者ニ於テ素ヨ  
リ私議スヘカラス



黄色印紙  
黄色印紙

頭取  
繼印

検査人  
証印

製造人印



極  
春蠶原紙

検査人  
証印

製造人印

黄色印紙  
黄色印紙

頭取  
繼印

淡墨色  
印紙

組合頭  
取繼印

何國何所  
蠶種原紙  
賣捌所

検査人



掛合ハ夏蠶ノ振合ニテ文字替ルヘシ  
風穴

製造人印

組號印

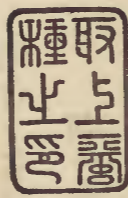
分 裁 四

印紙 黃色 繼印	頭取 印	檢査人 證印
製造人印	極 春蠶原紙	製造人印
同上	同上	同上
同上	同上	同上
同上	同上	同上

墨印

取上

豎壹寸壹分  
橫七分

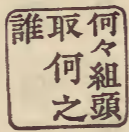


品印

朱印

組頭  
合取  
印

方七分



墨印

檢査  
人證  
印



朱印

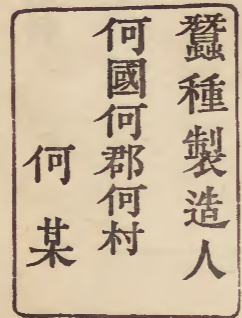
組號  
印



墨印

製造  
人印

豎壹寸七分  
橫壹寸三分



總テ蠶種紙へ可押用印肉ハ蜂蜜製或ハ酒製ニ限ルヘシ且組號印并頭  
取検査人製造人名印等ハ其組ニ於テ各自ニ彫刻スヘシ  
但取上品ノ證印ハ地方官ニ於テ彫製スヘシ

蠶種製造組合結立證書 文例

蠶種製造ノ儀ニ付明治八年 月 日御發行ノ蠶種製造組合條例ニ  
基キ組合ヲ立營業致シ度私共協議ノ上取極タル證書左ノ如シ

第一條

組合ノ名號

何々組

取扱所  
何國何郡何村何番地

但當分何國何郡何村何番地何ノ誰宅ヲ以假ニ取扱所

第二條

組合ノ者姓名并住所

姓名	住本籍所并	寄留宿所
何ノ誰	何國何郡何村何番地住	
何ノ誰	何國何郡何村	何國何郡何村 何番地寄留
何ノ誰	何々	
總計		

第三條

所有桑園并小作受桑園ノ歩數桑枝桑葉ノ貫敷地主賣主ノ姓名等





第六條

此組合ハ蠶種製造組合條例ヲ遵奉シ其御趣意ニ基キ良種ヲ製造シ私  
共一同ノ利益ヲ謀ル爲ニ取設タリ故ニ萬一條例ノ趣旨ニ背ク者アル  
キハ私共一同何様ノ御咎ヲ蒙リ候トモ聊申分無御坐候

右組合結立之證據トシテ各姓名ヲ記シ調印致シ候也

年 月 日

組合中連印

右蠶種製造組合結立證書之趣保証ノ爲メ奥書調印イタシ候也

區 長印

明治 年製造

蠶種 原紙 凡積取調帳

何縣管下

何國何郡

何々々 組

掃立原種何拾枚

一 春蠶原紙何拾枚

但 全紙

製種人 何拾人

製糸人自用製種ノ分四裁以上ニ分裁ノ上組合ヨリ賣渡スハ  
不苦ト雖モ組合於テハ全紙ヲ以買下可申事

内譯

何拾枚

自用

内 何枚

全紙之分

何枚

分裁之分

内

何枚

二ツ切之分

此數何枚

何枚

四ツ切之分

此數何枚

何拾枚

得意場引種

右御印紙

全紙用之分

何拾枚

分裁用之分

何拾枚

掃立原種何枚

一 夏蠶原紙何拾枚

製種人 何人

内譯

前ニ倣フ

此御印紙何拾枚

分裁ノ分アラハ  
前ニ倣ヒ詳記スヘシ

掃立原種何枚

一 掛合原紙何拾枚

製種人 何人

此御印紙何拾枚

掃立原種何枚

一 風穴種原紙何拾枚

此御印紙何枚

製種人  
何人

右寄

厚紙何拾枚

薄紙何拾枚

全紙用御印紙

分裁用御印紙

何百枚  
何百枚

右者明治

半製造製種原紙并御印紙凡賣書行之通御座候御規則之通

製種之分相渡候者無御坐候間別紙明細表相添差出申候御規則之通  
夫々御下々渡奉願候也

年 月 日

何々組 印

頭取

何國何郡何村

何之誰 印

檢査人

何國何郡何村

何之誰 印

蠶種製造組合明細表

組合中姓名并住所

姓名	本籍并住所	寄留宿所
何 誰	何國何郡何村何番地住	
何 誰	何國何郡何村	何國何郡何村何番地寄留
何 誰	何々	何々
總計何名		

所有桑園

小作受桑園

買入桑

組合姓名

養桑

幾枚	春蠶	夏蠶	春蠶	夏蠶	掛合	何 誰	掃立原種			植付桑枝桑葉數	植付桑枝桑葉地主姓名	桑枝桑葉賣主姓名
							種繭飼繭絲繭飼組姓名	何坪何年何束何貫	何步何年何束何貫			

幾枚	、	、	、	、	、	、	、	何ノ誰
	、	、	、	、	、	、	、	總計

明治 年製造

蠶種 原紙 凡積合計帳

何 縣府

一 春蠶原紙何拾枚

再譯

何拾枚

何拾枚

此印紙何拾枚

一 夏蠶原紙何拾枚

此印紙何拾枚

分裁之分有之節ハ前條ノ如シ認譯ケヘシ

一 掛合原紙何拾枚

此印紙何拾枚

一 風穴種原紙何拾枚

此印紙何拾枚

厚紙何拾枚 右寄

薄紙何拾枚

全紙用印紙何拾枚

分裁用印紙何拾枚

右者明治年製造蠶種原紙并印紙凡積書面之通有之候依之別紙何册相添差出申候也

年 月 日

内務卿宛

府 長官名

明治 年

何 々 組

何府管下

何國何郡

何々組

製種人 何拾人

外何人休業ニ付減

原紙願請後休業ノ人員如此認ムヘシ

全紙

分裁之分

分裁ノ分有之節ハ如此認譯ヘシ

凡積春蠶種何拾枚

一 春蠶種何拾枚

内

何枚

何枚

内

何 枚

二ツ切之分

此數何拾枚

何 枚

四ツ切之分

此數何拾枚

外 何 枚

原紙贏余相成候分

凡積夏蠶何拾枚

一 夏蠶種何拾枚

外 何 枚

同斷

内 何 枚

粗惡之分

粗惡ノ分ハ如此ニ認  
譯差出スヘシ

掛合共前ニ做フ

右者當明治 年蠶種現在出來高書面之通相違無御座候也

年 月 日

頭取檢査人

連 名 印

蠶種製造組合會議局規則

蠶種製造組合頭取及蠶種紙商人等集會シ蠶種製造ノ方法通商ノ景況ヲ協議シ其營業上ニ於テ一般ノ便益ヲ得セシメンカ爲メ爰ニ會議局之規則ヲ設クル條々左ノ如シ

第一條

會議ハ各地方蠶種製造組合頭取等蠶種製造上之事ヲ議スルノ會ニ

シテ毎年一度之ヲ開クヲ以テ常例トス

但會議局ハ東京府下便宜之地ニ於テ豫メ設ケ置ヘシ

第二條

會議ノ本主ハ蠶種精製ノ法ヲ講究シ又ハ該年製造ノ額ヲ商定シ或ハ賣買上ノ便否ヲ斟酌シテ其議ヲ尽スヲ以テ專要トス

第三條

會議局ノ議員ニ權撰スヘキ各地方ノ頭取ハ管轄廳ニ於テ毎年一月  
中ニ管下各組ノ頭取ヲ召集シ投票ヲ以テ壹名又ハ便宜ニ依リ貳名  
乃至三名ヲ限リ撰舉スヘシ

但其姓名ハ豫メ内務省勸業寮ヘ届出ヘシ

第四條

會議ノ節東京横濱其他ニ於テ蠶種精製手續ニ賣買スル商人ノ内五名  
乃至十名ヲ各地方組合頭取ノ撰舉ヲ以議員ニ加入セシムルコトヲ得  
ヘシ

第五條

常式ノ會議ハ毎年二月中旬ヲ以定期トシ開局ノ期日ハ議員集會ノ  
上決定スヘシ

但各地方組合ノ都合ニ寄リ臨時會議ヲ開クコトアルヘシ

第六條

都テ會議ニ付決定セシ條件ハ其旨趣ヲ詳明ニ記録シ議員調印ノ上  
其時々勸業寮ヘ届出ヘシ

但其要旨ヲ摘記シ官許ノ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以之ヲ世上ニ



公告スヘシ

第七條

蠶種精選方及ヒ桑園ノ地味撰方并栽培ノ方法ヲ切瑳シ或ハ製造ノ  
概目ヲ立或ハ賣買上一般ノ便益ヲ謀ル等蠶業上通常ノ事件ハ會頭  
ヨリ之ヲ衆議ニ附シ其可否ヲ決定スヘシ

第八條

議事ノ可否ハ同論ノ多キ方ニ依リ決スヘシ若シ同數兩立タルキハ  
會頭之ヲ判決スヘシ

第九條

但可ト決シタル條件ハ各議員ニ於テ必ス實地之ヲ踐行スヘシ

第十條

會議局ヨリ蠶業上ニ付開申スヘキ文書等ハ會頭并幹事等ヨリ勸業  
頭へ直達スルヲ得ヘシ

第十一條

此會議局ハ議事結了ノ後ト雖モ議員ノ衆議ニ因リテハ既ニ決定セ  
シ事務ヲ各地方ノ組合へ通知往復シ或ハ整頓セシムル爲メ數名ノ  
委員ヲ置キ處務セシムルヲアルヘシ

第十二條

開局并閉局ノ節ハ其旨勸業寮へ届出ヘシ

第十三條

各府縣管轄限リ集議所ヲ設ケ豫メ毎年會議開局ノ節協議スヘキ事務ヲ集議セシムル等ハ其地方ノ便宜ニヨルヘシ

議員規則

第一條

會頭

一員

會議局ノ規則ヲ掌リ議員ヲ總轄シ通常會議ノ條件或ハ議員中ヨリ建議ノ事ニ就テ衆議ヲ興シ議員立論ノ旨趣ヲ熟考シ同數兩立ノ衆議ヲ判決スヘシ故ニ會議ノ席ニ於テ自己ノ論ヲ發スルヲ得ヘカラス

副會頭

幹事ノ内ヨリ便宜之ヲ置ク

一員ニ不過

第二條

幹事

定員ナシ

局中ノ事務ヲ分掌シ記錄會計其他一切ノ庶務ヲ調理スヘシ

第三條

議員中各自投票ヲ以十名乃至十五名ヲ撰舉シ之ヲ幹事ト定メ又互ニ公撰シテ會頭副會頭ヲ撰舉スヘシ

第四條

會議局着席ノ順序ハ豫メ抽籤ヲ以之ヲ定メ每會必其席ニ就ヘシ

第五條

會議ノ時間ハ豫メ會頭之ヲ定メ置ヘシト雖議事ノ結了ヲ要スルアレハ便宜之ヲ伸縮スヘシ

第六條

開局中ハ毎日出頭シ議事關涉ノ事務ヲ處スヘシ

第七條

開局ノ當初一ノ事件ヲ議スルハ其旨趣ヲ詳細ニ辨明シ或ハ議案ヲ分附シ領承セシメ事ノ輕重ニ依リ期日ヲ定メ第二次會ニ各其考案所見ヲ演述シ之ヲ審議スヘシ

但發議ハ每員着席ノ順序ヲ以テシ一員辨論中他ノ議員默聽シテ其論議ヲ洞達セシムルヲ要ス

第八條

各員審議決定セシ條件ハ其趣旨ヲ詳細ニ記錄シ各自調印シ後証

第九條

會議中甲議員ヨリ乙議員ニ對シ詰問或ハ質問スル事アレハ必ス之ヲ會頭ニ問ヒ會頭之ヲ乙ニ問フヘシ乙又之ヲ會頭ニ答ヘ其答ヲシテ甲へ會頭ヨリ辨明スヘシ自己互ニ討論スルヲ得ヘカラス

第十條

會議中互ニ禮節ヲ守リ粗暴ノ舉動アルヘカラス若シ犯ス者ハ衆議ノ上其者ヲ退去セシムヘシ議事中言ノ差謬アルハ會頭之ヲ糾スヘシ

第十一條

會議ノ日議員事故アツテ欠席ノ節ハ他ノ一員へ代議セシムヘシ

第十二條

議員五分以上欠席ノ節ハ當日議事ヲ開ク可ラス

〔第貳拾四號達書〕 輪廓附 院 省 使 廳 府 縣

明治七年<sup>九月</sup>第百貳拾九號達ヲ以テ改正候月俸規則中第貳拾壹條へ左ノ通但書追加候條本年三月一日ヨリ施行可致此旨相達候事

一 捕亡吏書記給仕門番小使等云々

但捕亡吏遷卒番人ニ限リ月俸拾貳圓未滿ノ者ト雖モ病氣引歸郷ノ節ハ第拾五第拾六兩條ニ據テ給スヘシ尤右等ノ内全ク民費ヲ以テ設置候分ハ地方ノ適宜タルヘシ

〔第貳拾五號達書〕 輪廓附 府

縣

府縣判任官以下同等中月給差等ヲ廢シ候旨明治七年<sup>五月</sup>第百六拾九號ヲ

以テ相達置候處右ハ等外五等六等モ廢シ候儀ト可相心得ル旨更ニ相

達候事

但等外四等以上ハ從前ノ官等相當月俸支給可致事

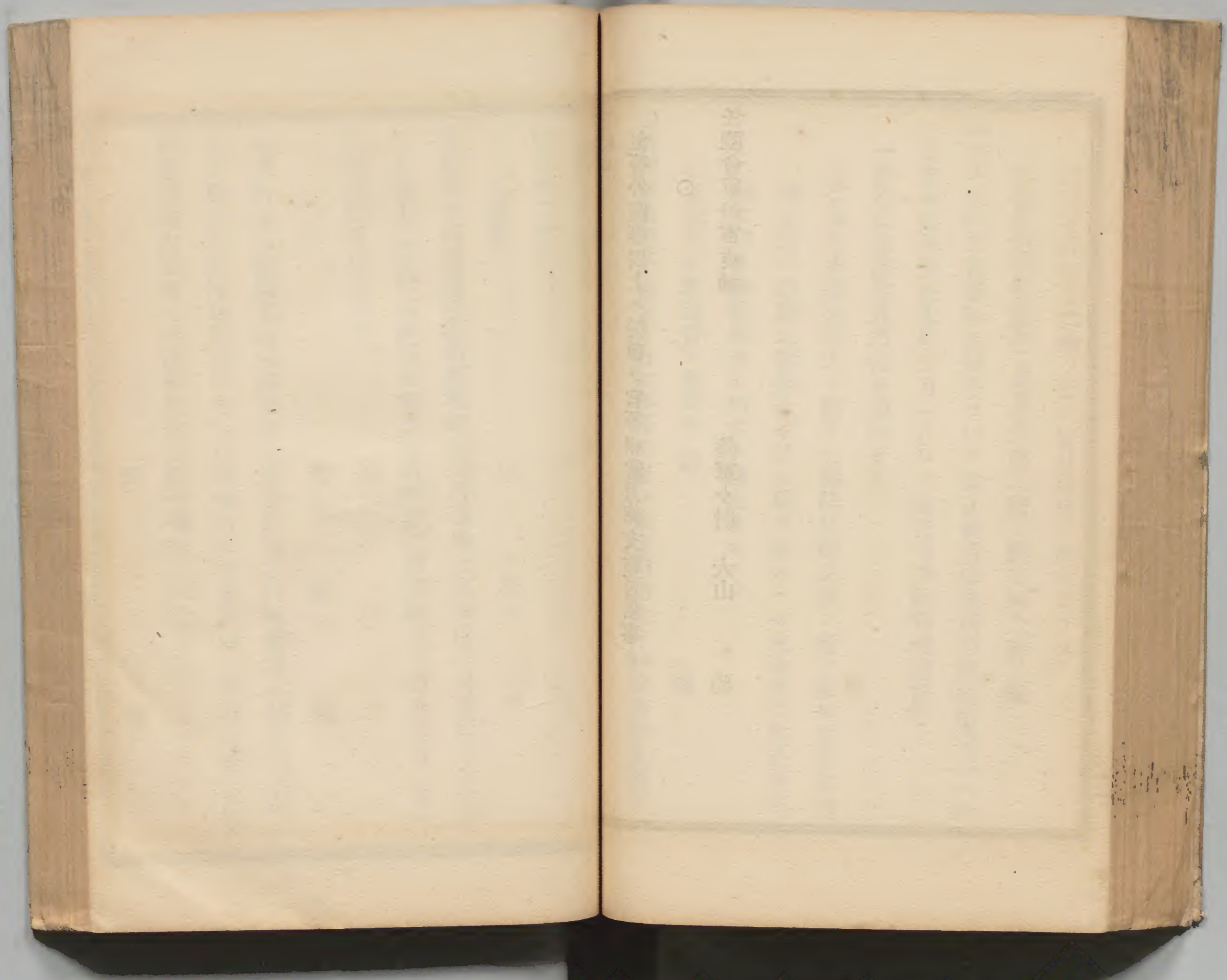
○

任陸會軍計軍吏補

陸軍少尉

大山

約



○二月二十三日

(達書)

內務省

大坂府下高麗橋電信局鄰地即商人所持地之内四拾坪并建屋共工部省  
ニテ買上之義聞届候條右地所官有地第二種官用地ニ組入同省へ渡方  
可取計此旨相達候事

大藏省

大坂府下高麗橋電信局鄰地即商人所持地之内四拾坪并建屋共工部省  
ニテ買上之義聞届候條右地所官有地第二種官用地ニ組入同省へ渡方  
可取計様内務省へ相達候此旨可相心得事

○ 同 省

司法省園地之内千六百拾四坪餘別紙圖面之通返地候ニ付更ニ東京警  
視廳へ官用地トシテ引渡度旨内務省伺之通聞届候條此旨爲心得相達  
候事 別紙圖  
面略之

外務省四等出仕田邊太一

中督學 畠山 義成

權少内史 金井 之恭

權少外史 久米 邦武

仰付候事

大使事務局書類取調御用被

任權少外史兼五等議官

五等議官兼七  
等出仕正七位 安川 繁成

任五等議官

任陸軍會計軍吏補

陸軍省十一等出仕補 景成

同

同 栗村 信武

任主船少匠司

白峰 駿馬

任海軍少主計

海軍主計副野村 貞信

任宮城縣參事

宮城縣權參事正七位遠藤温

○二月二十四日

大 藏 省

(達書)

新治縣管下常陸國新治郡藤澤村神宮寺畑地之内萬里小路藤房之遺跡  
建碑之儀内務省伺出之旨有之右畑地壹畝拾八步官有地第三種ニ組入  
當明治八年一月ヨリ反別引之儀許可候條此旨相達候事

東 京 府 大 坂 府

神奈川縣 兵庫縣  
 長崎縣 新潟縣  
 茨城縣 堺縣  
 宮城縣 敦賀縣  
 飾磨縣 山口縣  
 各通  
 名東縣

北海道諸產物出港稅收入之儀ニ付今般第十四號ヲ以布告候處右產物  
 專輸入スルノ港ニ於テモ取締嚴重不相立候テハ不都合ニ付右規則中  
 第拾條之旨趣其<sub>府</sub>縣所轄船改所等ニテ特ニ注意シ不取締之儀無之様可  
 爲致尤右取締等ニ付別段費用ヲ要スルアレハ開拓使ヨリ償還之筈ニ  
 付同使へ可申出此旨相達候事

任陸軍中尉 梶原 景謙  
 任陸軍會計軍吏補 陸軍省十一等出仕園田實廣  
 免本官 六等侍醫 赤星 研造  
 叙正五位 從五位 伊集院 兼寛  
 同 正六位 大山 巖  
 叙從五位 同 吉原 重俊  
 同 同 伊東 方成  
 同 同 九鬼 隆一  
 叙正六位 從六位 深江 順暢  
 同 同 滋野 清彦



同 同 同 同 同 叙正七位 同 同 同 同 同 叙從六位 同 同 同

大塚 正男  
兒島 惟謙  
元田 永孚  
橫山 由清  
正七位  
淺井 晴文  
同  
山田 信道  
同  
安藤 博高  
同  
松岡 康毅  
同  
渡邊 積  
野村 維章  
同  
須藤 時一郎  
齋藤 次郎太  
渡 六之介  
浦 春暉  
秋月 胤永  
兒玉 淳一郎  
一川 研三  
田口 太郎  
吉永 成德

同 同 同 同 同 同 同 同

名村 泰藏  
井上 毅  
安藤 正道  
渡邊 春貞  
猿渡 盛雅  
田中 弘義  
河内 直方  
小原 正朝

○二月二十五日

〔達書〕

内務省

諸達之内是マテ其省ヨリ東京警視廳へ傳達候モノモ有之候處自今總  
テ該廳へ直達候條此旨可相心得事  
但諸申牒等朱批裁下之分ハ從前之通

○ 東京警視廳

諸達之内是迄内務省ヨリ傳達候モノモ有之候處自今總テ其廳へ直達  
候條此旨可相心得事

○ 但諸申牒等朱批裁下之分ハ從前之通

陸軍大佐福原和勝清國へ被  
差遣候ニ付隨行申付候事

陸軍省十一等出仕下村修介

〔第三拾三號布告〕輪廓附

明治六年七月第貳百五拾五號布告鎮臺條例中左ノ通改正候條此旨布告  
候事

第一條

第一 軍管ハ第一師管(營所東京)第二師管(營所佐倉)第三師管  
(營所高崎)ヲ包括シ東京鎮臺ニ統率ス

第三條

東京師管云々

佐倉師管云々

高崎師管々々内 新發田 高田

仙臺師管云々 以下従前ノ通

第十一條

凡ソ要塞ノ司令將校ハ直チニ陸軍卿ニ隸スルヲ正例トス云々

第二十五條

凡ソ諸隊將校下士兵卒進級ノ事ノ爲ニ檢閱使各軍管内ヲ巡  
回スル時ハ尉官拔擢名簿ハ司令將官ヨリ下士以下ノ拔擢名簿  
ハ聯隊長獨立大隊ヨリ直ニ檢閱使ニ呈スベシ

第二十六條

檢閱使其拔擢名簿ヲ受ケ檢閱終ルノ後自己ノ所見ニ從ヒ商評  
ヲ加ヘ而シテ後期日ヲ刻シ各兵檢閱使司令將官ト會合シ拔擢

名簿稿本ヲ撰シ正副二本ヲ作り其一ハ鎮臺ニ止メ其一ハ陸軍  
卿ニ呈ス

第二十七條

刪去ス

第二十八條

以上四條現今未行ノ註ヲ刪去ス

第四十九條

凡ソ屯營病院等物品需要ノ項ハ該臺附屬司契課ニ令シ例規ニ  
照シ其求メニ應セシメ又屯營等脩繕諸工事ハ該臺交渉ノ工兵  
方面ヨリ之ヲ受ケ兵器武器並ニ彈藥等ノ支給ハ交渉ノ砲兵方

面内本廠若クハ支廠ヨリ之ヲ取ルコトヲ得ヘシト雖モ預メ本省  
ニ陳告シ陸軍卿許可ノ上ニテ專ニ從フヘシ

第五十四條

其部下兵隊ノ便宜兵卒ノ生計等事或ハ一隊ニ渉ルモ或ハ一人  
ノ身上ニ係ルモ總テ經理會計ノ事ニ就テ申告セル愁訴該隊ノ  
司令官查確シテ其實ヲ得ハ鎮臺ノ將官ニ申告シテ所屬司契課  
ニ移シテ處置ヲ請フヲ得ヘシ但シ士官下士兵卒トモ所屬外ニ  
於テ生計等ノ事ヲ申告スルト軍秩ヲ紊ルトヲ許サス

○

補大藏省七等出仕

小代 靖

叙正六位

從六位 樺山 資紀

同

同 中村 孝禧

同

叙從六位

同

正七位

岡林

茂基

同

伏谷

惇

同

大森

次久

同

笠

貞繼

叙正七位

同

鷹森

茂

同

馬渡

作二郎

石川

亮

○二月二十七日

〔第三十四號布告〕

明治七年台灣蕃地處分ノ節陸海軍士官兵隊夫卒等死亡ノ者祭祀ノ爲  
メ勅使發遣來ル三月廿二日長崎縣下梅ヶ崎埋葬地ニ於テ祭典被爲行  
候ニ付右死者ノ親族當日參詣可爲勝手此旨布告候事

同但參着候向ハ同所祭典掛ヘ可申出事

同〔第貳拾六號達書〕輪廓附 院

省

示廳

各廳御雇外國人内謁見願出候節自今其廳長官ヨリ正院ニ可伺出此旨

相達候事

分國軍〇

同

同

同

任陸軍大尉

陸軍中尉

內田

武宗

同

同

後藤

常伴

同

同

本城

幾馬

同

同

沖田

元廉

同

同

井上

正永

同

同

井關

千似

任陸軍中尉

陸軍少尉

竹田

義純

同

同

古川

治義

同

同

山本

彈

同

同

鎌田

宜正

同

同

石島

壽平

任海軍中尉

海軍少尉

長井

利英

任海軍少尉

吉江

忠信

補官内省五等出仕

總領事從五位中山

讓治

叙正六位

從六位

高島

茂德

同

同

中村

尙武

叙從六位

正七位

風間

繁成

同

同

松村

延勝

同

同

仲木

之植

同

同

大島

久直

同

同

清水

敬義

同 寺田 利正

同 德田 盛芳

同 西池 成顯

同 宮下 慎堂

叙正七位 藤井 包總

同 諫早 清春

同 山内 長人

同 大野山 忠光

同 中島 惟一

同 今村 明尊

同 池部 彌一郎

同

○二月二十八日

〔第三拾五號布告〕輪廓附

大坂造幣寮ニ於テ是迄鑄造ノ壹圓銀今般更ニ量目相増貿易銀ト唱ヒ  
隨テ表裏ノ模様量目ノ公差并鑄造費ヲ割合等夫々別紙ノ通改正鑄造  
候條此旨布告候事別紙

〔達書〕 外 務 省

貿易銀貨増量并模様改正之儀別紙之通布告候ニ付テハ其省ヨリ在留  
各國公使へ可及通達此旨相達候事別紙

○海 軍 省



横須賀造船所ニ於テ新製之軍艦清輝號船御式ニ付來ル三月五日同所

へ臨幸被仰出候條此旨相達候事

但諸事官内省へ可打合事

○

任陸軍少尉

陸軍省十二等出仕尾間忠一

叙從六位

正七位 小野 修一郎

同 渡邊 忻三

叙正七位

伴 正利

同 二月二十八日

○三月二日

〔第三拾六號布告〕 輪廓附

本年二月第拾七號布告徵兵令改正中教導職試補ノ者ヲ增加スト之ツル  
一條削除候條明治七年六月第七拾號布告ノ通可心得此旨布告候事

依願免出仕但位記  
返上

愛知縣七等出仕安田成裕

叙正七位

岡部 政資

同

關川 尙義

○三月三日

〔達書〕

東京警視廳

巡查懲罰例中左之通改定追加候條此旨相達候事

改定

第拾九條 凡當直交番時限ニ違フ者苦使三日一時毎ニ一等ヲ加ヘ

苦使十日ニ止ル

追加

第二十二條 凡正條アリト雖モ其犯情ノ輕重ヲ酌量シ遞減或ハ加

等スルコアルヘシ

○

司

法

省

巡查懲罰例中左之通改定追加候條爲心得此旨相達候事  
改定追加候件前ニ同シ

依願免出仕

内務省六等出仕前山清一郎

任岩手縣參事

岩手縣權參事正七位竹中寛

○明治七年十一月八日分

叙正七位

高津

慎

○同年十二月二十五日分

叙從四位

正六位

青木

周藏

叙從六位

品川

瀨二郎

○八年二月六日分

任陸軍少尉

別役

良顯

同

富田

春壁

同

村上

昌輔

同

山口

長成

同

○二月七日分

任陸軍少尉

松本 箕居

同

同

○二月八日分

任陸軍少尉

矢野 茂

平井 信義

永久 直敦

玉虫 豐彦

原 親宗

捐原 透

小田 為通

同

○二月九日分

依願免本官

任陸軍少尉

陸軍中尉

赤羽

友春

服部 尚

同

依願免本官

陸軍少尉

天野 祥亮

後醍院 良弼

○二月十一日分

任陸軍少尉

安田 逸史

○二月十二日分

任陸軍少尉

福谷 幹雄

同

同

同

白石 弘人

靜間 浩輔

森 利邦

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
出石	市川	宮崎	重富	町田	多賀谷	藤崎	石川	土肥	有山	河部	中居
敬一	孝徒	富雄	時宜	秀一	讓	誼樹	博	實信	郷藏	勝連	安行

○二月十三日分

任陸軍少尉

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
出石	坂谷	野口	那須	黒川	内藤	愛媛縣權參事大久保親彦	川村	川村	坂田	坂田	坂田
敬一	敬一	榮雄	正毅	壽人	基		益直	益直	之重	之重	之重

○二月十五日分

任陸軍少尉

依願免本官但位記 返上

同

村松

忠備

同

橋本

謙作

同

藤崎

繁樹

同

乾

直作

任廣島縣權令

敦賀縣權令正六位藤井勉三

○二月十八日分

任陸軍會計軍吏副

陸軍中尉 西島

敏

同

同

飯田

敬明

同

同

松田

尙正

同

陸軍省十等出仕服部保親

任陸軍少尉

田中

侍郎

任陸軍會計軍吏補

陸軍少尉

大橋

清直

同

同

太田

義隆

同

同

田中

新二郎

同

同

森本

惟清

同

同

高橋

義輝

同

同

青木

典則

同

陸軍省十一等出仕田所安廣

同

同

棚橋

照昌

○三月四日

〔達書〕

工 部 省

明五日横須賀造船所へ 臨幸ニ付 還幸之節其省所轄汽艦ニ 乘御  
被 仰出候條此旨相達候事

○ 海 軍 省

横須賀造船所ヨリ 還幸之節工部省所轄汽艦ニ 乘御被 仰出候條  
此旨相達候事

○ 開 拓 使

北海道ニ屯田憲兵ヲ被設候ニ付其使中官等左之通被置候條此旨相達  
候事官等載テ後ニ  
アレハ略之

〔第三拾七號布告〕輪廓附

北海道ニ屯田憲兵ヲ被設候ニ付開拓使中官等左ノ通被置候條此旨布告候事

准陸軍大佐 四等 准陸軍中佐 五等

准陸軍少佐 六等 准陸軍大尉 七等

准陸軍中尉 八等 准陸軍少尉 九等

准陸軍曹長 十一等 以上奏任官 准陸軍軍曹 十二等

准陸軍伍長 十二等

○

長崎梅ヶ崎祭典ニ付 勅 式部助 五辻 安仲

使參向被 仰付候事 千葉縣令 柴原 和

〔第三拾八號布告〕輪廓附

明治七年 月十一 第百貳拾三號布告國內回漕規則第十五條中船免狀船稅鑑札所持セサル者科料ノ條下へ左ノ通但書追加候條此旨布告候事

・國內回漕規則

第十五條

船免狀船稅鑑札所持セサル者科料

日本形船云々

西洋形漁船云々

西洋形帆走船云々

但拾石貳拾石等ノ端數モ右ノ割合ヲ以テ取立拾石未滿ノ石數ハ切捨ヘシ以下諸科料ノ算則總テ之ニ準ス



〔第貳拾七號達書〕

院 省 使 廳  
東 京 府

明五日横須賀造船所へ 臨幸三職供奉被 仰出候ニ付正院休暇候條  
此旨相達候事

任准陸軍大佐兼開拓少判官

開拓使五等 大山 重  
出仕正六位

任准陸軍中佐兼補  
開拓使六等出仕

開拓大主典永山 盛弘

任准陸軍少佐兼補  
開拓使七等出仕

開拓使八等出仕永山武四郎

任准陸軍大尉

開拓權大主典門松 經文

太政官日誌明治八年第二十八號

○三月五日

本日軍艦清輝號船卸式被爲行横須賀造船所へ 臨幸三職供奉 仰出

サレシニ付正院休暇

○三月七日

〔達書〕

清國上海領事館在勤申付候事 外務三等書記生蔡 祐良

〔第三拾九號布告〕輪廓附

明治八年日本帝國郵便爲替規則中郵便爲替ノ部第七十五條左ノ通改  
定本年四月二日ヨリ施行候條此旨布告候事

一爲替証書壹枚ノ金高ハ三拾圓迄ニ限リ端數ハ壹厘迄ニ限ルヘキ

事

〔第貳拾八號達書〕 輪廓附院 省 使 廳 府 縣

從來各廳雇入外國人雇期限中私願ヲ以テ歸國候節歸國日數ニ應シ月給半額等遣シ候向モ有之候處自今月給或ハ手當金ヲ遣候儀不相成候條此旨相違候事

〔第貳拾九號達書〕 輪廓附府

縣 東京府  
ヲ除ク

行政警察規則別冊ノ通相定候條本年四月一日ヨリ施行可致就テハ從前捕亡吏取締組番人等ノ名稱ヲ廢シ邏卒ト改稱可致此旨相違候事但捕亡費ヲ改テ警察費ト稱シ定額ハ先從前ノ通ニ候條出張所并吏員配置ノ儀ハ適宜タルヘク尤差向規則ノ通施行難致事情有之向ハ其段内務省ヘ可申出事

行政警察規則

○第壹章 警察職務之事

第一條 行政警察ノ趣意タル人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ

第二條 各府東京ヲ除ク 縣長官其事務ヲ提掌シ大屬以下ヲ分テ警察掛トシ之ヲ專掌セシメ便宜各所へ出張シ邏卒ヲシテ各部ニ分派シ巡邏查察セシム

第三條 其職務ヲ大別シテ四件トス

第一 人民ノ妨害ヲ防護スル事

第二 健康ヲ看護スル事

第三 放蕩淫逸ヲ制止スル事

第四 國法ヲ犯サントスル者ヲ隱密中ニ探索警防スル事

第四條 行政警察豫防ノ力及ハスシテ法律ニ背ク者アルキ其犯人ヲ探索逮捕スルハ司法警察ノ職務トス之ヲ行政警察ノ官ニ於テ行フルハ檢事章程并司法警察規則ニ照スヘシ

第五條 各出張所ニ派出セル警察掛官員ハ時々本廳ニ參會シ事務ヲ商議シ處分異同ナキヲ要スヘシ

第六條 警察掛官員ハ諸規則ヲ遵奉シ邏卒ノ勤怠ヲ監察シ各出張所ノ事務區々ナラサルヲ要スヘシ

第七條 非常ノ事件等不得止ノ場合ニ於テハ掛官員ヨリ直ニ警保頭へ報告スルヲ得ヘシ

第八條 警察官吏ハ公同一般ノ裨益ヲ計リ一家隱微ノ小惡ヲ發シ

可ラス且一己ノ功ヲ貪リ警察一般ノ目的ヲ愆ル可カラス

○第二章 邏卒勤方之事

第一條 第壹章第三條ヲ以テ職務ノ大目的トナスヘキ事

第二條 持區内ノ居民并道路行人ヨリ困難出來シテ救護ヲ乞フキハ何時ニテモ乞ニ應シ或ハ救護ヲ乞ハサルモ見聞次第力ヲ盡シテ防護スヘシ

但街路其外ニテ人命ニ係ル危難有之節ハ瞬速救護シ最寄ノ醫ヲ頼ミ治療ノ手續懇切ニ取計フヘシ

第三條 老幼廢疾婦人等ハ就中注意シテ保護スヘシ

第四條 持區内ノ大小往來筋及市街村落ノ位置區長戸長ノ宅等盡ク詳知スヘシ

第五條 持區内ノ戸口男女老幼及其職業平生ノ人トナリニ至迄ヲ  
注意シ若シ無産體之者集合スルカ又ハ怪シキ者ト認ルルハ常ニ  
注目シテ其舉動ヲ察ヘスシ

第六條 持區内ヘ他ヨリ移リ來ル者アラハ前條ニ隨テ速ニ之ヲ探  
知スヘシ

但右等ノ事ニ付權威ヲ以テ其人ヲ呼出ス等ノ儀ハ決シテ有之  
間敷勉メテ當人ノ覺知セサル様隱密ニ探偵スルヲ以テ警察ノ  
本意トス若己ムヲ得サルコアルハ自ラ行テ尋問スヘシ

第七條 布告布達等總テ新令ノ出ルニ付人心ノ信否ヲ考察シテ掛  
官員ニ報知スヘシ

第八條 巡邏中職務ニ關スル大小ノ事故ハ逐一手帖ニ記シ掛官員

ヘ報知スヘシ

第九條 非番タリト合圖アルカ又ハ臨時呼出ヲ受レハ早速其場ニ  
馳付ヘク平常其心掛アルヲ要ス

第十條 往來筋ノ妨害トナルヘキ物ヲ見ルルハ速ニ之ヲ取除カシ  
ムヘシ

第十一條 道路ノ荒蕪溝渠ノ淤塞及不潔物アレハ之ヲ戸長ニ告ケ  
掃除ノ手續ヲナスヘシ

第十二條 官舎橋梁道路其他公有之建造物破損スルルハ掛官員ニ  
報知スヘシ

第十三條 行人ニ道路或ハ其他ノ事ヲ尋問セラル、ルハ丁寧ニ教  
示スヘシ

第十四條 稚兒道ニ迷フアレハ之ヲ保護シ其居所不分明ナル者ハ之ヲ其地ノ戸長ニ預ケ之ヲ掛官員ヘ報知スヘシ若シ其居所分明ニシテ其特區内ナラハ直ニ之ヲ送致シ他ノ區ナラハ其地ノ區戸長ニ掛合送致ノ手續ヲナスヘシ

第十五條 芝居其他羣集ノ所ニハ出張シテ亂雜ヲ防制スヘシ

第十六條 放レ牛馬アレハ之ヲ便宜ノ所ニ留メ置キ其主分明ナル者ハ之ヲ附與シ然ラサルハ掛官員ノ指圖ヲ受ヘシ

第十七條 路上酒ニ酔ヒ失心スル者ハ之ヲ注意シ又ハ最寄人民ニ介抱セシメ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡スヘシ

第十八條 路上狂癪人アレハ穩ニ之ヲ介抱シ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡スヘシ

第十九條 路上ニ狂犬アレハ之ヲ打殺シ戸長ニ告ケ之ヲ取棄ル手續ヲナスヘシ

第二十條 道路河渠ニ死屍アルキハ其模様ヲ檢シ掛官員ニ報知シ指揮ヲ受クヘシ

第二十一條 獸畜ノ死骸アルキハ速ニ戸長ニ告ケ之ヲ取除ク手續ヲナスヘシ

第二十二條 鳥獸魚類其他飲食物ヲ販賣スル店ニ贗造腐敗ノ品之アルヤヲ常ニ檢査スヘシ

第二十三條 人家夜間戸締油斷ノ者アレハ速ニ之ヲ其主ニ知ラスヘシ

第二十四條 怪キ者ヲ見認ルキハ取糺シテ様子ニ依リ特區内出張所

ニ連行或ハ掛官員ニ密報シ差圖ヲ受クヘシ倉卒ノ取計アル可ラ  
ス

第廿五條 失火ノ節ハ邏卒失火ノ合圖ヲナシ一般ニ知ラシム且燒

失ニ罹ル家ハ其家人ヲ助ケ消防ノ事モ勤ムヘシ消防人己ニ集ル

ニ至レハ勉テ亂雜及ヒ竊盜ヲ防ク事ニ注意スヘシ

第廿六條 同斷ノ節第一ニ其人ヲ救ヒ出シ次ニ書類金貨等ヲ出ス

ヘシ又官廳其他區戸長等ノ宅ハ文書第一ニ取出スヘシ

○第三章 邏卒心得之事

第一條 專ヲ行儀作法ヲ正シクシ威權ケ間敷儀之ナクシテ區民ノ

侮慢ヲ受ケサル様可心掛事

第二條 法度規則ヲ確守シ上官ノ命令ヲ遵奉スヘシ決シテ職外ノ

事ヲ議スヘカササル事

第三條 同勤中ハ一心全體ト心得常ニ謙遜温順ヲ旨トシ忠實ヲ以

テ交誼ヲ盡シ職務ニ怠ラサル様互ニ獎勵スヘキ事

第四條 節儉ヲ守リ分限不相應ノ儀致間敷事

第五條 職務上ニ付上官ニ申立ノ事ハ總テ實直ヲ旨トシ愛憎偏倚

ノ儀決シテ有之間敷尤後日ニ至リ前言ヲ緘改スル儀無之様可心

掛事

第六條 巡邏中道路行人并ニ營業ノ者ノ妨ニ不相成様可心掛事

第七條 市中往來ノ者ヲ取扱ニハ柔和ヲ旨トシ辨ヘナキ者ハ殊更

穩ニ取扱ヒ決シテ凌辱ヲ加ヘ手荒キ處置致間敷事

第八條 取調ノ爲メ人家ニ至ル節ハ接對筋總テ懇篤ニ可致但シ公

私ノ分ヲ守リ狎レ々敷儀決シテ有之間敷事

第九條 巡邏中私ニ人家ニ立寄候儀ハ勿論徒ラニ市店ヲ詠メ職務ヲ怠ル間敷事

第十條 持区内ニテ金譚等頼入レ或ハ物ヲ買ヒ其價ヲ借ル等ノ儀決シテ有之間敷事

第十一條 出勤中醉態ヲ露ハシ又ハ婦女ヘ對シ戲ケ間敷儀等決シテ有之間敷事

第十二條 機密ノ筋ハ勿論職務ニ係リタル事ハ總テ他言致間敷事第十三條 公事出入等ニハ一切關係致間敷若シ強テ相頼候者アラ

ハ掛官員ヘ具申スヘキ事

第十四條 官ヨリ相渡サレタル得物ノ外兵器ヲ携ル儀ハ不相成且

相渡レタル品ハ大切ニ取扱フヘキ事

第十五條 得物ハ自身ヲ擁護スル具ト心得猥リニ人ヲ打擲致間敷候勿論兇暴人アリテ手ニ餘リ不得止節ハ格別ノ事

第十六條 巡邏中傍人ノ嘲哂スルヲアリト雖モ必ス耻尋ト思フヘカラス能ク忍耐シ相當ノ處置ヲナシ決シテ憤怒ノ色ヲ顯シ争闘ケ間敷儀致間敷事

第十七條 何様ノ事アリトモ職務上ニ付人民ヨリ謝物トシ金銀物

品ヲ受ルヲ有可ラサル事

第十八條 巡邏中ハ必ス役服ヲ着用シ能ク容姿ヲ正フシ他人ト同行シテ雜譚スヘカラサル事

第十九條 毎朝衣服冠物其他器械ヲ検査シ常ニ見苦シカラサル様

注意スヘキ事

第廿條 屯所ハ毎朝清潔ニ掃除スヘキ事

補司法省七等出仕

陸軍少佐從六位中尾捨吉

補權中教正

少教正 山科 祐玉

補少教正

權少教正 山 實辨

兼補權少教正

松尾神社大官  
司兼大講義 師岡 正胤

補權少教正

大講義 能仁 柏巖

叙從六位

正七位 河野 通

○正誤

本號ニ載スル所ノ行政警察規則第壹章ノ第三條ナル其第壹項中妨護ノ妨字ハ防ノ誤

同第貳章第五條ノ結末察ヘスシハ察スヘシノ誤

同章第六條但書ノ末文中尋間ノ間字ハ間ノ誤

同第三章ノ第拾六條中耻尋ノ尋字ハ辱ノ誤



○三月八日

〔達書〕

長崎縣

明治七年台灣蕃地處分之節陸海軍士官以下死亡之者其縣下梅ヶ崎埋  
葬地ニ於テ來二十一日御祭典被爲行候ニ付 勅使參向候條此旨相達  
候事

但諸事式部寮出張官員へ可承合事

○ 陸 軍 省

來二十二日長崎梅ヶ崎埋葬地御祭典ニ付熊本鎮臺歩兵一中隊出張被  
仰付候條此旨相達候事

但到着之上諸事式部寮出張官員へ可打合事

○ 海軍省

來二十二日長崎梅ヶ崎埋葬地御祭典之節同港碇泊之軍艦士官以下拜禮被差許候條此旨相達候事

○ 熊谷縣

其縣貫屬士族松澤正朔所持之馬上銃壹挺附屬彈藥共陸軍省へ獻納候段奇特之事ニ候條此旨可相達事

○ 和歌山縣

其縣貫屬士族渡邊湊所持之エンピール銃壹挺陸軍省へ獻納候段奇特之事ニ候條此旨可相達事

○ 從三位 龜井 茲監

貯藏之和銃十三挺エンピール銃十一挺彈藥共陸軍省へ獻納候段奇特

ノ事ニ候仍テ爲其賞別紙目錄之通下賜候事 目錄木盃壹個

○ 從五位 青山 幸宜

貯藏之スナイトル銃百挺附屬品彈藥共以下 目錄銀盃壹組

○ 同 清水 篤守

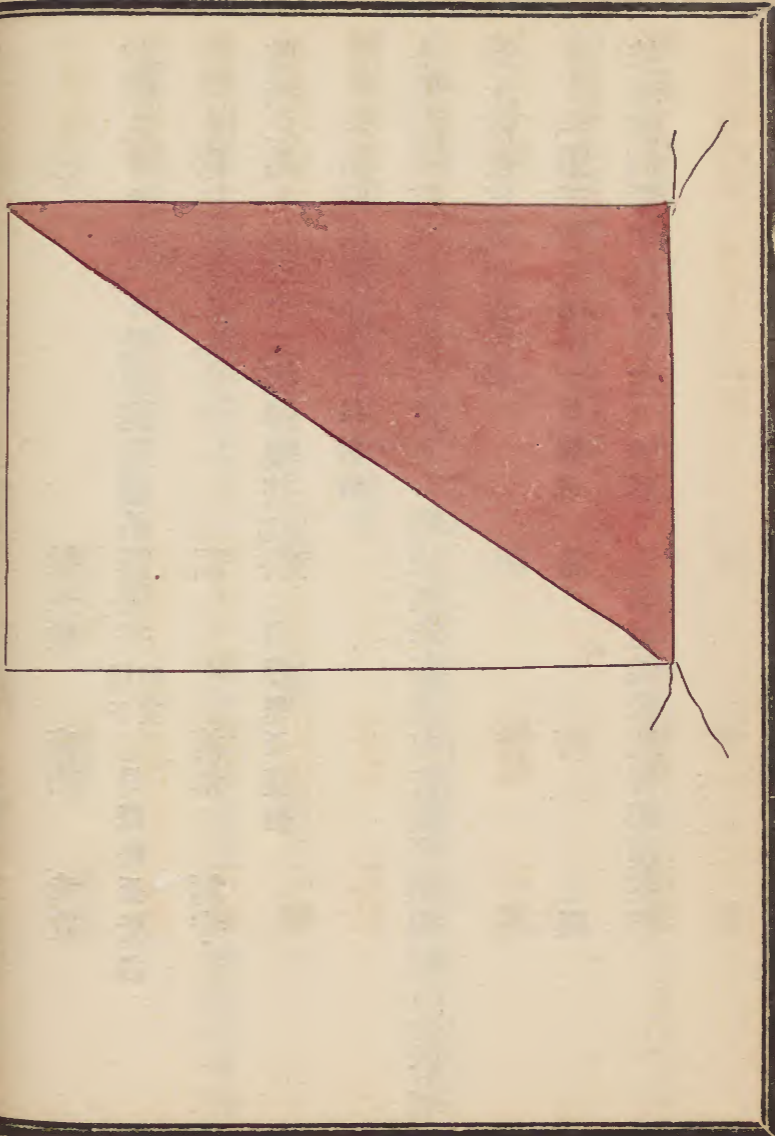
貯藏之馬上銃三十二挺彈藥共以下 目錄銀盃壹個

〔第四拾號布告〕輪廓附

今般回漕規則施行候ニ付テハ明治三年正月布告候商船規則中第拾項廢止候條此旨布告候事

〔第三拾號達書〕輪廓附 使 府 縣

地理寮測量標旗自今左ノ雛形ノ通改定候條此旨相達候事



任參議

從三位

木戶

孝允

任警保助

警保寮六等出仕石井邦猷

補警保寮七等出仕

警保大屬 栗屋 和平

補文部省四等出仕

文部省五等出仕西村茂樹

補權大教正

赤松 光暎

○明治七年三月八日分

叙正七位

島村

成允

○同年七月五日分

叙正七位

宮本

清寬

○明治八年二月十八日分

叙從五位

脇阪

壽

○同月二十一日分

任陸軍中佐

陸軍少佐

黒木

爲楨

同

同

與倉

知實

○同月二十四日分

叙從五位

正六位

石川

良信

叙從六位

田代

基徳

同

阪井

直常

同

八杉

利雄

大政官日誌明治八年第三十號

○三月九日

〔達書〕  
長崎梅ヶ崎祭典ニ付  
祭主被仰付候事  
陸軍中將 西郷 從道

〔第三拾壹號達書〕 輪廓附使 府 縣

明治七年<sup>十一月</sup> 第一百四拾七號達國史編修例則中ニ掲載候租稅ノ儀詳細  
ノ處ハ租稅寮ニ於テ可取調ニ付例則ノ分ハ反別何程元高何程及ヒ維  
新以來改正ノ大概ヲ記載可致此旨更ニ相達候事

〔第三拾貳號達書〕 輪廓附院 省 使 廳 府 縣

本年<sup>一月</sup> 第拾六號達府縣往復規程第六條へ但書追加候旨 第貳拾貳號ヲ  
以テ相達置候處更ニ全條左ノ通改正候條此旨相達候事

第六條

府縣へ可下渡金穀是迄郵送ヲ以テ取扱來候分ハ總テ内務省ヨリ其府縣へ郵送方可取扱事

但府縣ヨリ租稅其他上納ノ金穀ハ直ニ其主務ノ省へ郵送スヘキ事

○三月十日

〔達書〕

内

務

省

奈良縣管下東大寺其外寺院ニ有之勅封寶物之儀自今其省所轄被仰付候條永世保護之方法等見込至急取調可申出此旨相達候事

○

宮

内

省

奈良縣下東大寺寶庫中御物開緘ニ付右庫中塵埃ト記號有之古函内朽

腐之品今般博覽會事務局出張官員ニテ調査之上持歸夫々修補致シ後來考證之一端ニ相備候條此旨爲心得相達候事

但本文之趣其省ヨリ奈良縣へ可相達事

○

隱居被

聞食候事

從二位

清水谷

公正

家督被

仰付候事

正四位

清水谷

公考

〔第三拾三號達書〕

輪廓附院

省使

廳府縣

金穀出納勘定仕上ノ儀ハ其年限リ分界ヲ立テ決算致シ其年ニ属スル收入經費等翌年勘定ニ編入候儀無之ハ勿論ニ付爾後毎歲最末ノ勘定帳へ左ノ文例ニ照準シ記載可致此旨相達候事

經費勘定帳末文例

右者明治何年四月ヨリ六月マテ官省東京府ハ六月分トス諸費仕拂勘定仕上書  
面ノ通相違無之候就テハ明治何年七月ヨリ同何年六月迄ニ屬スル  
經費ニ於テ需要還納其他脱落等一切無之候也

長官

年號月

大藏 卿宛

官 姓名 印

貸渡金勘定帳

右者明治何年四月ヨリ六月迄東京府ハ六月分トス貸渡金受拂勘定仕上書面  
ノ通相違無之候就テハ明治何年七月ヨリ同何年六月迄ニ屬スル貸  
付及ヒ返納ノ金員其他脱落等一切無之候也

長官

年號月

大藏 卿宛

官 姓名 印

税外收入勘定帳

右者明治何年四月ヨリ六月迄官省東京府ハ六月分トス税外收入金穀勘定仕上  
書面ノ通相違無之候就テハ明治何年七月ヨリ同何年六月迄ニ屬ス  
ル税外收入上納ノ金員其他脱落等一切無之候也

長官

年號月

大藏 卿宛

官 姓名 印

○二月二十六日分

叙從五位

正六位

藤村

柴朗

叙正六位

從六位

堀江

芳介

叙從六位

正七位

河野

通行

同

同

木村

寛良

叙正七位

片岡

弘正

同

西川

經武



太政官日誌明治八年第三十一號

○三月十二日

〔達書〕

内務省

務

省

明治七年一第五號ヲ以テ海上衝突豫防規則布告候處于今往々衝突之  
患害有之趣ニ相聞候右ハ全ク舟人等心得方等閑ニテ規則之通點燈不  
致ヨリ生シ候儀ニモ可有之ニ付各管廳ニ於テ厚ク告諭シ且船燈製造  
販賣等需用者之爲メ差支無之様其方法設立之上其省へ可届出旨各地  
方へ可相達候事

○

大

藏

省

東京府下第八大區一小區青山南町鳳閣寺跡上地之内別紙圖面之通貳  
百八拾四坪餘官用地トシテ東京警視廳へ引渡度内務省伺之趣聞届候

條此旨可相心得事 別紙圖  
面略之

〔第四拾壹號布告〕 輪廓附

賞典祿處分ノ儀ニ付明治七年七月第七拾七號布告ノ旨モ候處右分與祿舊藩主ニ於テ與奪ノ權ハ無之候條増減或ハ期限延縮等自由ノ處分不相成候此旨布告候事

〔第三拾四號達書〕 輪廓附院 省 使 廳 府 縣

諸官員ヲ始メ身分進退伺出ノ向若シ他罪伺中ニテ未タ處斷無之歟或ハ既ニ處斷相濟候共同時ノ犯罪有之ニ於テハ其事由詳細別紙ニ記載シ可差出此旨相達候事

〔第三拾五號達書〕 院 省 廳

諸新聞紙官費ヲ以買入候儀自今可廢止此旨相達候事

但既ニ前金相拂置候分右限リ買上ケ候儀ハ不苦事

任參議 正四位 板垣 退助

任開拓中判官 開拓少判官正六位堀 基

同 同 西村 貞陽

補開拓使四等出仕 開拓使五等出仕山内提雲

同 同 荒井 郁之助

補開拓使七等出仕 開拓大主典岡本 長之

同 同 山口 顯

同 同 鈴木 大亮

○三月十三日

三月十三日

陸軍中佐 高柳 邦秀

〔達書〕

各通

陸軍省七等出仕奥 並繼

陸軍會計軍吏副福島行中

海軍中秘書古海 長義

長崎梅ヶ崎祭典ニ付祭主隨行出張被 仰付候事

任警保權助

警保寮七等出仕西村亮吉

任海軍少佐

海軍大秘書正七位兒玉利國

太政官日誌明治八年第三十二號

○三月十四日

〔第四拾貳號布告〕 輪廓附

明治七年五月 第五拾八號ヲ以テ米海外輸出禁止候處國內ノ都合ニ依リ  
來四月一日ヨリ海外輸出差許候條六年七月 第貳百四拾六號布告ノ通可  
相心得此旨布告候事

〔第三拾六號達書〕 輪廓附 府

縣

金穀出納期限釐正ノ儀明治七年十月十三日相達候ニ付テハ百般ノ収  
入及ヒ經費等一周年ノ總額ヲ豫算シ本年ヨリ每歲會計年度別册別册離形  
ノ通り計表其外帳簿共期限ヲ違ヘヌ大藏省へ可差出此旨相達候事別册  
但離形ノ内科目簿ハ差出ニ不及且明治六年十二月四百貳拾七號布告略之

金穀出納順序第十一條ニ揚クル經費概算帳ノ儀ハ爾後廢止シ明治七年十月十三日達第一條勘定帳差出期限ノ儀ハ別表ノ通可相心得尤明治八年分第一葉計表及ヒ内譯明細簿ニ限り達到着ノ日ヨリ三十日ヲ限り該地ヲ差立ヘキ事

一 本年ノ儀ハ順序創定ノ際且第一葉計表ニ附添スル内譯明細簿等送達期限モ差迫居候ニ付雛形ノ如ク調成ニ至リ難キ向ハ明治八年分經費豫算内譯明細簿ニ限り大科目給與或ハ廳中及ヒ小科目給與ノ内官員ノ月俸諸雇給廳中費中ノ需ノ金穀ヲ區分掲載候迄ニテ小科目中ノ細目諸雇給ノ内寫字生給通辨給其外ヲ分ツノ類ヲ云ヒ或ハヲ區分スルニ不及來ル明治九年分ヨリハ總テ雛形ノ通取調可差出事

任滋賀縣權參事

滋賀縣權少屬酒井 明

○三月十五日

○三月十七日

〔達書〕

内 務 省

橡木縣管内舊陣屋地外壹ヶ所ニテ貳千六百六拾八坪官廳地トシテ司法省へ可引渡旨明治七年七月中相達置候處右舊陣屋敷地ノ内壹坪差異有之候ニ付合計貳千六百六拾七坪ト可相心得此旨更ニ相達候事

○

大 藏 省

橡木裁判所敷地坪數差異之儀ニ付別紙之通内務省へ相達候條此旨可相心得事別紙略之

○正誤

本年日誌第十九號二月十八日內務省及大藏省へノ達書文中ニ富士見町六丁目壹番地貳千五百坪トアル五ノ字ハ貳ノ字ノ誤ナリ  
同年日誌第二十四號中ニ陸軍省十一等仕出下村修介トアル仕出二字ハ顛倒

太政官日誌明治八年第三十三號

○三月十八日

(達書)

内

務

省

京都府管下淀區裁判所敷地トシテ同府淀舊支廳別紙圖面ノ地所總計八百七拾三坪八分三厘官有地第貳種官用地ニ組入司法省へ引渡方可取計此旨相達候事

別紙圖  
面畧之

大

藏

省

○ 京都府管下淀區裁判所敷地トシテ同府淀舊支廳地所總計八百七拾三坪八分三厘官有地第二種官用地ニ組入司法省へ引渡方可取計様内務省へ相達候條此旨可相心得事

○三月十九日

任海軍大軍醫

鏑木

融

任海軍中軍醫

古賀

晋介

○三月二十日

隱居被 聞食候事

從五位

谷

衛滋

家督被 仰付候事

谷

益道

(第四拾三號布告)

本年八月中英國屬地オースタラリヤ洲メルボルン府ニ於テ博覽會有之ニ付望ノ者ハ出品差許候條博覽會事務局へ可申出此旨布告候事

○明治七年八月十一日分

任陸軍々醫副

陸軍々醫補守屋

一

○同年十一月五日分

叙正七位

川上

新章

○同月二十六日分

叙正七位

横田

棄

○明治八年二月十日分

任陸軍少尉

神代

清之進

○同月十五日分

任陸軍少尉

中村

敬三

同

中尾

浩藏

同

平野

毅藏

同

吉武

正輔

同

志賀

範之

同

吉川

元永

同

徳田

誠一

同

古志

正綱

○同月十七日分

依願免出仕

小倉縣七等出仕平井淳磨

○同月二十三日分

任陸軍少尉

淺井

清二

○同月二十四日分

叙正七位

名倉

知彰

○同月二十八日分

任陸軍大尉

陸軍中尉 溝部

素史

○同年三月一日分

免本官

陸軍々醫補大橋

辰

同

同

武田

直方

叙正七位

小林

三敬

○同月二日分

任陸軍大尉

陸軍中尉 莊司

恒胤

任陸軍中尉

陸軍少尉 渡邊

章

同

同

矢田

秀貫

同

同

堀

忠次

任陸軍會計軍吏補

同

横幕

直好

叙正七位

内田

正壽

○同月三日分

叙正六位

從六位

茨木

惟昭

同

同

厚東

武直

同

叙從六位

正七位

山田

武甫

叙正七位

吉澤

直行

同

宇野

富良

同

栗栖

毅太郎

○同月四日分

任陸軍大尉

陸軍省九等出仕藤村葆光

○同月五日分

任陸軍大尉

陸軍中尉

飯倉

好察

叙正六位

古賀

定雄

叙從六位

正七位

境

二郎

同

同

山根

秀介

○同月六日分

任陸軍會計軍吏補

陸軍少尉

小川

維時

○同月八日分

叙從五位

正六位

大山

綱良

叙從六位

正七位

林

隼之輔

同

同

兒玉

源太郎

叙正七位

田畑

常秋



同

田尻 務

○同月九日分

任陸軍少尉

陸軍省十一等出仕野島直好

叙從六位

米良 悔堂

○同月十日分

叙正七位

松平 太郎

○同月十二日分

補筑摩縣七等出仕

筑摩縣大屬渡邊 千秋

兼補權中教正

湊川神社宮 折田 年秀

○同月十三日分

補大教正

權大教正 養麿 徹定

叙正七位

町田 實一

○同月十七日分

依願免兼職

廣島縣大屬 兩森 精翁

○正誤

明治七年第四百四十四號日誌十月二十八日奈良縣へ達書中貫屬華族ノ

下ニ格字ヲ脱ス外十二名ハ二十名ノ誤リ同格松林爲秀外七名ノ九字

ハ衍ナリ

同年第百六十八號十二月十二日奈良縣及大藏省へ達書中貫屬華族ノ

下ニ格字ヲ脱ス

太政官日誌明治八年第三拾四號

○三月廿二日

(達書)

大藏省

東京府下第一大區拾小區築地入船町巡查屯所狹少ニ付別紙圖面朱線  
内之地所三拾坪官用地トシテ東京警視廳へ相渡度内務省伺之通聞届  
候條此旨爲心得相達候事別紙略之

○  
補勸業寮七等出仕 勸業大属 鈴木 利亨

補警視廳七等出仕 權少警視 坂部 寔

同 同 石原 近義

同 同 佐和 正

○三月廿三日

(達書)

華族ニ被列候事

從五位

松園

隆温

同

同

水谷川

忠起

同

同

芝小路

豐訓

同

同

栗田口

定孝

同

同

藤大路

納親

同

同

竹園

用長

同

同

穂積

俊弘

同

同

北河原

公憲

同

同

長尾

顯慎

同

同

中川

興長

同

同

今園

國映

同

同

藤枝

雅之

同

同

鹿園

亥五郎

同

同

松林

為秀

同

同

北大路

實慎

同

同

鷺原

量長

同

同

相樂

富道

同

同

芝亭

實忠

同

同

河邊

隆次

同

同

杉溪

言長

同 太秦 供康

同 南 岩丸

○ 奈 良 縣

其縣貫屬華族格之輩二拾二名今般華族ニ被列候條此旨相達候事

○ 各通

大 丹 務 省 藏 省

奈良縣貫屬華族格之輩二拾二名今般華族ニ被列候條此旨爲心得相達候事

(第三拾七號達書) 輪廓附 開港場無之諸 縣

金穀出納期限釐正ニ付本年四月ヨリ當分十二等官貳員増置候條定員

ニ加入出納課事務爲取扱候様可致此旨相達候事

任内務少輔 兼土木頭如故

内務大丞兼土木頭從五位 林 友幸

兼補七等出仕

權中法官 井上 毅

任内務大丞

滋賀縣令 松田 道之

任陸軍少尉

木村 才藏

同

伊藤 泰明

依願免本官

陸軍軍醫副千葉 義胤

同

陸軍軍醫補西 秋雄

同

陸軍劑官補山科 元行

補司法省七等出仕

伴 正順

太政官日誌明治八年第三拾五號

○三月廿四日

〔第三拾八號達書〕 輪廓附 院 省 使 廳 府 縣

内務大藏兩省間ニ地租改正事務局ヲ置キ地租改正ニ關スル一切ノ事務管掌セシメ候條此旨相達候事

○

補内務省七等出仕

熊谷縣權參事 津田 要  
正七位

補租稅寮七等出仕

租稅寮八等出仕南 保

○三月廿五日

〔達書〕

各通

海軍少軍醫小野寺 御郷

正五位 岡崎 國有

學校資トシテ金拾圓差出候段奇特之事ニ候依テ爲其賞別紙目錄之通  
下賜候事 目錄木盃一箇

○ 從五位 櫻井 忠興

學校資トシテ金貳百圓差出候段 以下同文  
目錄銀盃一箇

○ 從五位 堀田 正養

學校資トシテ金拾五圓差出候段 以下同文  
目錄木盃一箇

○ 從五位 松平 信安

○ 各通 同 松井 康載

學校資トシテ金貳拾五圓差出候段 同

○ 從五位 戸田 忠友

學校資トシテ金百五拾圓差出候段 以下同文  
目錄銀盃一箇

從五位 酒井 忠美

○ 各通 同 蒔田 廣孝

同 酒井 忠經

學校資トシテ金貳拾圓差出候段 以下同文  
目錄木盃一箇

從五位 本庄 宗武

○ 各通 同 酒井 忠道

學校資トシテ金百圓差出候段 以下同文  
目錄銀盃一箇

○ 從五位 酒井 忠道

學校設立之爲メ家屋一字差出候段 以下

○ 從五位 小笠原 忠忱

學校資トシテ金百八拾圓差出候段 同

○ 學校資トシテ金三圓五拾錢差出候段奇特ニ候事

從五位 小笠原 貞規

○ 明治七年十一月東京府下小石川大塚窪町失火之節罹災之者爲救助金

從五位 安藤 信守

五圓五拾錢并雜品差出候段奇特之事ニ候依テ爲其賞別紙目錄之通下  
賜候事 目錄木盃一箇

○ 從四位 本多 康穰

本年二月東京府下深川東六間堀町失火之節罹災之者爲救助金貳拾圓  
差出候段 同上

○ 從五位 細川 利永  
各通 同 水野 忠順

松平 武脩

本年二月東京府下深川東六間堀町失火之節罹災之者爲救助金拾圓  
差出候段 同上

○ 從五位 織田 信親

曾祖母壽祖母鶴母鈕儀明治七年七月豐岡縣下柏原町失火之節罹災之  
者爲救助米貳石三斗金一圓七拾五錢差出候段奇特之事ニ候依テ爲其  
賞別紙目錄之通三名へ下賜候事 目錄木盃一箇

〔第四拾四號布告〕 輪廓附

人民署名肩書ノ儀自今貫屬或ハ管下ノ文字ヲ除キ何府縣華族士族平民  
ト記載可致此旨布告候事  
但從來ノ諸規則及ヒ雜形中ニ掲載セル肩書ノ儀モ總テ本文ノ通可

相心得事

〔第三拾九號達書〕輪廓附 府

縣

諸公文中往々各地ノ方言及ヒ他方へ通セサル名稱等相用ヒ事理明暢  
ヲ欠キ夫レカ爲メ往復推問ヲ重テ候儀モ有之候條自今右方言名稱等  
相用ヒ候節ハ註解ヲ加ヘ可差出此旨相達候事

〔第四拾號達書〕同上 院 省 使 廳 府 縣

金穀出納勘定帳及ヒ内譯明細表共本年七月ヨリ別紙雛形ノ界紙ヲ可  
用尤明細表等ハ右界紙へ縱横細線ヲ畫シ相用候儀ト可心得此旨相達  
候事 別紙雛形略之

但界紙ノ儀ハ各廳ニ於テ彫製可致事

○

任准陸軍大尉

開拓使八等出仕家村住義

任准陸軍少尉

開拓中主典板鼻 歲豐

同

開拓權中主典千早 正路

同

同 荒城 重雄

同

開拓使十  
二等出仕 安田 安

○三月廿七日關

○正誤

本年日誌第三十一號中山内提雲ハ堤雲ノ誤ナリ



太政官日誌明治八年第三拾六號

○三月廿八日

〔達書〕

開拓中判官西村

貞陽

御用有之清國へ被差遣候事

○

從四位

井伊

直憲

官幣中社井伊谷宮御創立之節願之趣モ有之御手傳被 仰付候處悉皆

自費ヲ以造營候段奇特之事ニ被 思召候依テ爲其賞別紙目錄之通下

賜候事 目錄金千圓

〔第四拾五號布告〕 輪廓附

明治七年二月第廿一號布告解漁船并海川小廻船等船稅規則中第三則左

ノ通改定候條此旨布告候事

第三則

一耕作一途ニ相用ヒ候田舟及ヒ水害備ノタメ常ニ陸上ニ設ケ置候  
分又ハ橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ相用ヒ全ク他ノ稼方ニ不充船并船  
橋ハ別紙書式ニ倣ヒ願書差出船稅免除ノ捺印相受可申事

○三月廿九日

〔達書〕

大藏省

諸新聞紙官費ヲ以買入之儀自今廢止候旨本年三拾五號ヲ以相達候處  
今般左院申出之次第モ有之同院之儀ハ各種新聞紙一葉宛官費ニテ購  
求差許候條此旨可相心得事

○

東京府

其府士族稻生正道所持之エンピール銃拾五挺陸軍省ヘ獻納候改奇特

之事ニ候依テ爲其賞木盃一個下賜候條此旨可相達事

○

任權少判事

大解部 松本 正忠

○三月三十日

〔第四拾六號布告〕輪廓附

大藏省管船東京丸其他ヲ以テ上海并最寄各港ヘ郵便運送セシメ候儀  
モ可有之候條此旨布告候事

但其運送ノ期日等ハ驛遞寮ヨリ公告可致事

〔第四拾壹號達書〕同 院 省 使 廳 府 縣

明治七年五月第六拾壹號達月俸規則中第貳拾條第貳拾壹條左ノ通改定  
候條四月一日ヨリ施行可致此旨相達候事

但御用掛無等ノ出仕雇抱書記等ノ名義ヲ以テ出仕セシ者及ヒ邏卒門番等現今在職ノ者ハ月給日給ノ區別取調至急大藏省へ可申出事

第貳拾條

一各廳ノ適宜ニ因テ御用掛無等ノ出仕或ハ雇抱并書記等ノ名義ヲ以テ出仕セシムルモノ其他邏卒門番等給料ノ多寡ニ不抱月給ノ者ハ總テ前各條ニ準據スヘシ

第貳拾壹條

一同上ノ内日給ノ者及ヒ小使諸職人其他小者ノ類ハ給料ノ多寡ニ不抱雇入并放免等ノ月端日數ハ總テ日割ヲ以テ給與スヘシ

〔第拾貳號達書〕同

府

縣

本年二月第貳拾五號ヲ以テ府縣等外五六等被廢候儀ト可心得旨相達候處右ハ現今迄設置ノ向ハ來四月十五日限り可相廢且等外四等以上月俸引直ノ儀來四月十六日ヨリ改正可致此旨更ニ相達候事

但此達同日迄ニ到着不致向ハ到着次第改正可致尤一時施行シ難キ

ニ於テハ漸次施行ノ見込ヲ立テ内務省へ可申出事

〔達書〕

博覽會事務局

其局博物館ト改稱自今内務省ニ被屬候條此旨相達候事

○

内

務

省

博覽會事務局博物館ト改稱自今其省ニ被屬候條此旨相達候事

但澳國博覽會殘務相濟候迄右事務ニ限り從前之通正院所屬ヲ以澳國博覽會事務局ノ名目ヲ存シ置博物館中ニ於テ爲取調候條此旨可

心得事

〔第四拾三號達書〕輪廊附院 省 使 廳 府 縣  
博覽會事務局博物館ト改稱自今内務省ニ被攝候條爲心得此旨相達候  
事

但澳國博覽會殘務相濟候迄右事務ニ限り従前ノ通正院所屬ヲ以澳  
國博覽會事務局ノ名目ヲ存シ置博物館中ニ於テ取扱候事

〔第四拾四號達書〕同 府 縣

各府縣東京府ヲ除ク支廳ノ經費本廳ヨリ送附方及ヒ其勘定帳本廳ノ分ヘ編  
入ノ規則左ノ通相定候條本年七月分ヨリ施行可致此旨相達候事

各支廳經費送附方及ヒ支廳勘定帳本廳ノ分ヘ編入方規則  
一各支廳ノ經費ハ其費程ヲ定メ各支廳ニ於テ實際仕拂ハ勿論勘定

帳編成等ニ障碍ナキ様前以テ本廳ヨリ送致スヘシ

一本廳ヲ距ル五拾里外ノ地ニアル各支廳經費勘定帳ハ每歲七八兩  
月分ヲ本廳七月ヨリ九月マテ三ヶ月分ヘ編入シ九月ヨリ十一月  
マテ三ヶ月分ハ本廳十月ヨリ十二月マテ三ヶ月分ヘ編入漸次此  
例ニ準シテ編入シ三月ヨリ六月マテ四ヶ月分ハ本廳四月ヨリ六  
月マテ三ヶ月分ヘ編入スヘシ

但五拾里以内ノ地ニアル支廳ノ勘定帳ハ本廳ト同一ノ月ヘ編  
入スヘシ

一各支廳勘定帳本廳ノ分ヘ編入ノ例前項ノ如シト雖モ支廳ニ於テ  
ハ每一ヶ月ヲ區分シテ勘定帳ヲ製シ翌月二十日限り本廳ヘ發遣  
スヘシ

一各支廳ノ經費勘定帳ハ五拾里内外ヲ以テ本廳勘定帳へ編入方區  
 別アレハ勘定帳へハ支廳毎ニ何月分タル事ヲ詳記スヘシ  
 一歳尾三月ヨリ六月マテノ分ハ第二項ニ掲クル如ク各支廳トモ其年ノ勘定  
 帳へ編入シ全備ノ上大藏省へ送致スヘシ翌年ニ跨リ編入ノ儀ハ  
 不相成故ニ本廳ヲ距ル五拾里外ニ支廳アル府縣ノ勘定帳送致期  
 限ハ本支廳ノ距離百里ニ付日數十日ノ割合ヲ以テ延期スヘシ  
 一各支廳勘定帳編入方等前各項ノ如ク相定ムルト雖モ送附ノ便ナ  
 ル場所ハ期限ヲ待タス速ニ編入送致スヘシ  
 〔達書〕 外務二等書記官矢野二郎  
 來明治九年米國博覽會事務取扱被 仰付候事  
 但吉田全權公使ノ指揮ヲ可受事

陸軍少佐 桂 太郎

獨逸國在留公使館付被 仰付候事

○ 補内務省四等出仕 四等出仕 町田 久成  
從五位  
 補内務省五等出仕 兼勸業寮五等出仕如故 田中 芳男  
 補勸業寮六等出仕 六等出仕 關澤 明清  
 同 鹽田 眞  
 免出仕專補勸業寮六等出仕 六等出仕兼勸業寮六等出仕 山高 信離  
鑛山助  
 任鑛山權頭 正六位 大島 高任  
 補大教正 權大教正 稻葉 正邦  
 兼補權中教正 出雲大少社宮司兼權中教正 勝部 靜男

太政官日誌明治八年第三拾七號

○三月三十一日

〔達書〕

内務省

米國費拉特費府博覽會事務其省ニ於テ取扱可致此旨相達候事

○ 同 省

東京裁判所表圍屈曲地位不都合ニ付別紙圖面朱線之通百九坪圍込度

司法省上申之趣聞届候條官有地第二種官用地トシテ引渡方可取計此

旨相達候事 別紙略之

○ 大 藏 省

東京裁判所表圍屈曲地位不都合ニ付別紙圖面朱線之通百九坪圍込度

司法省上申之趣聞届官有地第二種官用地トシテ引渡方可取計様内務

省へ相達候條此旨可相心得事上

○ 各通 新 島 縣

其縣へ裁判所被置候條聽訟斷獄之事務司法省へ可引渡此旨相達候事

御用有之清國へ被差遣候事

外務省七等出仕瀨脇壽人清國へ被差遣候ニ付隨行申付候事

外務省九等出仕諸岡通義

〔第四拾七號布告〕輪廓附

明治七年二月第拾九號布告蠶種原紙規則第二條第三條第四條左ノ通改正及ヒ第五條第九條ハ廢止候條此旨布告候事

蠶種原紙規則

第二條

一 賣渡方之儀ハ毎年四月一日ヨリ五月三十一日迄ヲ限リ候條各地

二 方管轄限リ取纏メ蠶種製造人總代ノ者其管轄廳ノ添簡ヲ以テ最

寄賣捌所へ申立右日限ノ内ニ必買受可申事

第三條

一 買受方ノ儀ハ春蠶並夏蠶掛合等ノ種類區分相立テ總數取調製造

人人員調書共相添可申立事

但原紙直段ノ儀ハ春蠶ニ用ヒ候厚紙ハ千枚ニ付金五拾圓夏蠶

其外ニ用ヒ候薄紙ノ分ハ同斷ニ付拾五圓ト相定候條原紙受取

候節即時上納可致事

第四條

一蠶種出來上リノ節原紙贏餘有之候ハ、其地方管轄限リ取纏メ其  
年九月十五日迄ニ其管轄廳ノ添簡ヲ以テ最寄賣捌所へ差出代價  
下戻相願可申其儘捨置更ニ翌年ノ用ニ供シ候儀決テ不相成候萬  
一違犯ノ者有之ニ於テハ其品取上ケ原價二倍ノ科料取立可申事

○

依願免本官

石川縣令

内田

政風

御用滞在被<sub>レ</sub>仰付候事

從五位

内田

政風

任陸軍中尉

陸軍少尉

藏田

信一

○二月十四日分

任陸軍少尉

岩崎

鐘吉

○三月九日分

任陸軍中尉

陸軍省十等出仕中城直楯

○三月十五日分

叙正七位

岩田

直哉

○三月十八日分

兼補權少教正

玉祖神社宮  
司兼大講義

近藤

清石

○三月廿三日分

任陸軍少尉

渡瀬

昌邦

同

瀬戸口

重雄

同

伊集院

兼雄



同

同

分湖軍火場

○三月廿三日辰

兼藤原之孫五

○三月十八日辰

除五斗給

○三月十五日辰

分湖軍火場

母藤原 兼家

藤原口 重保

近藤 昌康

藤原大藏 兼家

藤原 兼家

淺田 尚德

藤原 兼家

太政官日誌明治八年第三十八號

○四月二日

(達書)

大

藏

省

東京府下第六大區八小區南本所番場町ニ於テ巡查屯所新築候ニ付同所貳拾三番地并東江寺境內別紙圖面朱引之通百六拾五坪官用地トシテ東京警視廳へ相渡度段内務省伺之通聞届候條此旨爲心得相達候事  
別紙圖面略之

免兼戶籍頭

内務大丞兼戶籍頭地理頭 杉浦 讓

兼任戶籍頭

内務大丞從五位松田道之

任海軍大軍醫

海軍中軍醫柴岡 孝德

任海軍中軍醫

海軍少軍醫河村

豐洲

任海軍少尉

華田

尙衛

任海軍少軍醫

海軍々醫副中村

道久

同

同

福田

純一

○四月三日 神武天皇御例祭

午前第八時朝御祭典其式略之

同第十時式部寮宮内省官員着床次三職院省使廳府縣勅任官着床次開

扉奏次神饌及御幣物ヲ供ス次祝詞式部頭之ヲ奏ス次御代拜御玉串ヲ奉ル

侍從長之ヲ勤ム次三職以下勅任官拜禮次式部寮宮内省奏任官判任官拜禮次

御幣物及神饌ヲ撤ス奏次閉扉次各退出ス

同第十一時 皇后宮御代拜女官之ヲ勤ム御玉串ヲ奉ル

同時ヨリ正午 皇族屬香間詣等參拜

午後第四時夕御祭典東遊其式略之

○四月四日

(達書)

陸 軍 省

先般佐賀縣下暴動之際兵事ニ斃候者共招魂社へ合祭被 仰付候處左  
之一名脱漏候旨内務省ヨリ上申候條前同様合祭之儀可取計此旨更ニ  
相違候事

福岡縣貫屬隊第 矢柄 到  
一大隊一番小隊

○ 外務大丞 鹽田 三郎

電信御用ニ付爲理事官魯國へ被差遣候事

○ 電信權頭 石井 忠亮

外務大丞鹽田二郎電信御用ニ付爲理事官魯國へ被差遣候ニ付隨行被仰付候事

(第四拾八號布告) 輪廓附

式部寮中伶人官等左ノ通改定候條此旨布告候事

十一等	十二等	十三等	十四等	十五等
大伶人	中伶人	權中伶人	少伶人	權少伶人

(第四拾五號達書) 輪廓附院 省 使 廳 府 縣

旅費定則第七章但書左ノ通改正候條此旨相達候事

第七章

一官船或ハ外國御雇船等ニテ云々

但賄料ハ旅費ノ一等ヨリ四等迄上等一日壹圓三拾五錢同五等

ヨリ八等迄中等一日九拾錢其以下等一日五拾錢ヲ賜ル可シ

尤御雇船等ニテ雇料中ニ賄料モ籠リ居候分ハ此限ニ非ス

○

免出仕專補勸業寮七等出仕

七等出仕兼勸業寮七等出仕

武田 昌次

○明治七年十二月二十二日分

叙正七位

本間 清雄

○明治八年二月十九日分

任陸軍會計軍吏副

陸軍省十等出仕中島昌福

任陸軍會計軍吏補

陸軍省十一等出仕宇都宮紀綱

追補... 出...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

太政官日誌明治八年第三十九號

○四月五日

〔第四拾九號布告〕輪廓附

明治七年<sup>十一月</sup>第一百貳拾三號布告國內廻漕規則第拾五條中港則違犯ノ者科料左ノ通改定候條此旨布告候事

港則違犯ノ者科料

日本形船  
西洋形帆船  
西洋形帆走船

金貳拾圓以內

但書從前ノ通

〔第四拾六號達書〕輪廓附府

縣

明治七年<sup>九月</sup>第百三拾壹號ヲ以テ相違候學校敷地ノ儀小學校ニ限り土

地ノ便宜ト教育ノ都合ニヨリ一校ヲ二校ニ分設候儀不苦候條其敷地  
貳百五拾坪ニテ不足候節ハ四百坪マテハ可下渡此旨相達候事

〔達書〕

大通 大藏省  
文部省

小學校敷地之儀別紙第四拾六號之通府縣へ相達候條此旨可相心得事

別紙前ニアレ  
ハ之ヲ畧ス

〔第四拾七號達書〕輪廓附府

縣 東京府  
ヲ除ク

本年三月第貳拾九號達行政警察規則第三章第七條中市中ノ二字削除候  
條此旨相達候事

〔達書〕

各通 内務省  
陸軍省

陸軍武官傷痍扶助及死亡之者祭筵并其家族扶助概則當分別册之通相  
定候條右條款ニ照シ處分致スヘク此旨相達候事 別册後ニ出セ  
ハ之ヲ畧ス

○

大藏省

陸軍武官傷痍扶助及死亡ノ者祭筵并其家族扶助概則當分之内別册之  
通相定候條此旨相達候事 別册後ニ出セ  
ハ之ヲ畧ス

〔第四拾八號達書〕輪廓附使

府 縣

陸軍武官傷痍扶助及ヒ死亡ノ者祭筵并ニ其家族扶助概則當分別册ノ  
通相定候條右條款ニ照シ處分可致此旨相達候事

陸軍武官傷痍扶助及ヒ死亡ノ者祭筵并ニ其家族扶助概  
則

第一條

戰鬪及ヒ公務中ニ於テ傷痍ヲ請ケ職務ニ堪ヘサル者ハ退隱ヲ命シ  
將校ハ官ヲ存ス 左ノ比例ニ因テ第一項第二項第三項ハ終身第四項ハ一時  
之ヲ給ス其員數ハ別表ニ掲ルカ如シ

第一項 兩肢ヲ失ヒ或ハ盲目トナル者

第二項 一肢或ハ一眼ヲ失ヒ及ヒ兩肢其用ヲ失ヒシ者

第三項 一肢其用ヲ失ヒ漸ク自己ノ用ヲ辨スルニ足ル者

第四項 職務ニ堪ヘスト雖モ前項ヨリ輕ク自己ノ用辨并

ニ營産ニ差支ナキ者

但傷痍ノ形狀此四項ニ止ラスト雖モ軍醫ノ検査ニ因テ  
其輕重ヲ酌量シ之ヲ比較スヘシ

## 第二條

第一項第二項第三項ノ扶助料ハ毎年六月十二月兩度ニ割合各府縣  
廳ニ於テ相渡第四項ノ扶助料ハ將校ニ在テハ陸軍省ニ於テ直チニ  
相渡シ其他ハ各府縣廳ニ於テ相渡スヘシ

但將校終身ノ扶助料ハ陸軍省ヨリ内務省ヘ送り其他ハ總テ内務  
省ニ於テ別途ニ相立テ各府縣廳ヘ配賦スヘシ

## 第三條

此扶助料ヲ受ルノ後平常ニ復シ再ヒ職ニ就キハ拜命ノ月ヨリ之ヲ  
止ムヘシ

## 第四條

此扶助料ヲ受ケ猶陸軍病院ニ入り療養ヲ願フ者ハ其費用都テ自費  
タルヘシ



第五條

第一條第二項ノ者本貫府縣下ニ居住シ當時ノ傷痍ニ根據シテ十二  
月間ニ第一項ノ症ニ變シ及ヒ第三項ノ者同時間ニ第二項ノ症ニ變  
スル等ノ如キハ其廳ヨリ左ノ証書ヲ添ヘテ陸軍省ヘ届出ヘシ同省  
ニテ審査ノ上相違ナキニ於テハ之ヲ上請シ増加ヲ得セシムヘシ

第一 本人傷痍ヲ受シ土地年月日及ヒ是迄何項ノ傷痍ニ  
テ扶助料ヲ收受セシ事

第二 變症ノ景況ヲ記シタル地方醫師ノ証書

右區戸長奥印シ府縣廳之ニ捺印ス

第六條

戰鬪及ヒ公務ニ因リテ死亡スル者或ハ此因由ヲ以テ十二月間ニ死

亡スル者ハ一時限り祭葬料ヲ給ス其額ハ表ニ掲ルカ如シ

第七條

凡前條ニ因テ死亡セル者ノ家族戸主ハ父母妻實子養子戸主ニハ本  
ニアラサル者ハ妻實子養子人死亡セシ次月ヨリ其家族ニ扶助料ヲ給ス其額ハ表ニ掲ルカ如シ

第八條

此扶助料ハ死亡セシ者戸主ナレハ其父母妻子ノ内へ戸主ニアラス  
シテ妻子アル者ハ其妻子ノ内へ年々表面ノ金員ヲ給ス但戸主ト戸  
主ニアラサルトヲ論セス妻子ニ給スルモノハ其妻再嫁スレハ之ヲ  
其子ニ給シ其子男子ナレハ滿拾七歲迄滿拾七歲以下ト雖モハ  
養子トナレハ止ム女子  
ナレハ滿拾八歲迄ノ間滿拾八歲以下ト雖モハ  
婚嫁スレハ止ム給スヘシ

第九條

戰爭中行方知レサル者死亡スルニ疑ヒナキ時ハ家族扶助祭筵料共之ヲ給ス

第十條

戰鬪及ヒ公務ニ因テ死亡スル者アレハ陸軍省ヨリ直ニ本人ノ本貫府縣廳ヘ報知シ左ノ証書ヲ出サシムヘシ

一本人戸主ナレハ父母妻ノ存亡有無及ヒ現在實子養子出生ノ年

月日ヲ記シタル書面

一本人戸主ナラサレハ父母ヲ除キ其他同上ノ書面

右何レモ區戸長與印シ府縣廳之ニ捺印ス

第十一條

戰鬪及ヒ公務ニ因テ傷痍ヲ受ケ本貫府縣下ニ居住シ十二月間ニ死

亡スル者ハ其廳ヨリ左ノ証書ヲ添ヘテ陸軍省ニ伺出ヘシ

一本人傷痍ヲ受シ土地年月日及ヒ是迄何項ノ傷痍ニテ扶助料ヲ

收受セシ事

一病中ノ景況ヲ記シタル地方醫師ノ証書

一此他第十條ト同様ノ書面

右何レモ區戸長與印シ府縣廳之ニ捺印ス

第十二條

前二條ノ者アル時ハ陸軍省ヨリ詳細之ヲ具狀シ且其祭筵料家族扶助料ノ給與アラン事ヲ上請スヘシ

第十三條

此家族ノ扶助料并ニ祭筵料共各府縣廳ニ於テ相渡スヘシ尤扶助料

ハ毎年六月十二月兩度ニ割合相渡スヘシ

但此金額ハ内務省ニ於テ別途ニ相立各府縣廳へ配賦スヘシ

#### 第十四條

將校ノ傷痍扶助料ヲ受ル者死没等ノ時ハ府縣廳ヨリ陸軍省へ届出  
同省ヨリ上申シ其他傷痍扶助料及ヒ家族扶助料ヲ受ル者死没再嫁  
等ニテ扶助料ヲ止ムヘキ時ハ府縣廳ヨリ陸軍省内務省へ届出内務  
省ヨリ上申スヘシ

#### 第十五條

家族扶助ハ第八條ノ如ク死亡スル者ノ父母妻子ニ限ルト雖モ祖父  
母或ハ幼少ノ弟妹在テ此者ニ依テ生活シ外ニ之ヲ養育スヘキ親戚  
モナク飢渴ニ及フヘキ者ハ府縣廳ニ於テ事實取糺シ陸軍省へ届出

ヘシ同省上申ノ上臨時ノ詮議ヲ以テ相當ノ扶助料ヲ給スル事アル  
ヘシ

#### 第十六條

海外へ出張セシ時病ニ罹リ死ニ至ルノ類ハ戦死ニアラスト雖モ臨  
時ノ詮議ヲ以テ祭筵料ヲ給ス

#### 第十七條

軍屬ハ武官官等ニ比較シテ扶助料及ヒ祭筵料ヲ給ス但十等官ハ少  
尉ニ准シ十四五等ハ伍長ニ准シ等外ハ兵卒ニ准シテ給ス

扶 助 祭 料 表

官 名	第 一 項 傷 瘡	第 二 項 傷 瘡	第 三 項 傷 瘡	第 四 項 傷 瘡	祭 料	家 族 扶 助 料
將 大	円五十二百三千	円十九百千	円十五〇千	〃	百 圓	円十七百四
將 中	円十四百二千	円 百 千	円十六百九	〃		円十九百三
將 少	円十八〇千	円十四百九	円 百 八	〃		円十六百二
佐 大	円十六百九	円五十二百八	円十九百六	〃	七 十 圓	円 九 百
佐 中	円十六百八	円十三百七	円十九百五	〃		円 六 百
佐 少	円十五百七	円 十 百 六	円十七百四	〃		円 三 百
尉 大	円十三百六	円 百 五	円十六百三	〃	五 十 圓	円 百
尉 中	円十七百五	円十三百四	円 百 三	〃		円 十 八
尉 少	円十六百五	円五十二百四	円十九百二	〃		円 十 七
長 曹	円 十 百	円 十 八	円 七 十 五	〃	三 十 五 圓	円 八 十 三
曹 軍	円 百	円 十 七	円 七 十 四	〃		円 八 十 二
長 伍	円 十 九	円 十 六	円 十 四	〃		円 五 十 二
兵	円 十 八	円 十 五	円 十 三	〃	円 十 三	円 十 二

太政官日誌明治八年第四十號

○四月七日

○四月八日

官幣大社氷川神社御例祭八月一日ニ改メラル

(達書)

内 務 省

千葉縣管下下總國千葉郡習志野原練兵場地所別紙圖面之通百五拾七萬七千四百五拾坪官有地第二種官用地トシテ陸軍省へ渡方可取計此旨相違候事 別紙圖面略之

○

大 藏 省

千葉縣管下下總國千葉郡習志野原練兵場地所別紙圖面之通百五拾七萬七千四百五拾坪官有地第二種官用地トシテ陸軍省へ渡方可取計旨

内務省へ相達候條此旨爲心得相達候事 別紙圖面略之

○ 大 藏 省

東京府下第五大區巡查屯所建築候ニ付同大區八小區淺草松清町崇福寺境内別紙圖面之通百五拾坪官有地第貳種官用地トシテ東京警視廳へ相渡度段内務省伺之趣聞届候條此旨爲心得相達候事 別紙圖面略之

(第四拾九號達書) 輪廓附府 縣

惡病流行ノ節貧困ニシテ醫藥相辨シ難キタメ非命ニ斃レ候者有之候テハ實ニ愍然ノ至リニ候條自今左ノ概則ニ據リ處分シ其時々内務省へ可届出此旨相達候事

○ 第一條

一惡病流行ノ節地方ニ因リ其流行ノ緩急見計ヒ醫員ヲ派出シ貧民

ヲ治療セシムヘシ且痘瘡流行ノ節モ右同斷種痘術ヲ施スヘシ

但時機ニ因リ官員出張ノ上區戶長ヲ指揮シ諸事行届候様注意致スヘシ

第二條

一醫員ノ手當ハ其技術ノ優劣ニ應シ一ヶ月拾五圓以內ヲ以テ勤日數ニ應シ支給スヘシ巡回滯留ノ日當ハ府縣管内旅費日當表八等以下ニ準シ支給スヘシ

第三條

一醫員派出ノ上ハ貧民ニ限ラス請求ニ應シ治療ヲ加ヘ身元可ナリノ者ハ必ス其藥價ヲ管轄廳へ納メシムヘシ

第四條

一貧民ニテ藥價等辨シ難キ分ハ用藥幾日代價何程ト毎一人詳細取調一村限り帳簿ニ記載スヘシ

第五條

一藥價并ニ醫員給料日當其他救濟ニ關スル一切ノ諸費ハ豫備金ヲ以テ繰替置決算ノ上納受可申出事

但藥價上納ノ分ハ別帳ニ記載シ可相納事

(第五拾號達書) 輪廓附 省 使 廳 府 縣

明治七年<sup>一</sup>第三號達諸官員宿代賜方規則第一條左ノ通改定候條此旨相達候事

宿代賜方規則

第一條

一東京ヲ除ノ外本廳支廳ノ別ナク寄留在勤ノ者ハ總テ宿代ヲ賜ル

ヘシ尤該府縣貫屬ニシテ奉職ノ者其官廳ヲ距ル貳里以內ノ地ニ

自己ノ邸宅アラハ宿代賜ハラサルヘシ

但各寮等ヨリ云々

(第五拾壹號達書) 輪廓附 院 省 使 廳

明治七年<sup>十二</sup>第百七拾三號ヲ以テ官用地不用ニ屬スル時ハ内務省ヘ

可引渡旨相達置候處該地上ニアル建物モ不用ニ屬スル時ハ併テ同省

ヘ引渡シ其旨可届出此旨相達候事

(第五拾貳號達書) 輪廓附 院 省 使 廳 府 縣

公書往復及ヒ永久貯藏ノ記録ニ用フル野紙自今別紙雛形ノ通十三行

ニ改彫可致尤添削等ヲ要スル草案用紙ハ各廳ノ便宜ニ可任此旨相達

候事 別紙雜  
形略之

但從前ノ郵紙殘餘ノ分ハ取交セ相用ヒ不苦候事

(第五拾三號達書) 輪廓附府

縣

縣治條例中左ノ通改正增加候條此旨相達候事

縣治條例

令 權令<sup>云々</sup>

縣内云々遵奉施行シノ下ニ「學事ヲ獎メ」ノ五字ヲ加フ

縣廳ノ事務分テ五課トナス其目

庶務課

社寺云々文書ヲ案シノ下「學校ノ事務」ノ五字ヲ削ル

學務課 順序庶務課ノ次

縣内學校ノ事務ヲ擔任シ教員并ニ學區取締等ノ進退ヲ掌

縣治事務章程

上款

第七條

全條削去

第三十二條

學制ニ關涉スル諸規程ヲ更正スル事

第三十三條

公學校開設ノ事

下款

第十七條

學校教員任免ノ事

第十八條

學資獻金寄附金ヲ許可シ及ヒ遣拂ノ事

第十九條

外國人ヲ學校教師ニ雇入ル事

第二十條

委托金例規ニヨツテ遣拂ノ事

(達書)

内

務

省

縣治條例中改正増補之儀第五拾三號之通相達候ニ付テハ各地方在來之官員ヲ以差操リ學務課專任ノ者相選教育ノ効相立候様可致旨其省

ヨリ地方官へ可相達事五拾三號達前ニ出ス



